

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第730集

ふたごじょう  
二子城跡発掘調査報告書

第一北上中部工業用水道浄水場建設事業関連遺跡発掘調査

2021

岩手県企業局  
(公財) 岩手県文化振興事業団



# 二子城跡発掘調査報告書

第一北上中部工業用水道浄水場建設事業関連遺跡発掘調査



## 序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、岩手県北上市の第一北上中部工業用水道浄水場建設に関連して平成30年度及び平成31年度・令和元年度に発掘調査を実施した、二子城跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査で、本遺跡は縄文時代には集落と狩り場、古代には集落、中世には城館が営まれていたことが明らかとなりました。特に、縄文時代の集落は、北上北部地域の縄文時代後晩期を考える上で貴重な資料を提供することができました。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査並びに報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました岩手県企業局、北上市埋蔵文化財センターをはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

令和3年3月

公益財団法人岩手県文化振興事業団  
理事長 高橋 嘉行

## 例 言

- 1 本報告書は、岩手県北上市坊館地区内に所在する二子城跡の発掘調査成果を取録したものである。
- 2 本遺跡の発掘調査は、第一北上中部工業用水道浄水場建設に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会の調整を経て、岩手県企業局の委託を受けた（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 岩手県遺跡登録台帳における遺跡コード・遺跡略号は次のとおりである。  
遺跡コード：ME46-2214 遺跡略号：FJ-18・19
- 4 発掘調査期間・調査面積・担当者は次のとおりである。  
平成30年度－調査期間：平成30年11月1日～12月20日 面積：1,655㎡  
担 当 者：北田 勲・西澤正晴・須原 拓・川村 英・河村美佳・藤田崇志・  
戦場由裕  
平成31年度・令和元年度  
－調査期間：平成31年4月4日～令和元年7月31日 面積：10,901㎡  
担 当 者：北田 勲・高木 晃・丸山直美・河村美佳・酒井野々子
- 5 室内整理期間・担当者は次のとおりである。  
整理期間：令和元年11月1日～令和2年3月31日  
担 当 者：北田 勲・丸山直美・河村美佳
- 6 本報告書の執筆分担は次のとおりである。  
Ⅰ：岩手県企業局 Ⅱ：丸山・北田 Ⅲ～Ⅴ：丸山・北田・河村  
Ⅵ：(株) 加速器分析研究所 Ⅶ：北田
- 7 各種業務委託は、次のとおりである。  
基準点測量：(有) 先先測量  
航空写真撮影：東邦航空 (株)  
放射性炭素年代測定：(株) 加速器分析研究所  
石器・石製品の実測：(株) ラング  
石器・石製品の石材鑑定：花崗岩研究会
- 8 本書では以下の地形図を使用した。  
[1/25,000 地形図 土沢・口内] (国土地理院)  
[1/50,000 地形図 花巻・北上] (国土地理院)  
[北上市都市計画図 (成田・更木・北上工業団地・昭和橋)]
- 9 野外調査及び室内整理にあたり、以下の機関等から御協力をいただいた。  
北上市埋蔵文化財センター
- 10 本遺跡の出土遺物及び諸記録類は岩手県立埋蔵文化財センターで保管している。
- 11 これまでに、調査成果の一部を調査概報等において公表しているが、本書の記載内容を正式なものとする。

## 凡 例

- 1 遺構図の用例は次のとおりである。
  - (1) 遺構実測図の縮尺は下記のとおりである。  
竪穴住居跡の炉、土器埋設遺構、焼土遺構 1/30  
竪穴住居跡、土坑、陥し穴状遺構、溝跡断面、粘土採掘坑 1/60  
溝跡平面 1/100、1/150、1/200、1/250  
各図版にはスケール及び縮尺を付した。
  - (2) 遺構実測図及び本文で示した座標は、平面直角座標X系に基づいて表示している。
  - (3) 推定線は破線で表した。また、スクリーントーンを使用して遺構の状況を表した（凡例図参照）。
  - (4) 遺構内の土器をP、石器・礫をSで示した。
  - (5) 層位は、基本層序にローマ数字、各遺構堆積土などにアラビア数字を使用した。
  - (6) 土層色調観察には、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」を使用した。
- 2 遺物実測図の用例は次のとおりである。
  - (1) 遺物実測図の縮尺は、縄文土器 1/3、石器 2/3・1/3・1/5・1/6、土製品 2/3、石製品 2/3・1/3、陶磁器 2/3 で表した。
  - (2) スクリーントーンを使用して、石器の使用痕を表した（凡例図参照）。
- 3 写真図版の用例は次のとおりである。
  - (1) 遺構写真図版については、基本的に平面及び断面写真をセットとし掲載した。
  - (2) 遺物写真図版については、縮尺は基本的に遺物実測図に準じている。

遺構使用トーン凡例

	焼土(弱) K20%
	焼土(強) K40%
	粘土 K10%
	硬化面 K30%

遺物使用トーン凡例

	石器
	敲打痕
	磨敲 K30%
	付着物 K70%
	付着物(鉄) K50%
	節理
	使用痕 K20%

# 目 次

I 調査に至る経過	1	3 古代～中世	57
II 遺跡の立地・環境	2	(1) 概 要	57
1 遺跡の位置	2	(2) 堅穴状遺構	57
2 地理的環境	2	(3) 城館に関連する遺構	59
(1) 遺跡周辺の地形・地質	2	4 中世以降	59
(2) 調査区の層序	4	(1) 概 要	59
3 歴史的環境	4	(2) 溝 跡	59
(1) 二子城の縄張り	4	(3) 柱穴状ピット	70
(2) 周辺の遺跡と過去の調査	12	V 出土遺物	74
III 調査・整理の方法	14	1 土 器	74
1 野外調査の方法	14	2 石 器	75
(1) 調査の方法	14	3 土 製 品	101
(2) 野外調査の経過	14	4 石 製 品	101
2 整理の方法	17	5 陶 磁 器	101
(1) 遺構の整理	17	VI 自然科学的分析	110
(2) 遺物の整理	17	1 放射性炭素年代測定	110
(3) 遺物写真の撮影	17	(1) 測定対象試料	110
(4) 整理の経過	17	(2) 測定の意義	110
3 広報活動	17	(3) 化学処理工程	110
IV 検出遺構	18	(4) 測定方法	110
1 全体の概要	18	(5) 算出方法	110
2 縄文時代	20	(6) 測定結果	111
(1) 概 要	20	VII 調査のまとめ	114
(2) 堅穴住居跡	20	1 縄文時代	114
(3) 土器埋設遺構	25	2 古代～中世	114
(4) 土 坑	27	報告書抄録	189
(5) 焼 土	43		
(6) 陥し穴状遺構	45		
(7) 粘土採掘坑	56		

## 図版目次

凡 例 図		第32図 溝 1・2	60
第1図 遺跡位置図	1	第33図 溝 3～6	61
第2図 遺跡位置図(拡大)	3	第34図 溝 7・9	63
第3図 基本層序柱状模式図	4	第35図 溝 11～16	65
第4図 遺跡周辺の治水地形分類図	5	第36図 溝 17～19、21・22	67
第5図 二子城想定図	6	第37図 溝 24～28	69
第6図 飛勢城実測平面図	7	第38図 現代に推定される溝	70
第7図 周辺の遺跡分布図	10	第39図 土器(1)	76
第8図 周辺の地形とグリッド配置図	15	第40図 土器(2)	77
第9図 調査全体図	19	第41図 土器(3)	78
第10図 部分図1(北区)	20	第42図 土器(4)	79
第11図 部分図2(中央区)	21	第43図 土器(5)	80
第12図 部分図3(南区)	22	第44図 石器(1)	82
第13図 竪穴 1～3	24	第45図 石器(2)	83
第14図 竪穴 4	25	第46図 石器(3)	84
第15図 土器埋設遺構 1～5	26	第47図 石器(4)	85
第16図 土坑 1～6、8～16	28	第48図 石器(5)	86
第17図 土坑 17～30	30	第49図 石器(6)	87
第18図 土坑 31～33、35～44	33	第50図 石器(7)	88
第19図 土坑 46～48、50～54、56～63、P176	35	第51図 石器(8)	89
第20図 土坑 64～67、71～77、陥し穴状遺構 25、溝 24・28	39	第52図 石器(9)	90
第21図 土坑 78～86	41	第53図 石器(10)	91
第22図 焼土 1～12	44	第54図 石器(11)	92
第23図 陥し穴状遺構 23・28・33・35、6～9	46	第55図 石器(12)	93
第24図 陥し穴状遺構 10～12、18～21、29	48	第56図 石器(13)	94
第25図 陥し穴状遺構 24・30～32・34・36	50	第57図 石器(14)	95
第26図 陥し穴状遺構 1～5、13	52	第58図 石器(15)	96
第27図 陥し穴状遺構 14～17・22・26、土坑 49	54	第59図 石器(16)	97
第28図 陥し穴状遺構 27	55	第60図 石器(17)	98
第29図 粘土採掘坑 1・2	56	第61図 石器(18)	99
第30図 竪穴 5	57	第62図 石器(19)、土製品、石製品	100
第31図 現況等高線図(坊館推定範囲)	58	第63図 陶磁器	101

## 表 目 次

第1表 二子城関連の郭・地点の調査履歴	8	第6表 石器観察表	106
第2表 周辺の遺跡一覧表	11	第7表 土製品観察表	109
第3表 遺構名対応表	16	第8表 石製品観察表	109
第4表 柱穴状ピット計測表	71	第9表 陶磁器観察表	109
第5表 土器観察表	102		

## 写真図版目次

写真図版1	遺跡遠景	117	写真図版38	陥し穴状遺構 21・29～31	154
写真図版2	遺跡近景 (1)	118	写真図版39	陥し穴状遺構 32・34・36	155
写真図版3	遺跡近景 (2)	119	写真図版40	陥し穴状遺構 1～4	156
写真図版4	竪穴 1	120	写真図版41	陥し穴状遺構 5・13～15	157
写真図版5	竪穴 2	121	写真図版42	陥し穴状遺構 16・17・22・24	158
写真図版6	竪穴 3	122	写真図版43	陥し穴状遺構 26・27、溝 1	159
写真図版7	竪穴 4	123	写真図版44	溝 1～3	160
写真図版8	竪穴 5	124	写真図版45	溝 3・4	161
写真図版9	土器埋設遺構 1～3	125	写真図版46	溝 3～6	162
写真図版10	土器埋設遺構 4・5、土坑 1・2	126	写真図版47	溝 7	163
写真図版11	土坑 3～6	127	写真図版48	溝 9・11・12	164
写真図版12	土坑 8～12	128	写真図版49	溝 12・14～16	165
写真図版13	土坑 13～15	129	写真図版50	溝 12～16	166
写真図版14	土坑 16～19	130	写真図版51	溝 17～19	167
写真図版15	土坑 20～23	131	写真図版52	溝 21・22・24	168
写真図版16	土坑 24～27	132	写真図版53	溝 24・25	169
写真図版17	土坑 28～31	133	写真図版54	溝 25・26	170
写真図版18	土坑 32・33・35・36	134	写真図版55	溝 26・28、粘土採掘坑 1・2	171
写真図版19	土坑 37～40	135	写真図版56	西側谷	172
写真図版20	土坑 41～44	136	写真図版57	現況ほか	173
写真図版21	土坑 46～49	137	写真図版58	現況、作業風景、調査区全景	174
写真図版22	土坑 49～52	138	写真図版59	調査区全景	175
写真図版23	土坑 53・54・56・57	139	写真図版60	土器 (1)	176
写真図版24	土坑 58～61、P158	140	写真図版61	土器 (2)	177
写真図版25	土坑 62～65	141	写真図版62	土器 (3)	178
写真図版26	土坑 66・67・71・72	142	写真図版63	石器 (1)	179
写真図版27	土坑 73～75、陥し穴状遺構 25	143	写真図版64	石器 (2)	180
写真図版28	土坑 76～79	144	写真図版65	石器 (3)	181
写真図版29	土坑 80～83	145	写真図版66	石器 (4)	182
写真図版30	土坑 84～86、焼土 1	146	写真図版67	石器 (5)	183
写真図版31	焼土 1～4	147	写真図版68	石器 (6)	184
写真図版32	焼土 5～8	148	写真図版69	石器 (7)	185
写真図版33	焼土 9～12	149	写真図版70	石器 (8)	186
写真図版34	陥し穴状遺構 23・28・33・35	150	写真図版71	石器 (9)	187
写真図版35	陥し穴状遺構 6～9	151	写真図版72	石器 (10)、土製品、石製品、陶磁器	188
写真図版36	陥し穴状遺構 10～12	152			
写真図版37	陥し穴状遺構 18～20	153			

## I 調査に至る経過

二子城跡は、第一北上中部工業用水道浄水場建設事業に伴って、その事業区域内に存在することから発掘調査を実施することになったものである。

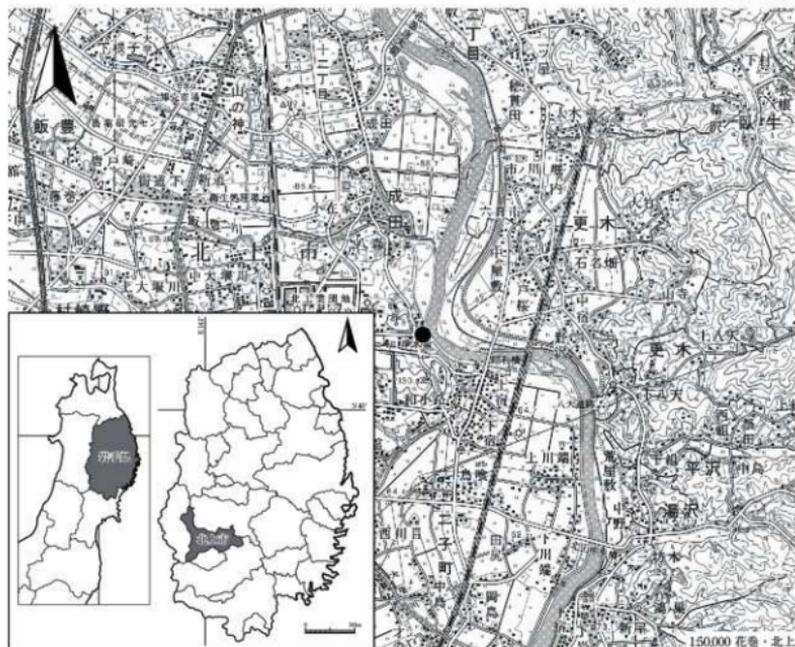
岩手県企業局が経営する第一北上中部工業用水道事業において、今般、工業用水需要のさらなる増加が見込まれることから、これに対応するため、新たな浄水場を建設することとしたものである。

二子城跡は、岩手県教育委員会作成の県遺跡台帳登録済、周知の遺跡である。当事業の施工に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、県企業局から県教育委員会に対し、平成30年6月4日付企業業第74号「埋蔵文化財の試掘調査について（依頼）」により試掘調査の依頼を行った。

依頼を受けた県教育委員会は平成30年8月20日から24日までに試掘調査を実施し、工事に着手するには二子城跡の発掘調査が必要となる旨を平成30年9月7日付教生第860号「埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」により回答した。

その結果を踏まえて県企業局は県教育委員会と協議を行い、発掘調査を公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの受託事業とすることとした。これにより平成30年10月12日付で岩手県企業局長と公益財団法人岩手県文化振興事業団理事長との間で委託契約を締結し、二子城跡の発掘調査を実施することとなった。

(岩手県企業局業務課)



第1図 遺跡位置図

## II 遺跡の立地・環境

### 1 遺跡の位置

二子城跡は岩手県北上市二子町坊館地内に所在し、国土地理院発行 50,000 分の 1 地形図「花巻」、  
「北上」の図幅に含まれ、北緯 39 度 20 分 7 秒、東経 141 度 8 分 10 秒に位置する。本遺跡調査区は、  
中世に和賀郡を広く治めていた和賀氏の本拠「二子城」の一部、「坊館」に該当する。

二子城跡（別名：飛勢城）は北上川西岸の独立丘陵および河岸段丘上に築かれた県内最大の中世城  
館跡で、全体規模は南北約 2.3km、東西約 1 km を測る。北側を東流する飯豊川により区切られ、東側  
は南流する北上川による比高差 10 m 超の段丘崖と接する。南側は近世に行われた一大干拓事業<sup>(註1)</sup>  
によって景観を様変わりさせているが、かつて二子城時代は北上川の氾濫平野上に形成された大沼  
（後谷地）が水を満々と湛え、南の防御線として存在した。西側には南流する飯豊川支流と、同支流  
の旧河道、秋子沢から北方に延びる覚禪坊谷地などによって、一帯にぬかるんだ谷地が形成されてい  
た（第 5・6 図参照）。このように東西南北を自然の要害によって守られた立地に、二子城が築かれ  
た理由があったと考えられる。 （丸山）

註1 鈴木隆太郎 1913『二子村誌』第十八 108 頁 城東文庫・及川書房 昭和 31 年（1956）『飛勢城物語』33・34 頁 北加書社

### 2 地理的環境

#### （1）遺跡周辺の地形・地質

北上川は流路延長 249km、流域面積 10,150km<sup>2</sup> を誇る、東北地方一の大河である。源泉は岩手郡岩手  
町御堂にあり、奥羽山脈および北上山地に源を発する支流を合わせながら岩手県内を南流し、宮城県  
の平野部を経て河口に至る。河川沿岸には平野が広く発達するが、盛岡市北部と一関市南東部の 2 箇  
所で狭窄部を流れる。この 2 箇所によって北上川は上・中・下流に分けられる。北上川は中流域にお  
いて、壮年期の急峻な地形を呈している奥羽山脈と、それとは対照的に老年期に入り緩慢な地形と  
なっている北上高地の間を流れる。北上盆地は北上川とその支流の土砂運搬作用および開析作用に  
よって形成されたものであるが、奥羽山脈に源をもつ支流による流出土砂が北上高地からに比べて圧  
倒的に多いので、北上川は盆地の東側に偏った流れとなっており、西側には奥羽山脈沿いに複合扇状  
地と河岸段丘が、東側は準平原である北上高地の残丘の丘陵が発達している。

北上市周辺においても、こうした地形上の特徴は明瞭に見受けられる。北上市周辺の地形は、北上  
川を境として、西部の扇状地性の台地群と東部の小起伏山地を含む丘陵地帯の二つに区分される。西  
部の台地群は、奥羽山脈から東流する河川が洪水と流路の変更を繰り返して形成した扇状地や、北上  
川の旧河床が段丘化したもので、段丘群は高位のものから順に西根段丘・村崎野段丘・金ヶ崎段丘に  
区分されるが、地域によっては村崎野・金ヶ崎段丘は更に細分される。現在はこれらの台地群を刻ん  
で、和賀川およびその支流の夏油川の両岸に幅 1～2 km の谷底平野が見られる。東部では、一部に台  
地が発達する地域があるものの大部分は標高 200～300 m 内外の丘陵地で、その中に小起伏山地が散  
在する。北上川沿いでは幅 1～4 km の平野が開けており、北上川の流路変遷をうかがうことのできる  
旧河道と自然堤防地形が残存する。



第2図 遺跡位置図(拡大)

本遺跡のある二子地区は、北および東は北上川を境とし、西は旧奥州街道、南は江戸時代初期に和賀川から引かれた用水路である新堰川を境界とし、更木地区、飯豊地区、黒沢尻地区と接している。北西部に標高112mのツツ森と、これに次ぐ二子の地名の元となった「八幡山」「秋葉山」の二つの小山がある。これに続いて西部から南端までの境界に沿った幅数百m以内の台地は村崎野段丘に区分される。それ以外の二子地区の大部分は標高約60～70mの平坦地で、旧河道と自然堤防、氾濫平野が複雑に入り組んだ地形となっている。(丸山)

## (2) 調査区の層序

第3図に基本層序柱状模式図を示した。調査区は北上川右岸の河岸段丘上に立地しており、北上川がくの字に蛇行する外側に遺跡があることから遺跡東側は10～20mの段丘崖が形成されたと推察される。本遺跡も北上川の氾濫時に徐々に削られたと考えられ、川に面する遺構は既に失われている可能性がある。本遺跡の西側にはツツ森があり、この丘陵から土砂が流入した可能性もあるが、本遺跡とツツ森の間には深い谷が入り込んでいたと見られ、これに区切られた本遺跡には流入土は大きく堆積しなかったと考えられる。黒褐色土が未発達なのは流入土の少ない低丘陵を呈していることに由来していると推定される。Ⅰ層は、近年の人為的な造成や耕作により見られる。Ⅱ・Ⅲ層の黒褐色土のうち、Ⅱ層は北区のみに認められ、溝1・2はこの上面から掘削されている。Ⅲ層は縄文時代後期や晩期の遺物を少量含む層で、下層のⅣ層褐色土上面で該期の遺構が検出される。Ⅴ層黄褐色粘土質土の上面は縄文時代以降の最終遺構検出面で、重機で表土を剥いだ後の大半の箇所は本層位上面で遺構が検出される。Ⅴ～Ⅵ層地山は、陥し穴状遺構など深い遺構の壁面に確認される層位で、Ⅵ層には黒沢尻由来と見られる黄橙色テフラを混入する。(北田)



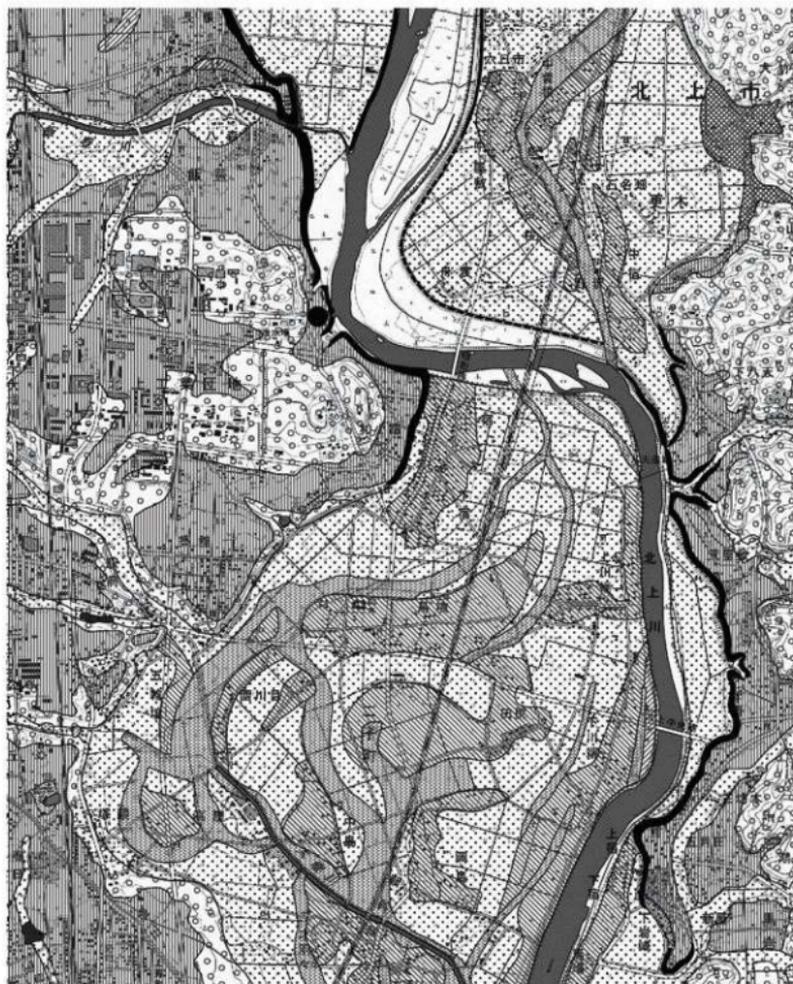
第3図 基本層序柱状模式図

Ⅴ層黄褐色粘土質土の上面は縄文時代以降の最終遺構検出面で、重機で表土を剥いだ後の大半の箇所は本層位上面で遺構が検出される。Ⅴ～Ⅵ層地山は、陥し穴状遺構など深い遺構の壁面に確認される層位で、Ⅵ層には黒沢尻由来と見られる黄橙色テフラを混入する。(北田)

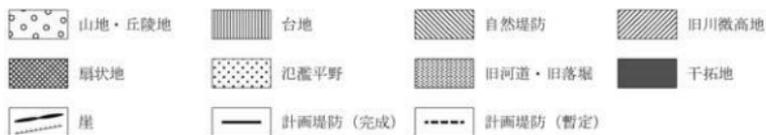
## 3 歴史的環境

### (1) 二子城の縄張り

城を構成する郭群は、3つの立地に分かれて構築されている。標高100mを超える独立丘陵上には、詰めの城である「八幡山」、西の鎮護の「秋葉山」、北の物見台とされる「ツツ森」が立地する。八幡山の頂上からの眺めは良好で、北は花巻（鳥谷ヶ崎）方面から遠く東根山・岩手山を眼前におさめ、東から南にかけては更木方面一帯から追手門、大沼のある後谷地方面までを見渡すことができる。南西から西側に向けては「秋葉山」、北西から北側に向けては「ツツ森」からの眺望が開けており、丘陵上に築かれたそれぞれの郭が敵の動向を監視する物見台の役割を相互に果たしたものと想定される。

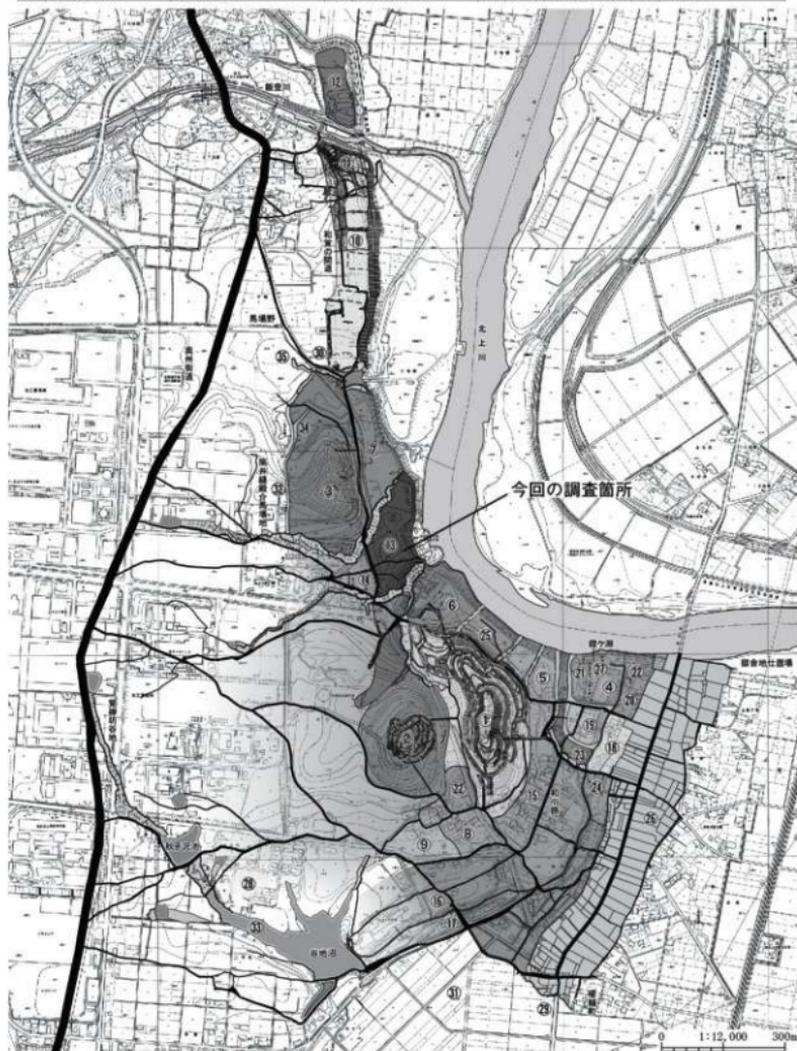


1 : 25,000 土沢・口内

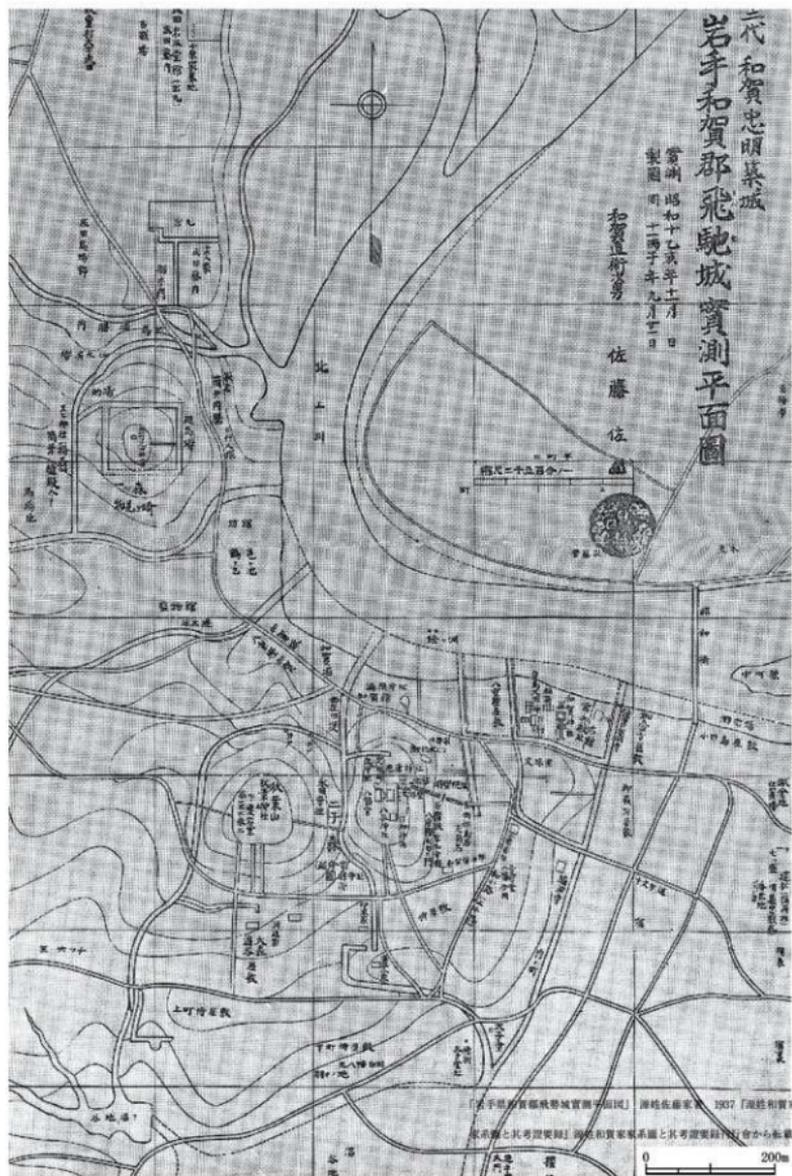


第4図 遺跡周辺の治水地形分類図

1 八幡山（飛勢ヶ森）	8 大森屋敷	15 侍屋敷	22 永明寺跡	29 油平門
2 秋葉山（元愛宕）	9 渋谷屋敷	16 上町侍屋敷	23 山ノ神社	30 綱手門
3 一ツ森（物見ヶ崎）	10 成田岩田堂館跡	17 下町侍屋敷	24 遍照寺	31 後谷地
4 白鳥館（城主居館）	11 八森館	18 御藏坊屋敷	25 遍照寺跡	32 一夜堀
5 八重葎屋敷	12 成田館	19 文珠院	26 宿（城下町）	33 齋藤堀
6 加賀館	13 坊館（正法寺跡）	20 御台方屋敷	27 和賀神社	34 くつ清水
7 筒井内膳屋敷	14 監物館	21 白鳥大明神	28 齋藤九郎右衛門屋敷	35 内膳堀



第5図 二子城想定図



第6図 飛勢城実測平面図

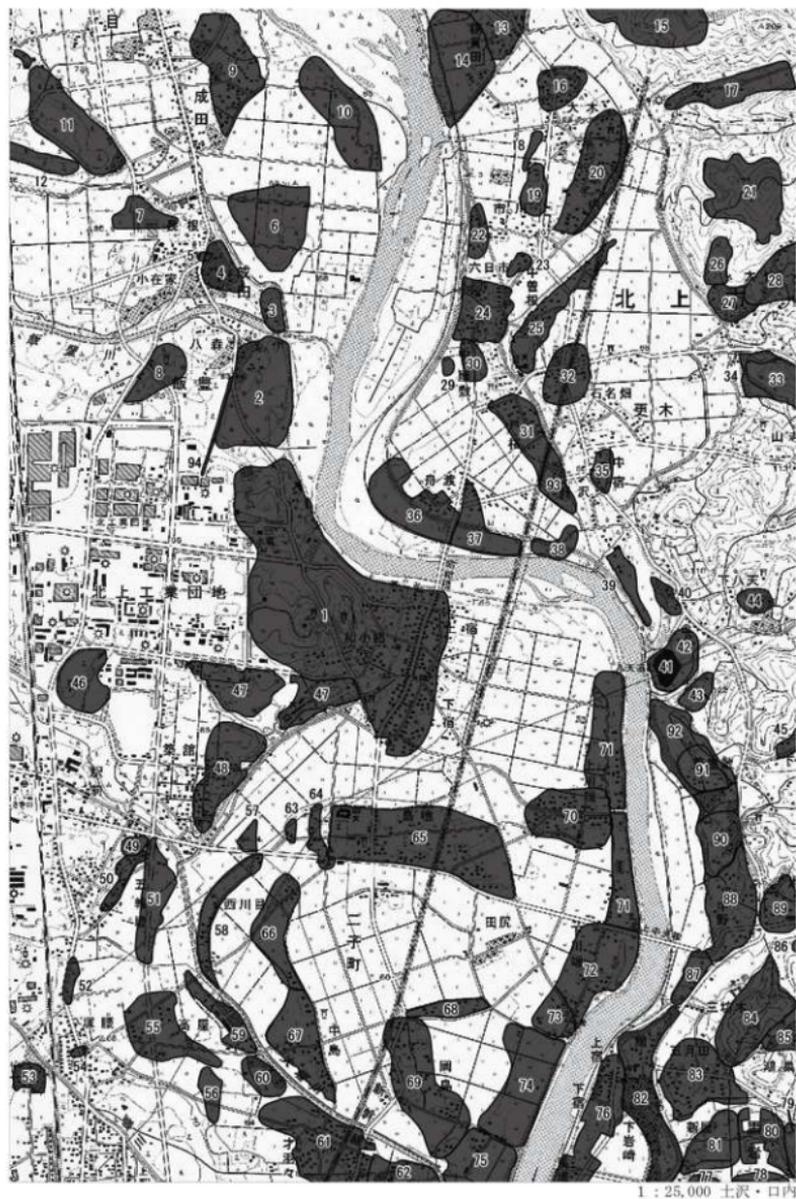


No.	築・地点	原因	調査期間	面積	遺構	遺物	調査機関	発行年	書名
14	白鳥館 (N・L区)	内容確認	平成13年 7月3日～ 25日	25㎡	中世の惣地蔵跡、堀跡・土居、 独立柱建物跡10棟、柱穴43カ 所	中国産青磁・磁付(14世紀後～ 15世紀初、16世紀後～17世紀初)、 土師瓦・大形瓦、古瓦葺遺構、 陶磁陶磁器の年代幅は13世紀後 ～17世紀初で、14世紀後～17世 紀初のものが多い	北上市教 育委員会	2004	『二子城跡』北上市埋蔵文化財調査 報告第65集
	白鳥館 (L・M区)		平成14年 3月19日～ 7月29日	144㎡			北上市教 育委員会	2004	『二子城跡』北上市埋蔵文化財調査 報告第65集
	白鳥館 (O・P区)		平成15年 11月12日～ 12月15日	30㎡			北上市教 育委員会	2004	『二子城跡』北上市埋蔵文化財調査 報告第65集
15	五輪壇	内容確認	平成13年 10月4日～ 11月23日	96㎡	中世後半～近世初期の火葬場遺 構。墓に伴う副葬2基、磁器の 落ち込み1箇所、薬石5箇所、 志願5基、火葬跡のまるとまり2 箇所、土坑4基	永楽清宮・東永清宮、鉄製品	北上市教 育委員会	2004	『五輪壇遺跡』北上市埋蔵文化財調 査報告第66集
16	成田四田区	緊急地方道路整備事 業成田東本地区	平成19年 2月22日～ 11月16日	4,800㎡	縄文時代の陥し穴9基、平安時 代の方形瓦溝1基、中世の堀跡 1基、土居1基、独立柱建物跡 9棟、遺跡2基、時期不明の土 坑12基	縄文土器・弥生土器・石部、平安 時代の土師器・須恵器・鉄製品	(国) 平手 歴史文化財 典事課調査 報告文化財 センター	2008	『成田四田区緊急道路整備調査報告書』 国史館文書調製部540集
17	長洲街道	北上工業団地造成	平成30年 6月7日～ 7月下旬	約600㎡	街道の構造、街道脇の土手、縄 文時代の陥し穴1基	明記無し	北上市教 育委員会	未刊	

北上川西岸の河岸段丘上には重臣屋敷群・侍屋敷群・寺院跡などが独立丘陵の裾野を取り巻くように存在している。重臣屋敷については、持ち主の名前が判明しているものはそれほど多くはないが、飯豊川と北上川で区切られた空間の外側に位置し、二子城北端の出域的な役割を担ったと考えられる「成田館」(註1)や二子城家老を務めた筒井内膳・縫殿助父子の屋敷跡と伝わる郭、同じく「斎藤堀」の名の由来となった斎藤九郎衛門の屋敷跡と伝わる地点などが伝承と共に伝わっている。「侍屋敷」については八幡山・秋葉山より南に広がる丘陵裾野からおおむね段丘縁辺までの地点が該当すると推定され、北上川の段丘崖を挟んで上段に「侍屋敷」・「上町侍屋敷」の名が見える(同図参照)。

「坊館」「永明寺跡」は寺院跡に該当する。「坊館」は、和賀氏の祖先が居城を更木から飛勢ヶ森に移した時、坊館の場所に「正法寺」を建立し、和賀氏の祈禱所としたものである。しかし「正法寺」は奥州仕置き兵の乱で一切を焼失することとなり、その後現在の「金剛山遍照寺」の場所に寺号を変えて再興されたと伝わる(註2)。第6図の坊館の区画に見える「鶴ヶ池」「亀ヶ池」の名称は、関連する記述として天保2年の「二子物語」の中に「鶴ヶ池、亀ヶ池トテ池有也」、大正2年(1913)の「二子村誌」にある監物館の項に「館址に鶴ヶ池・亀ヶ池の二小池あり、今は埋没して僅かに痕跡を止むるのみ。此地和賀の土、監物と称するもの館址にして鶴亀を飼養せるは前述の小池なり」とあり、この資料が元になっていると考えられる。「永明寺跡」は同じく更木から対岸の二子城に居を移した時に飛勢ヶ森と秋葉山の間の森合というところに移り、和賀氏代々の保護を受けていたとされる寺院の跡である。現在の梅澤山永明寺については、天文4年に現在地に再興されたものという。

城主居館である「白鳥館(古館・御館)」は、北上川の屈曲点の段丘上に立地する。白鳥館の名称は「二子村誌」の中に見え「今の白鳥館なり、里人御館(おたて)と称す。和賀氏の常の御殿を建てたる処なり」とある。南に隣接する文珠院とともに、周囲150m×250mの範囲を二重堀によって区画された唯一の空間で、重要な郭であったことがうかがえる。白鳥館の西側には現在も白鳥大明神が祀られている。和賀氏本家が深く信仰していたとされ、和賀氏発祥の地の宮城県刈田郡から刈田郡白鳥庄(しらとりのしょう)の鎮守を移転したものと伝承されている。白鳥館の中央に位置する「和賀神社」は昭和10年に宿出身の実業家及川銀太郎氏の篤志で創建されたもので、祭神として和賀一族の祖霊を祀る。現在、県道清水野～村崎野線が通っている地点については平成13年から15年にかけて行われた発掘調査の結果、白鳥館と文珠院の郭間を区切る堀であったことが判明している(註3)。



第7図 周辺の遺跡分布図

第2表 周辺の遺跡一覧表

No.	遺跡No.	遺跡名	種別	時代
1	ME46-2214	二子城	集落跡・城跡跡	縄文・中世
2	ME46-1221	成田岩田家館	散布地・城跡跡	縄文・弥生・古代・中世
3	ME46-0292	成田館	城跡跡	中世
4	ME46-0169	下成田	集落跡	縄文・平安
5	ME46-0167	成田一里塚	一里塚	近世
6	ME46-0242	成田Ⅲ	散布地	平安・縄文・古代
7	ME46-0146	成田長根	集落跡	平安
8	ME46-1126	成田	集落・遺跡	古代・縄文
9	ME36-2280	成田Ⅱ	散布地	古代
10	ME36-2285	成田Ⅰ	散布地	古代
11	ME36-2191	沖Ⅱ	集落跡	古代
12	ME46-0110	小中野	散布地	縄文
13	ME36-2313	穂貫田	集落跡	古代
14	ME36-2371	駒板	集落跡	縄文・平安
15	ME36-2319	蓮藤館	城跡跡	中世
16	ME36-2377	大木	散布地	縄文・古代
18	ME46-0315	山口	集落跡	平安
19	ME46-0335	小川原敷	集落跡	縄文・平安
20	ME46-0318	大木塚ノ内	散布地	平安
21	ME47-0036	大竹庵寺	寺院跡	平安
22	ME46-0343	市の川Ⅰ	散布地	平安
23	ME46-0374	市の川Ⅱ	散布地	平安・近世
24	ME37-2076	長志田	散布地	縄文
24	ME46-0392	六日市	集落跡	弥生・平安・近世
25	ME46-0396	中曾根	集落跡	平安
26	ME47-0065	大森	散布地	平安
27	ME47-0085	大竹Ⅲ	散布地	旧石器・縄文
28	ME47-0077	童子洞	散布地	縄文
29	ME46-1321	中の原敷Ⅱ	散布地	平安
30	ME46-1312	中の原敷Ⅰ	散布地	平安
31	ME46-1354	戸板	散布地	縄文・弥生・平安・近世
32	ME46-1326	石名畑	散布地	平安
33	ME47-1028	船山	散布地	縄文
34	ME47-1028	栗水館	城跡跡	中世
35	ME46-1368	中曾	散布地	縄文
36	ME46-1200	舟渡Ⅰ	散布地・集落跡	縄文・弥生・平安
37	ME46-2314	舟渡Ⅱ	集落跡	平安・近世
38	ME46-2306	野沢Ⅱ	集落跡	縄文・弥生・平安・近世
39	ME47-2051	八天北	集落跡	平安
40	ME47-2032	引久保館	城跡跡	中世
41	ME47-2072	下久野館	城跡跡	中世
42	ME47-2062	八天	集落跡	縄文
43	ME47-2064	牛嶽	散布地	縄文
44	ME47-2036	天王館	城跡跡	中世
45	ME57-0008	沢目	散布地	縄文
46	ME46-2183	伊勢	散布地	近世

No.	遺跡No.	遺跡名	種別	時代
47	ME46-2283	秋子沢	集落跡	平安
48	ME56-0220	築部	散布地	平安
49	ME56-0165	五輪塚	墳墓	中世
50	ME56-0184	南田Ⅱ	散布地	縄文
51	ME56-0195	南田Ⅰ	集落跡	縄文・平安
52	ME56-1142	明神Ⅰ	散布地	古代
53	ME56-1099	下春木場	集落跡	縄文
54	ME56-1161	二子一里塚	一里塚	近世
55	ME56-1155	高層Ⅰ	散布地	古代
56	ME56-1189	高層Ⅱ	散布地	古代
57	ME56-0251	塚ノ川Ⅰ	散布地	縄文・古代
58	ME56-0189	塚ノ川Ⅱ	集落跡	平安・近世
59	ME56-1138	明神Ⅱ	集落	縄文・平安
60	ME56-1280	野田Ⅱ	散布地	縄文
61	ME56-2213	野田Ⅰ	集落跡	縄文・弥生・平安
62	ME56-2249	中居俣Ⅱ	集落跡	平安
63	ME56-0254	鳥塚Ⅲ	散布地	古代
64	ME56-0254	鳥塚Ⅱ	散布地	古代
65	ME56-0259	鳥塚Ⅰ	集落跡	古代
66	ME56-1101	西川目	集落跡	平安
67	ME56-1263	中島	集落跡	縄文・古代
68	ME56-1340	相野野	散布地	古代
69	ME56-1289	岡島	集落跡	縄文・弥生・古代
70	ME56-0346	上川Ⅱ	散布地	古代
71	ME56-0349	上川Ⅰ	散布地	平安
72	ME56-1338	下川端	集落跡	平安
73	ME56-1329	尻引	集落跡	縄文・弥生・平安
74	ME56-1385	中村	集落跡	平安
75	ME56-2343	千鳥	集落跡	平安
76	ME56-1388	黒岩前	集落跡	縄文・弥生・平安
77	ME57-3043	片丹	散布地	縄文
78	ME57-3047	四十九里Ⅲ	散布地・墳墓	縄文・中世
79	ME57-3029	四十九里Ⅱ	散布地	縄文
80	ME57-3028	四十九里Ⅰ	散布地	縄文・平安
81	ME57-3013	菅田	集落跡	縄文・平安
82	ME57-3011	黒岩城	散布地・城跡跡	縄文・平安・中世
83	ME57-1083	白山庵寺	寺院跡	平安
84	ME57-1056	港Ⅲ	散布地	縄文・平安
85	ME57-1058	港Ⅱ	散布地	縄文・弥生・古代
86	ME57-1120	神行田	散布地	縄文
87	ME57-1023	三塔水館	城跡跡・散布地	中世・縄文
88	ME57-0055	三塔水	集落跡	縄文・平安
89	ME57-0097	湯沢Ⅰ	集落跡	縄文・平安・近世
90	ME57-0065	小田高館	城跡跡	中世
91	ME57-0024	平沢館ノ内	城跡跡	中世
92	ME57-0013	烏森	集落跡	縄文・平安
93	ME46-1386	野沢Ⅰ	集落跡	縄文・平安
94	ME46-1159	奥州街道・成田道	街道	近世

白鳥館の南側には二重堀で囲まれた「文珠院」と呼ばれる郭が連続しているが、この郭については「二子物語」の中で「此西之山ハ和賀時代之時、愛宕堂建給ふ所也。今ニ石塔之跡有ナリ。和賀没落之後、御堂を置置候得共、嵐に吹落て今ハ八幡山ノ東成文珠院屋敷ニ文珠堂ト愛宕堂ト被建置ル也。今ハ愛宕山江秋葉堂建也。此山之西南ニ當て一休和尚之文珠堂被立候跡有、今ハ八幡之東文珠院之所江奉移シナリ」の記述がある。一休和尚が建てたとされるお堂の伝承については享保11年頃(1726頃)に書かれた「和賀郷村誌」内に「文珠堂荒迹」「五輪壇文珠堂」の記述が見える(註4)。「二子物語」によれば、これが後に白鳥館の隣接区に移築された「文珠院」の引用の元ということになるのか。

一方、「二子村誌」には文珠院について「古館の南なり、近年迄愛宕堂ありしが、今は村社の境内に遷し奉れり。此地何人の館なりしか明ならず、或は白鳥館の内かとも思はる、要害の構なり。」とある。この頃には、一休和尚の…という記述は見えず、愛宕堂が近年まであったという事と、要害の構えであることから白鳥館の一部と考えられる、という内容が述べられているのみである。

文珠院の南に隣接する二重堀の外郭には堀が途切れて土橋状を呈する出入口施設がある。これを入るとその奥には「山ノ神社」が祀られた小規模な空間が存在する。

さらに段丘下の沖積平野には、「上町侍屋敷」からつづく「下町侍屋敷」が立地し、その更に東側には「御蔵坊屋敷」また、城主居館である白鳥館の位置する段丘縁の下は、城主の母親の屋敷「御台方屋敷」があったと伝わる一角が存在する。また、一番東側には街道を取り巻くように「宿」と呼ばれる城下集落が形成されている。(同図参照) (丸山)

#### 参考文献および註釈

- 註1 戸部正直 1698『奥羽永楽軍記 卷三十五』近藤敷風編 190『史蹟叢書』史ノ第八巻 近藤出版部 所収  
 「其勢(和賀勢)百八十餘人森ツ後ニアテ、小川ヲ前ニシテ岩田堂ニ陣ヲ張ルニ寄テ(南部勢)行懸ニ成田藩内々陣ヲ燒焼シ夫ヨリ岩田堂ニ取勝ル」という記述があること、八森を管に下して置かれていたのは船倉川、成田藩の館というのは成田館であったのではないかと推定による。
- 註2 富岡理雄 天保2年(1831)『二子物語』及川肇義 昭和31年(1956)『戦国城物語』34頁 北叢書社
- 註3 北上市教育委員会 2004『二子城跡』17頁 北上市埋蔵文化財調査報告書第65集
- 註4 松井道興 享保11年頃(1726頃)『和賀郷村誌』

### (2) 周辺の遺跡と過去の調査

岩手県登録台帳によると、平成30年12月31日現在で北上市には登録遺跡が554遺跡確認されている。このうち、二子城を中心として25,000分の1の版面に収まる94遺跡を掲載した。個別の遺跡の内容については第2表を参照されたい。また、二子城の郭やそれに関連する地点の調査が昭和41年から14遺跡、22地点にわたって行われている。これまでの調査履歴をまとめたものが第1表である。この中で、今回の調査地点の過去の調査である坊館遺跡と、隣接する遺跡である物見崎遺跡・監物館跡の調査について、調査成果の概要を記載する。

昭和52年の坊館跡の調査は北上市教育委員会が実施し、今回の調査区内の中央区と南区の間にある導水管部分と下水道終末処理場の建物建設部分を対象に調査が行われた。調査から、縄文時代の溝状土坑(本報告の陥し穴状遺構)1基、性格不明の土坑4基を確認した。遺物は、縄文時代早期の田戸下層式を主体に、蛇王洞Ⅱ、明神裏Ⅲ式に相当する土器10数点、石器20数点を出土した。導水管部分から縄文時代の遺構が確認されたが、中世など他の時代の遺構・遺物は見つからなかった。また、南東側の建物建設部分はトレンチ調査を行ったが、遺構・遺物は皆無とのことである(北上市教委1977)。

昭和63年の坊館跡の調査は当センターが実施し、今回の調査区に隣接する地点を対象に行われた。調査から、縄文時代後期後葉の堅穴住居跡1棟と後期末葉～晩期初頭の堅穴住居跡1棟の計2棟を検

出し、この他に住居跡と同時期の土器埋設炉1基と焼土遺構1基、溝状の陥し穴状遺構2基、縄文時代の土坑6基（このうち、1基は墓坑と推定）、縄文時代以降で近代初頭までの間と考えられる建物跡様の土坑55個、柱穴状小土坑19個を確認した。遺物は、縄文時代早期、後期～晩期初頭の土器、土製品（土偶1点）、平安時代の土師器、近世～近代の陶器、瓦器、石器、石製品（石棒石剣類・石製円盤）、金属製品（鉄鏃か1点）を出土した。主に縄文時代の遺構のみが検出され、城館に伴う遺構は確認されなかった。確認された建物跡様の土坑群については今回の調査でも検出され、近現代の養蚕のために栽培された桑畑の痕跡と推定される（(財)岩文壇 1989）。

また、平成元年の物見崎遺跡・監物館跡の調査も当センターが実施し、今回の調査区の市道を挟んだ西側に隣接する地点を対象に行われた。調査から、縄文時代前期前葉の堅穴住居跡14棟と後期の堅穴住居跡2棟、弥生時代初頭の堅穴住居跡2棟の計18棟を検出した。この他に、後期以降の土坑1基、近世以降の炭窯跡5基、中世と推定される土器状遺構1条、集石状遺構1基、溝跡1条を確認した。遺物は、縄文時代前期前葉、中期前葉、後期の土器と、弥生時代初頭、後期の土器、土製品（土偶5点・円盤状土製品1点）、石器、陶磁器5点（中世の染付碗1点含む）を出土した。縄文時代前期前葉の遺構は今回の調査でも確認されており、分布域に広がりを持つ。また、中世の遺構・遺物が見つかっており、本遺跡の年代にも関連すると考えられる（(財)岩文壇 1990）。

本遺跡周辺の戦国時代～安土桃山時代の様子について、北上市立博物館刊行の『和賀一族の興亡総集編』51頁から以下に抜粋する。

「二子城の搦手は馬場野と呼ばれる飯豊川にかけての北側平坦地です。この一帯は一つ森（物見ヶ崎）を中心にして監物館、坊館、内膳館といった、寺院や家臣屋敷跡と思われる平坦地が取り巻き、その端はくつ清水（現在のしみず斉園）から流れる内膳堀でした。この付近は和賀氏一族が慶長5年（1600）に花巻城攻め（和賀氏は天正18年（1590）に豊臣秀吉によって二子城を追放され、その年に一時奪還したもの、翌年の再仕置によって完全に追放されました。その後、領地奪還の思いから伊達政宗を頼り、その決起が慶長5年でした。この年は関ヶ原の戦いで、日本全国騒然とし、和賀一族はこの争乱の年に南部側の拠点花巻城を攻撃したのです。これを決行した障地でした。当時すでに二子城は朽果てて籠城適わず、わずかに残った内膳の筒井縫殿助の屋敷に集結したと伝えられています。一夜堀といって近郷近住の人をかき集めて堀を一夜に掘り上げたという伝承もあり、慶長5年時のそうした修築が考えられる地です。しかしここに筒井氏の屋敷が残っていたということは、ここまでが往事の城内であり、筒井氏はその搦手口の守備を担い、当時、この搦手口から稗貫領へと通ずる主要道が貫き、城外の北をさらに成田氏が守っていたという配置が考えられます。

発掘調査では、しみず斉園付近から空堀跡が発見されました。これなどは一揆勢が花巻城攻めの本陣とした工事跡のようです。馬場野にも一部堀跡が認められ、和賀勢はこの一帯までにわか仕立ての障地とした可能性が大了。そして飯豊川右岸には八王子森という出崎があり、川を渡って成田藤内の居館がありました。こうした本城周囲の何重という防備は他の大名クラスの城館にも考えられることであり、城外であっても家臣屋敷を点在させ、有事には急遽集結できる態勢にあったことと想われます」（北上市博 2000）。

（北田）

参考文献 (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター→(財) 岩文壇

北上市教育委員会 1977『二子城跡発掘調査報告書』文化財調査報告書第21集

北上市立博物館 2000『六 戦国期から安土桃山時代にかけての城館と軍団』『和賀一族の興亡 総集編』北上市流域の自然と文化シリーズ(21)

(財) 岩文壇 1989『坊館発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第145集

(財) 岩文壇 1990『物見崎遺跡・監物館跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第157集

### Ⅲ 調査・整理の方法

#### 1 野外調査の方法

##### (1) 調査の方法

今回の調査区は、生コン工場跡地と導水管部分に区切られた3地点で、生コン工場跡地北側の調査区を北区、生コン工場跡地南側から導水管部分までを中央区、導水管部分から南側を南区と呼称する。

調査地は北上川右岸の河岸段丘上にある標高77～80mの平坦面及び緩斜面地で、調査対象面積は12,556㎡である。現況は山林で、人工的に植林した杉林とこれに接する雑木林であった。また、中央区西側に開けた箇所があり、昭和には畑が作られていたと考えられる。西側谷部分は、昭和20年代までは深い谷であったがその後埋め立てられ、昭和40年代には現況と同様に平坦に造成が行われたと見られる。昭和50年代前半には既に工場としての利用が行われている。

調査は、伐採作業の進捗と浄水場工事工程に合わせて平成30年度に北区1,152㎡と中央区北側503㎡の計1,655㎡を行い、残りの中央区5,700㎡と南区5,201㎡の計10,901㎡を平成31年度・令和元年度に行った。

各遺構の調査方法については、陥し穴状遺構や土坑、ピットなど小型の遺構は二分法で行い、堅穴住居跡などの大型の遺構や複雑な堆積を呈する遺構は、随時四分法などを用いて行った。四分法で調査した場合、出土した遺物を北東側QNE、北西側QNW、南東側QSE、南西側QSWを付して取り上げた。また、各々について堆積土層観察用のセクションベルトを設け、土層を観察しながら精査を進めた。

この際、土層の堆積状況、遺物の出土状況、遺構の完掘状況を中心に写真撮影及び実測を随時行った。実測は、平面図はCUBIC社製遺構実測ソフト「遺構くん」を用いて光波トランシットによる電子平板測量を行い、微細図・断面図は手取りで図化した。

遺構・遺物の写真撮影については、キャノンEOS6D（デジタルカメラ・1,200万画素）と中判カメラマミヤ645（6×4.5モノクローム）を使用した。また、平成30年12月13日に平成30年度調査区のラジコンヘリによる写真撮影を行い、翌令和元年7月22日にはセスナによる平成31年度・令和元年度調査区全体の写真撮影を実施した。

遺構実測図の縮尺は1/20を基本としたが、堅穴住居跡の炉や土器埋設遺構、焼土遺構は1/10、その他の遺構や土層断面なども種類や規模により各縮尺を用いて遺構実測図（第一原図）を作成した。掲載については、凡例に挙げた縮尺にリサイズしている。

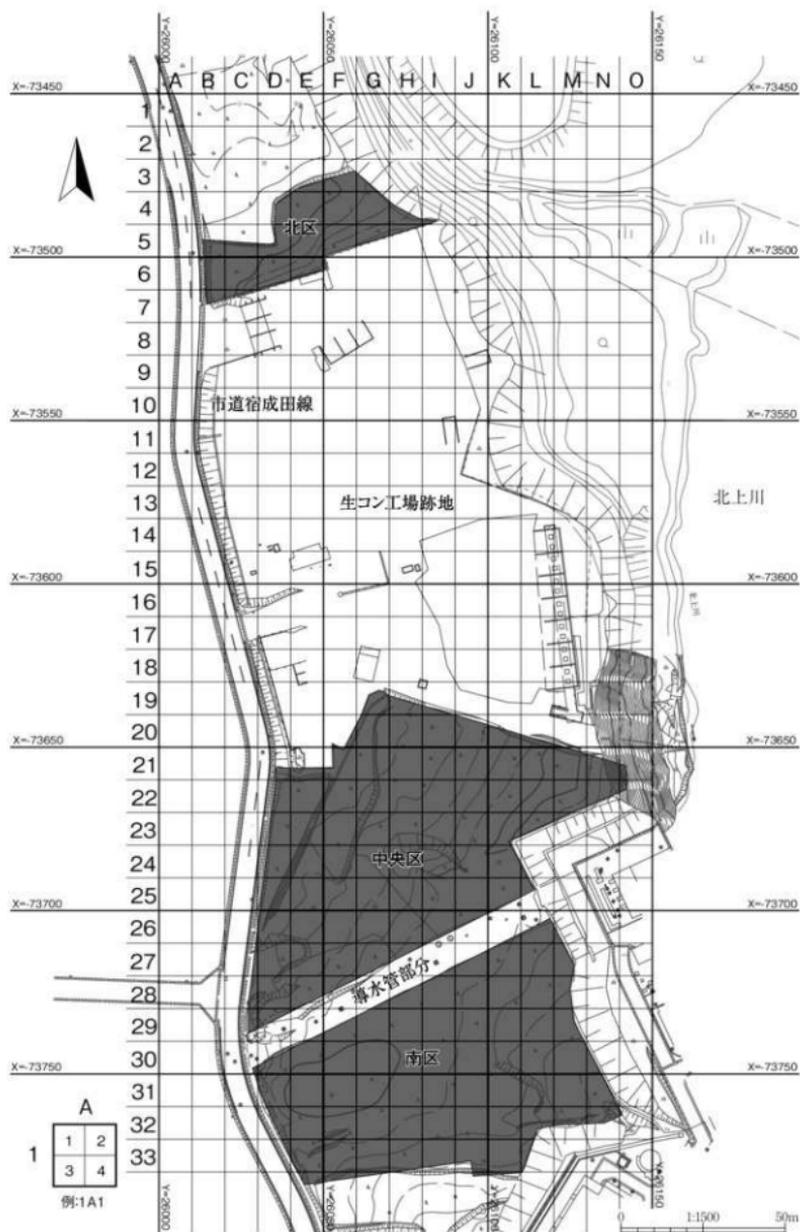
なお、調査の進行上、土層断面の写真や実測を省略し、状態の記録や計測等のみに留めた遺構もある。

遺物の取り上げ方は、遺構内出土分については出土遺構名と出土層位を記した。包含層など遺構外遺物は、出土地点・基本層位（または近接するセクション層位）を記入して取り上げた。

##### (2) 野外調査の経過

###### 【平成30年度】

11月5日午後から、調査を開始した。現場設営・安全対策を行い、北区から作業に着手した。11月6日から木枝など雑物の撤去、調査区境の試掘を進めた。北上森林組合による北区の伐採作業は、11月9～14日に行われた。11月15日から重機による表土除去を行った。11月9日、委託者と現地



第8図 周辺の地形とグリッド配置図

協議を行い、当初調査区の変更を確認した。11月3週目前半には北区の表土除去が完了し、人力による遺構検出に入る。表土除去は引き続き中央区北側に着手し、11月21日に完了した。11月後半は北区の精査と中央区北側の遺構検出を進める。北区は想定よりも遺構密度が低く、溝、土坑、陥し穴状遺構、柱穴状ピットが少量確認された。12月1週目、北区の精査が終了。中央区北側の精査も大半の遺構に着手する。12月2週目までにすべての遺構精査が終了。12月13日、ラジコンヘリによる空中写真撮影。12月14日、終了確認。精査と並行して、次年度調査区の現況地形測量を行う。12月17～20日、重機による埋め戻しと委託者から依頼された調査区内の抜根処理を行う。12月20日、調査終了し撤収した。

### 【平成31年度・令和元年度】

4月4日午後から、調査を開始した。現場設営・安全対策を行い、雑物の撤去と試掘を行った。4月11日、降雪の影響で作業休止。4月9日から重機作業を開始。4月9日は調査区内のU字側溝の撤去、4月10日から西側谷の表土除去を行う。埋土にタイヤやコンクリート片、モルタルなど産業廃棄物を多量に含んでおり、分別に時間がかかる。並行して中央区東側の表土除去を進める。中央区の中央に調査以前から高さ3～4mの土山があり、重機で断ち割って確認を行ったが、ここ40～50年前の堆積と観察されたため写真撮影とフィールドカード記載のみ記録し、除去した。5月の連休明けに西側谷に重機でトレンチ掘削を行ったところ、深さ2.5mの盛土の下に厚さ1mの有機質土（無遺物）を堆積するのみで自然地形と判断されたことから写真撮影とフィールドカード記載のみ記録し、精査を終了、埋め戻しを行った。5月3週目、中央区の重機による表土除去を完了。コンクリート敷き部分に仮置きした排土を調査終了箇所に運搬する。人力は遺構検出を中心に進める。5月4週目、南区表土除去の準備のため、導水管部分に養生を行う。中央区の精査を進める。5月最終週、南区の重機による表土除去を開始。5月27・28日、浄水場建設のためのボーリング調査測量。5月30日、

第3表 遺構名対応表

発見遺構名	現地遺構名	発見遺構名	現地遺構名	発見遺構名	現地遺構名	発見遺構名	現地遺構名
惣穴1	惣穴1	土坑23	土坑23	土坑56	土坑56	陥し穴遺構4	陥し穴遺構4
惣穴2	惣穴2	土坑24	土坑24	土坑57	土坑57	陥し穴遺構5	陥し穴遺構5
惣穴3	惣穴3	土坑25	土坑25	土坑58	土坑58	陥し穴遺構6	陥し穴遺構6
惣穴4	惣穴4	土坑26	土坑26	土坑59	土坑59	陥し穴遺構7	陥し穴遺構7
惣穴5	惣穴5	土坑27	土坑27	土坑60	土坑60	陥し穴遺構8	陥し穴遺構8
土塚埋込遺構1	土塚埋込遺構1	土坑28	土坑28	土坑61	土坑61	陥し穴遺構9	陥し穴遺構9
土塚埋込遺構2	土塚埋込遺構2	土坑29	土坑29	土坑62	土坑62	陥し穴遺構10	陥し穴遺構10
土塚埋込遺構3	土塚埋込遺構3	土坑30	土坑30	土坑63	土坑63	陥し穴遺構11	陥し穴遺構11
土塚埋込遺構4	土塚埋込遺構4	土坑31	土坑31	土坑64	土坑64	陥し穴遺構12	陥し穴遺構12
土塚埋込遺構5	土塚埋込遺構5	土坑32	土坑32	土坑65	土坑65	陥し穴遺構13	陥し穴遺構13
土坑1	土坑1	土坑33	土坑33	土坑66	土坑66	陥し穴遺構14	陥し穴遺構14
土坑2	土坑2	陥し穴遺構30	土坑31	土坑67	土坑67	陥し穴遺構15	陥し穴遺構15
土坑3	土坑3	土坑35	土坑35	陥し穴遺構35	土坑68	陥し穴遺構16	陥し穴遺構16
土坑4	土坑4	土坑36	土坑36	陥し穴遺構36	土坑69	陥し穴遺構17	陥し穴遺構17
土坑5	土坑5	土坑37	土坑37	陥し穴遺構37	土坑70	陥し穴遺構18	陥し穴遺構18
土坑6	土坑6	土坑38	土坑38	土坑71	土坑71	陥し穴遺構19	陥し穴遺構19
陥し穴遺構4	土坑7	土坑39	土坑39	土坑72	土坑72	陥し穴遺構20	陥し穴遺構20
土坑8	土坑8	土坑40	土坑40	土坑73	土坑73	陥し穴遺構21	陥し穴遺構21
土坑9	土坑9	土坑41	土坑41	土坑74	土坑74	陥し穴遺構22	陥し穴遺構22
土坑10	土坑10	土坑42	土坑42	土坑75	土坑75	陥し穴遺構23	陥し穴遺構23
土坑11	土坑11	土坑43	土坑43	土坑76	土坑76	陥し穴遺構24	陥し穴遺構24
土坑12	土坑12	土坑44	土坑44	土坑77	土坑77	陥し穴遺構25	陥し穴遺構25
土坑13	土坑13	野原跡遺	土坑45	土坑78	土坑78	陥し穴遺構26	陥し穴遺構26
土坑14	土坑14	土坑46	土坑46	土坑79	土坑79	陥し穴遺構27	陥し穴遺構27
土坑15	土坑15	土坑47	土坑47	土坑80	土坑80	陥し穴遺構28	陥し穴遺構28
土坑16	土坑16 (2016)	土坑48	土坑48	土坑81	土坑81	陥し穴遺構29	陥し穴遺構29
土坑17	土坑17	土坑49	土坑49	土坑82	土坑82	陥し穴遺構30	陥し穴遺構30
土坑18	土坑18	土坑50	土坑50	土坑83	土坑83	陥し穴遺構31	陥し穴遺構31
土坑19	土坑19	土坑51	土坑51	土坑84	土坑84	陥し穴遺構32	陥し穴遺構32
土坑20	土坑20	土坑52	土坑52	土坑85	土坑85	陥し穴遺構33	陥し穴遺構33
土坑21	土坑21	土坑53	土坑53	陥し穴遺構1	陥し穴遺構1	陥し穴遺構34	陥し穴遺構34
土坑22	土坑22	土坑54	土坑54	陥し穴遺構2	陥し穴遺構2	陥し穴遺構35	陥し穴遺構35
土坑23	土坑23	陥し穴遺構30	土坑55	陥し穴遺構3	陥し穴遺構3	陥し穴遺構36	陥し穴遺構36
						陥し穴遺構37	陥し穴遺構37
						陥し穴遺構38	陥し穴遺構38
						陥し穴遺構39	陥し穴遺構39
						陥し穴遺構40	陥し穴遺構40
						陥し穴遺構41	陥し穴遺構41
						陥し穴遺構42	陥し穴遺構42
						陥し穴遺構43	陥し穴遺構43
						陥し穴遺構44	陥し穴遺構44
						陥し穴遺構45	陥し穴遺構45
						陥し穴遺構46	陥し穴遺構46
						陥し穴遺構47	陥し穴遺構47
						陥し穴遺構48	陥し穴遺構48
						陥し穴遺構49	陥し穴遺構49
						陥し穴遺構50	陥し穴遺構50
						陥し穴遺構51	陥し穴遺構51
						陥し穴遺構52	陥し穴遺構52
						陥し穴遺構53	陥し穴遺構53
						陥し穴遺構54	陥し穴遺構54
						陥し穴遺構55	陥し穴遺構55
						陥し穴遺構56	陥し穴遺構56
						陥し穴遺構57	陥し穴遺構57
						陥し穴遺構58	陥し穴遺構58
						陥し穴遺構59	陥し穴遺構59
						陥し穴遺構60	陥し穴遺構60
						陥し穴遺構61	陥し穴遺構61
						陥し穴遺構62	陥し穴遺構62
						陥し穴遺構63	陥し穴遺構63
						陥し穴遺構64	陥し穴遺構64
						陥し穴遺構65	陥し穴遺構65
						陥し穴遺構66	陥し穴遺構66
						陥し穴遺構67	陥し穴遺構67
						陥し穴遺構68	陥し穴遺構68
						陥し穴遺構69	陥し穴遺構69
						陥し穴遺構70	陥し穴遺構70
						陥し穴遺構71	陥し穴遺構71
						陥し穴遺構72	陥し穴遺構72
						陥し穴遺構73	陥し穴遺構73
						陥し穴遺構74	陥し穴遺構74
						陥し穴遺構75	陥し穴遺構75
						陥し穴遺構76	陥し穴遺構76
						陥し穴遺構77	陥し穴遺構77
						陥し穴遺構78	陥し穴遺構78
						陥し穴遺構79	陥し穴遺構79
						陥し穴遺構80	陥し穴遺構80
						陥し穴遺構81	陥し穴遺構81
						陥し穴遺構82	陥し穴遺構82
						陥し穴遺構83	陥し穴遺構83
						陥し穴遺構84	陥し穴遺構84
						陥し穴遺構85	陥し穴遺構85
						陥し穴遺構86	陥し穴遺構86
						陥し穴遺構87	陥し穴遺構87
						陥し穴遺構88	陥し穴遺構88
						陥し穴遺構89	陥し穴遺構89
						陥し穴遺構90	陥し穴遺構90
						陥し穴遺構91	陥し穴遺構91
						陥し穴遺構92	陥し穴遺構92
						陥し穴遺構93	陥し穴遺構93
						陥し穴遺構94	陥し穴遺構94
						陥し穴遺構95	陥し穴遺構95
						陥し穴遺構96	陥し穴遺構96
						陥し穴遺構97	陥し穴遺構97
						陥し穴遺構98	陥し穴遺構98
						陥し穴遺構99	陥し穴遺構99
						陥し穴遺構100	陥し穴遺構100

県生涯学習文化財課立ち会いで、ボーリング調査のためのやぐら設置。ボーリング調査が並行して行われる（～6月2週目まで）。6月1週目、南区東側崖部分に大型土のう30袋を設置し、土砂流出対策を行う。6月17日、南区の重機による表土除去を完了する。6月20日、中央区の精査を終了。6月21日、中央区の部分終了確認。6月21日、(有) 先測量による南区の基準点設置。6月後半、南区の精査を進める。遺構密度が低く、7月末終了を考える。7月前半、南区の遺構精査を進めるが、方形の陥し穴状遺構埋土が堅く掘削に手こずる。7月22日、セスナによる航空写真撮影。7月24日から、導水管部分養生の撤去。安全柵の撤去も並行する。7月24日、終了確認。残りの精査を行い、7月31日、調査を終了し撤収した。

## 2 整理の方法

### (1) 遺構の整理

遺構実測ソフトで図化した遺構図データを基に、註記や遺構の切り合い、配置などを検討しながら担当調査員が平面図を作成した。断面図は、担当調査員が第二原図を作成し、トレース図化を行った。平面図及び断面図のレイアウトなどは調査員が行った。

遺構図版は、各々遺構順に掲載した。遺構名は現場段階で命名したものを室内整理で掲載遺構名に付け直した（第3表参照）。

### (2) 遺物の整理

遺物は種類ごとに大別し、掲載遺物・要観察遺物を選別した上で登録番号を付けた。

本報告書掲載にあたっては、登録番号に改めて掲載番号を付した。ただし、観察表には索引しやすいようにいずれの番号も載せた。観察表の（ ）内数値は残存値、〈 〉内数値は推定値である。

遺物実測は、石器・石製品について高精度の実測図を短期間で完成させるために、(株) ラングが特許取得している「物体の構造線自動抽出システム」による図化を行った。

### (3) 遺物写真の撮影

遺物写真は、当センター写場にて写真技師が撮影を行った。撮影には、キヤノンEOS 5D（デジタルカメラ・1,200万画素）を使用した。

### (4) 整理の経過

・令和元年11月1日～令和2年3月31日（作業員3人体制）

## 3 広報活動

- ・調査概報 「平成30年度発掘調査報告書」 岩文埋第708集 2019年3月発行
- ・調査概報 「令和元年度発掘調査報告書」 岩文埋第721集 2020年3月発行

## IV 検出遺構

### 1 全体の概要

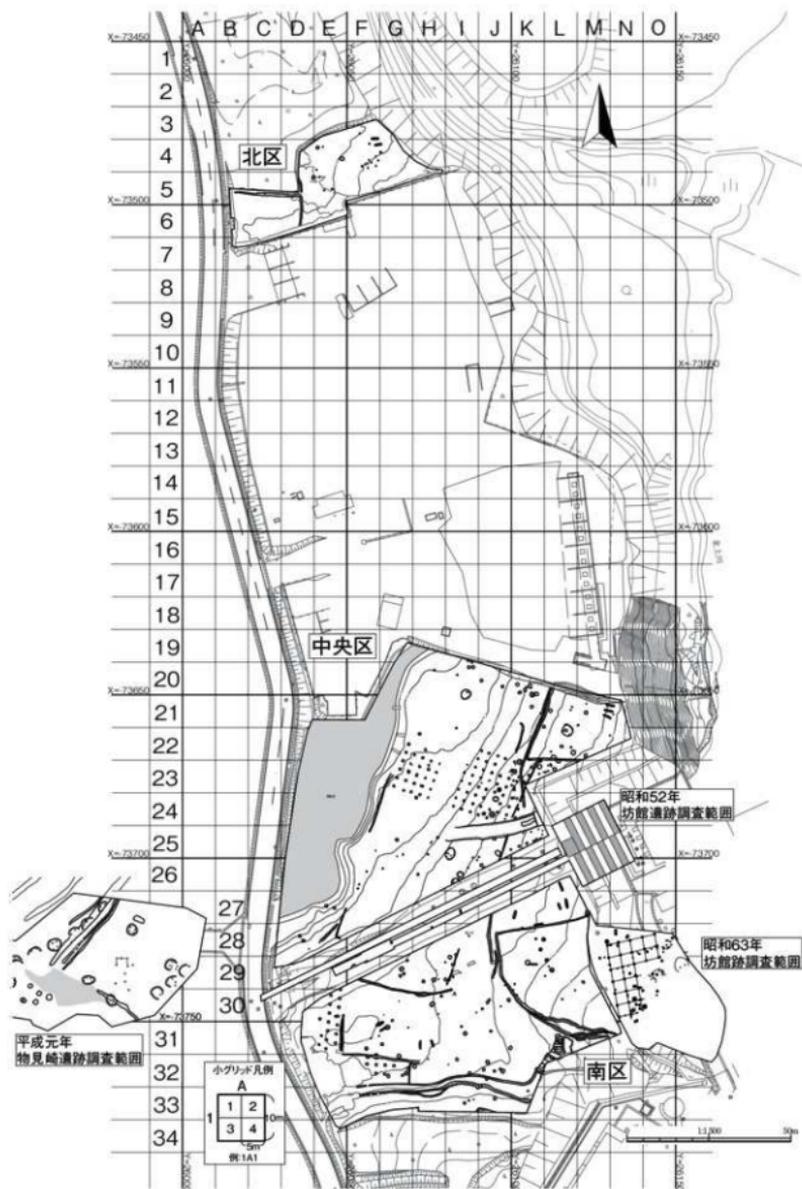
今回の調査から、縄文時代の竪穴住居跡4棟・土器埋設遺構5基・土坑80基・陥し穴状遺構36基・焼土12基・柱穴状ピット94個・粘土探掘坑2箇所、古代～中世の竪穴状遺構1棟・曲輪1箇所、中世以降の溝跡24条、柱穴状ピット110個を確認した。

第9図に調査全体図、第10図に部分図1（北区）、第11図に部分図2（中央区）、第12図に部分図3（南区）を示した。

北区は、生コン工場跡地北側の範囲である。伝承によると、中世二子城の時期の筒井内膳屋敷の地点にあたるが、南半は生コン工場によって削平され、南端の深い谷は埋め立てられたと考えられる。今回の北区調査範囲の南側は生コン工場跡地と接しているが、高さ2mを超える擁壁で垂直に区切られており、その擁壁北側も幅1m強は裏込めの砕石が充填されていた。西側は市道宿成田線と接しており、現地表の上に約1mの盛土が敷設されている。東側は、河岸段丘の段丘崖でやや内側に入り込んでおり、崩落を繰り返している。調査区の標高は78～80mで、中央付近には黒沢尻由来の黄橙色テフラを含むVI層が露出していたことから、本来の地形面は中央がやや盛り上がりがあった可能性がある。調査区からは、縄文時代の陥し穴状遺構（溝状）2基・土坑3基、中世以降の溝跡2条、柱穴状ピット16個を確認した。溝1はL字に曲がることから区画溝と見られるが内部から遺構は確認されなかった。

中央区は、生コン工場跡地南側から導水管部分までの範囲である。中央区と南区は、中世二子城の時期は坊館の地点にあたる。西側から北側にかけては深い谷に区切られており、また南側は加賀館との間にも深い谷が入り込んでいる間の範囲である。本来の坊館範囲は中央区の北側まで広がるが、生コン工場跡地によって失われている。西側谷は前述の筒井内膳屋敷地点との間にある谷の一部で、トレンチ調査の結果、調査区内の最深部で深さ約4m（現地表から約5m）あり、西側の立ち上がりは市道西側の一ツ森（物見ヶ崎）の裾まで広がる深い谷であることが想定された。遺構は、標高76.5～80.0m付近に広がっており、縄文時代の竪穴住居跡4棟、土器埋設遺構1基、土坑36基、陥し穴状遺構（円形）8基、陥し穴状遺構（溝状）3基、中世以降の溝跡6条、柱穴状ピット141個、現代と推定される溝跡1条を確認した。また、中央区と南区の全体が中世の坊館と考えられ、二子城に関連する郭の可能性がある。

南区は、導水管部分から南側までの範囲である。前述の通り、中世二子城の時期は坊館地点にあたる。市道を挟んだ西側には家臣屋敷と伝えられる監物館が位置するが、地形面はほぼ地続きとなっている。この市道部分は、明治時代には道として利用されていた記録があり、前掲の『和賀一族の興亡総集編』には、「搦手口から稗貫領へと通ずる主要道が貫き」の記述がある（北上市博2000）。現在は舗装道路となっているが、坊館、監物館とこの道との関わりについては不明である。調査区東側は、昭和63年の調査で縄文時代後期後葉の竪穴住居跡1棟と後期末葉～晩期初頭の竪穴住居跡1棟の計2棟を検出し、この他に住居跡と同時期の土器埋設炉1基と焼土遺構1基が確認されている（(財)岩文理1989）。遺構は、標高77.0～80.0mの全域に散在しており、土器埋設遺構4基、土坑41基、陥し穴状遺構（方形）4基、陥し穴状遺構（円形）9基、陥し穴状遺構（溝状）10基、粘土探掘坑2箇所、中世以降の溝跡16条、柱穴状ピット48個を確認した。



第9図 調査全体図



第10図 部分図1 (北区)

## 2 縄文時代

### (1) 概要

縄文時代は、竪穴住居跡4棟・土器埋設遺構5基・土坑80基・陥し穴状遺構36基・焼土12基・柱穴状ピット94個・粘土探掘坑2箇所を確認した。縄文時代の遺構は調査区全域から確認されているが、中央区は後期の遺構、南区は晩期の遺構が多い傾向がある。陥し穴状遺構は平面形から方形、円形、溝状に分けられ、方形基調は南区、溝状はより川沿いのエリアに2個一対に確認される場合がある。以下、遺構種別に記載するが、柱穴状ピットは中世以降の章にまとめて示す。

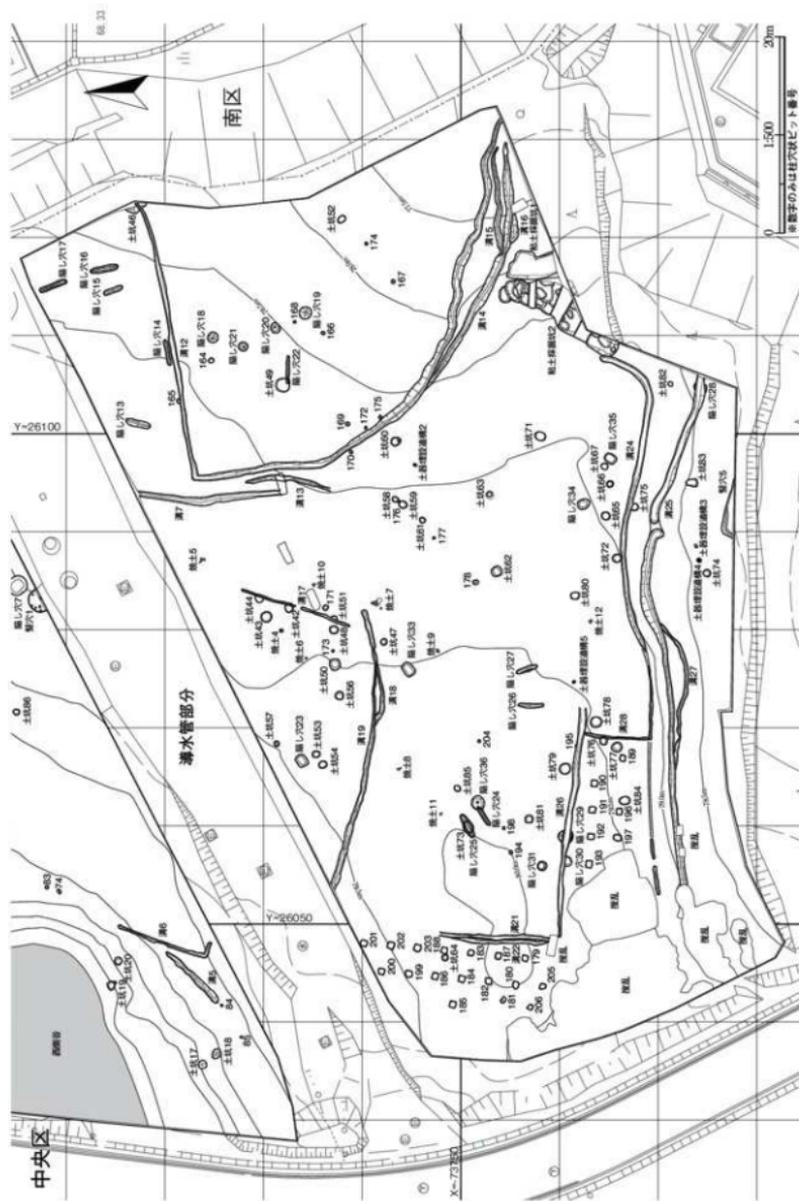
### (2) 竪穴住居跡

#### 竪穴1 (第13図、写真図版4)

中央区南側のX=-73708、Y=26084付近に位置する。南側は導水管部分にかかっており、北半のみを確認した。規模・形状は、残存値で長径2.45m、短径(1.18)mの円形を呈する。床面は、黄褐色粘土質シルトで構成されており、ほぼ平坦に作られている。遺構の残存は良好だが、南半は調査区外へ延びている。東壁は0.2m、西壁は0.1mを測り、外傾しながらやや急斜度に立ち上がる形状である。埋土は4～6層の計3層で構成されており、中央付近に黒褐色シルトが認められるが全体には暗褐色シルト主体である。床面からP1～5の柱穴状ピット5個を確認したが、規則性は見られない。



第 11 図 部分図 2 (中央区)



第12図 部分図3 (南区)

また、調査範囲内から炉は検出されなかった。

埋土から晩期前葉の深鉢片と早期中葉の深鉢片、剥片 15 点が出土していることから、晩期前葉に廃絶した遺構の可能性がある。

#### 竪穴 2 (第 13 図、写真図版 5)

中央区南側の X = -73697、Y = 26083 付近に位置する。黄褐色粘土質シルトの地山面で遺構検出したところ、黒褐色の楕円形プランとして確認した。規模・形状は、残存値で長径 3.75 m、短径 2.83 m の楕円形を呈する。床面は黄褐色粘土質シルトで構成されており、斜面下方に向かってやや傾斜するもののほぼ平坦に作られている。遺構の残存は良好で、北壁 0.03 m、南壁 0.05 m、東壁 0.08 m、西壁は 0.05 m を測り、外傾しながら緩やかに立ち上がる形状である。埋土は 1～4 層の計 4 層で構成されており、黒褐色シルト主体である。床面から P 1～14 の柱穴状ビット 14 個を確認した。P 4～13 の 10 個は壁に沿って等間隔で検出されたことから、壁柱穴の可能性もある。また、床面から炉は検出されなかった。

埋土から出土した炭化物について放射性炭素年代測定を実施したところ、暦年較正年代で 2150calBC-2023calBC (2 $\sigma$ , 86.4%) の結果を得た (VI-1 参照)。

埋土から 1・2 縄文土器 (早期中葉)、96 石鉄、147 二次加工ある剥片、P 12 埋土から 185 特殊磨石を出土し、掲載した。この他に、埋土から 42 点の剥片を出土した。埋土から出土した早期中葉の土器と年代測定結果に齟齬が生じているが、より新しい年代を優先して竪穴 3 と同じく後期前葉に廃絶した遺構と考える。(北田)

#### 竪穴 3 (第 13 図、写真図版 6)

中央区東側の X = -73659、Y = 26118 付近に位置する。黄褐色粘土質シルトの地山面で遺構検出したところ、黒褐色の不整形円形プランとして確認した。規模・形状は、長径 3.23 m、短径 3.21 m の不整形円形を呈する。床面は黄褐色粘土質シルトで構成されており、ほぼ平坦に作られている。遺構の残存は浅いが良好で、北壁 0.15 m、南壁 0.03 m、東壁 0.05 m、西壁は 0.07 m を測り、外傾しながら緩やかに立ち上がる形状である。埋土は炭化物粒を少量混入する褐色シルトの単層で構成されており、にぶい黄褐色シルトを含む。床面中央やや西寄りに地床炉 1 基を検出した。規模・形状は、長軸 0.66 m、短軸 0.5 m の不整形の強変焼土と、その周りに長軸 1.16 m、短軸 0.86 m の炭化物の広がりを持つ。焼土は、深さ 0.07 m まで赤褐色に変化している。また、床面から P 1～5 の柱穴状ビット 5 個を確認した。いずれも主柱穴と考えられ、方形の梁間の北側中央に柱穴を配置している。

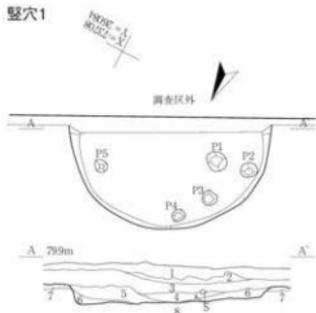
埋土から出土した炭化物について放射性炭素年代測定を実施したところ、暦年較正年代で 2146calBC-2020calBC (2 $\sigma$ , 87.8%) の結果を得た (VI-1 参照)。

炉埋土及び焼土上面から 3～8 後期前葉の深鉢片と、床面から 197 台石を出土し、掲載した。この他に、埋土から 4 点の剥片を出土した。炉から出土した後期前葉の土器と年代測定結果から、後期前葉に廃絶した遺構と考えられる。(丸山)

#### 竪穴 4 (第 14 図、写真図版 7)

中央区北側の X = -73648、Y = 26086 付近に位置する。黄褐色粘土質シルトの地山面で遺構検出したところ、黒褐色の不整形円形プランとして確認した。規模・形状は、長径 3.14 m、短径 2.72 m の不整形円形を呈する。床面は黄褐色粘土質シルトで構成されており、ほぼ平坦に作られている。遺構の残

## 竪穴1



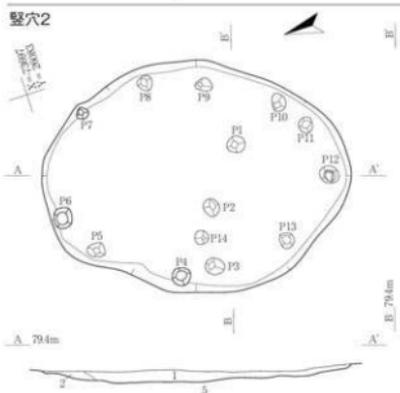
## 竪穴1

- 竪穴1  
 1 10YR2-2黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬 10YR5-6黄褐色粘土質シルトの混合土  
 表土、パイプライン建設時の掘削土  
 2 10YR2-2黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬 田表土層  
 3 10YR2-3黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬  
 4 10YR2-2黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬  
 5 10YR3-3暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬  
 6 10YR4-6褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや硬  
 7 10YR3-4暗褐色粘土質シルト 粘性中 締まりやや硬  
 8 10YR5-6黄褐色粘土質シルト 粘性中～やや強 締まりやや硬 地山

竪穴1 P1～5共通

- 1 10YR3-4暗褐色シルト 粘性やや弱 締まり中 10YR4-6褐色地山ブロックφ1cm2～3%混入

## 竪穴2



## 竪穴2

- 竪穴2  
 1 10YR2-3暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬  
 2 10YR3-3暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬  
 3 10YR4-6褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや硬 掘りすきか  
 4 10YR3-4暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬 掘削土  
 5 10YR5-6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや硬 地山

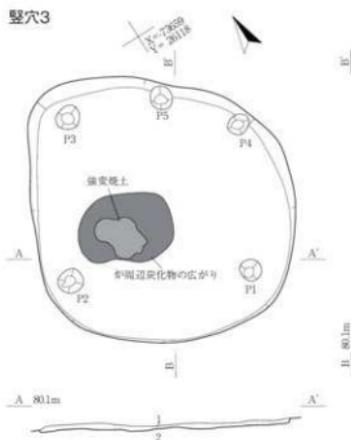
竪穴2 P2、3 P9は薄片出土

- 1 10YR2-3暗褐色シルト 粘性中 締まり中 10YR4-6褐色地山ブロック  
 集積:少量含む 2～3%含む

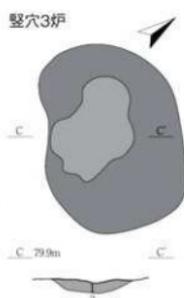
竪穴2 P1～11共通

- 1 10YR3-2暗褐色シルト 粘性中 締まり中 10YR4-6褐色地山ブロック  
 集積:10%含む

## 竪穴3



## 竪穴3炉



## 竪穴3炉

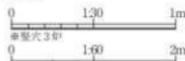
- 竪穴3炉  
 1 2.5YR4-8赤褐色シルト 粘性やや弱  
 締まりやや硬 温変境土  
 2 10YR5-6黄褐色粘土質シルト  
 粘性やや弱 締まりやや硬 地山

## 竪穴3

- 竪穴3  
 1 10YR4-4暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや弱 上10YR5-6に赤褐色シルトの  
 混合土 7.3 炭化物径φ2～10mm1%含む  
 2 10YR5-6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや硬 地山

竪穴3 P1～5共通

- 1 10YR3-2暗褐色シルト 粘性中 締まりやや弱  
 2 10YR5-3に赤褐色シルト 粘性中 締まりやや弱



第13図 竪穴1～3

存は浅いが良好で、南東壁 0.15 m、北西壁 0.08 m を測り、外傾しながら緩やかに立ち上がる形状である。埋土は、小礫を多く含む黒褐色～褐色シルトの 3 層で構成されており、床面付近の 2・3 層中に剥片・チップを多量に混入する。特に、床直上には多量の剥片が広がっており、石器製作を行った痕跡と考えられる。床面から、P 1～3 の柱穴状ピット 3 個を確認した。3 個は北側床面に集中しており、規則性は認められない。その他、炉などの床面施設は検出されなかった。

床面及び埋土から少量の土器を出土したが、掲載に至らなかった。出土した土器は、晩期後葉の浅鉢と早期中葉の深鉢片である。石器は、床面中央から 88 石槍、埋土から 140・143 スクレイバー類、床面及び埋土から 150～161 接合資料 1～5 が出土し、掲載した。また遺構内から出土した剥片・チップの総量は 593 点である。以上、少量出土した土器から晩期後葉に廃絶した遺構と考えられる。(北田)

### (3) 土器埋設遺構

#### 土器埋設遺構 1 (第 15 図、写真図版 9)

中央区西側の X = -73697.5, Y = 26059 付近に位置する。規模・形状は、長径 0.38 m、短径 0.25 m の楕円形、断面は皿形で深さは 0.06 m である。内部には 9a・b 深鉢が正位の状態に底面に設置されていたと見られるが、遺構上部は耕作などによって失われていた。土器内埋土は黒褐色シルトの単層で、内部には壊れた土器片と剥片 1 点が混入していた。土器内の土壌をサンプリングして確認したが、内容物の痕跡は確認されなかった。9a・b 深鉢の年代から、縄文時代晩期前葉の遺構と考えられる。

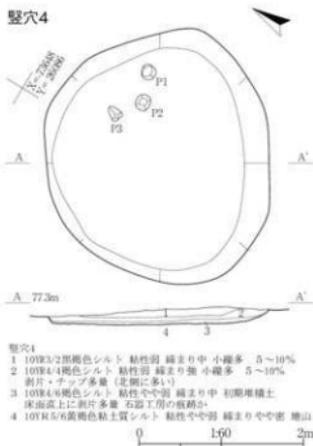
#### 土器埋設遺構 2 (第 15 図、写真図版 9)

南区中央やや東側の X = -73745, Y = 26096 付近に位置する。規模・形状は長径 0.85 m、短径 0.52 m の不整形円形、断面は鍋底形で深さは 0.29 m である。内部には 10・11 の 2 点の深鉢が入れ子になって設置されていた。2 点はほぼ同形状で、貼り付くようにびったり填まっており、10 深鉢の中に 11 深鉢が入れられていた。土器内埋土は黒褐色シルトの単層で、内部には壊れた土器片が混入していた。土器内の土壌をサンプリングして確認したが、内容物の痕跡は確認されなかった。10・11 深鉢の年代から、縄文時代晩期前葉の遺構と考えられる。

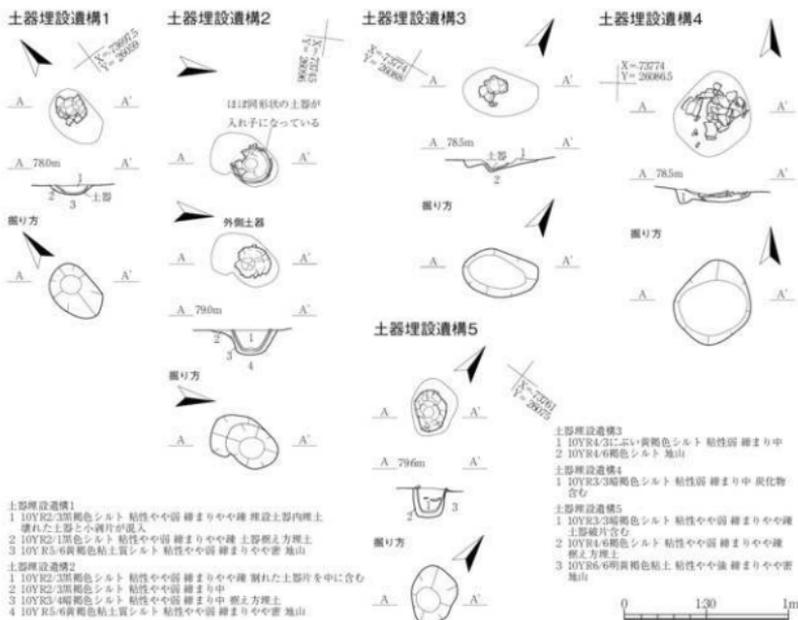
#### 土器埋設遺構 3 (第 15 図、写真図版 9)

南区南端の X = -73774, Y = 26088 付近に位置する。規模・形状は長径 0.46 m、短径 0.3 m の楕円形、断面は不整形な皿形で深さは 0.08 m である。内部には 12 深鉢が正位の状態に底面に設置されていたと見られるが、遺構上部は耕作などによって失われていた。土器内埋土はにぶい黄褐色シルトの単層で、土壌をサンプリングして確認したが、内容物の痕跡は確認されなかった。12 深鉢の年代から、縄文時代晩期前葉の遺構と考えられる。

竪穴 4



第 14 図 竪穴 4



第15図 土器埋設遺構1～5

## 土器埋設遺構4 (第15図、写真図版10)

南区南端のX=-73774、Y=26086.5付近に位置する。規模・形状は長径0.54m、短径0.47mの略円形、断面は不整な皿形で深さは0.08mである。内部には13深鉢が潰れた状態で確認されたが、底部は見つからないことから推察すると、倒立して設置されていたと考えられる。土器内埋土は炭化物を少量含む暗褐色シルトの単層で、土壌をサンプリングして確認したが内容物の痕跡は確認されなかった。13深鉢の年代から、縄文時代晩期前葉の遺構と考えられる。

## 土器埋設遺構5 (第15図、写真図版10)

南区中央やや南側のX=-73761、Y=26075付近に位置する。規模・形状は長径0.36m、短径0.26mの不整な楕円形、断面は鍋底形で深さは0.18mである。内部には14深鉢が正位の状態に設置されていた。土器内埋土は土器破片を含む暗褐色シルトの単層で、土壌をサンプリングして確認したが内容物の痕跡は確認されなかった。14深鉢の年代から、縄文時代晩期前葉の遺構と考えられる。

(北田)

## (4) 土 坑

## 土坑1 (第16図、写真図版10)

北区北端の $X = -73482$ 、 $Y = 26040$ 付近に位置する。規模・形状は長径0.88 m、短径0.85 mの不整形、断面は不整な皿形で深さは0.18 mである。埋土から後期前葉と早期中葉の土器が少量出土したが、掲載に至らなかった。出土土器から、縄文時代後期前葉に廃絶した遺構と考えられる。

## 土坑2 (第16図、写真図版10)

北区中央付近の $X = -73491$ 、 $Y = 26039$ 付近に位置する。規模・形状は長軸0.94 m、短軸0.9 mの不整な方形、断面は不整形で深さは0.27 mである。出土遺物はないが、周辺遺構の所属時期から縄文時代の遺構と考えられる。

## 土坑3 (第16図、写真図版11)

北区中央付近の $X = -73485$ 、 $Y = 26048$ 付近に位置する。規模・形状は長径1.43 m、短径1.03 mの不整形、断面は皿形で深さは0.33 mである。出土遺物はないが、周辺遺構の所属時期から縄文時代の遺構と考えられる。

## 土坑4 (第16図、写真図版11)

中央区北端の $X = -73646$ 、 $Y = 26101$ 付近に位置する。規模・形状は長径1.02 m、短径1.0 mの円形、断面は皿形で深さは0.14 mである。出土遺物はないが、周辺遺構の所属時期から縄文時代の遺構と考えられる。

## 土坑5 (第16図、写真図版11)

中央区北端の $X = -73648$ 、 $Y = 26102$ 付近に位置する。規模・形状は長径1.02 m、短径0.84 mの不整形円形、断面は皿形で深さは0.18 mである。出土遺物はないが、周辺遺構の所属時期から縄文時代の遺構と考えられる。

## 土坑6 (第16図、写真図版11)

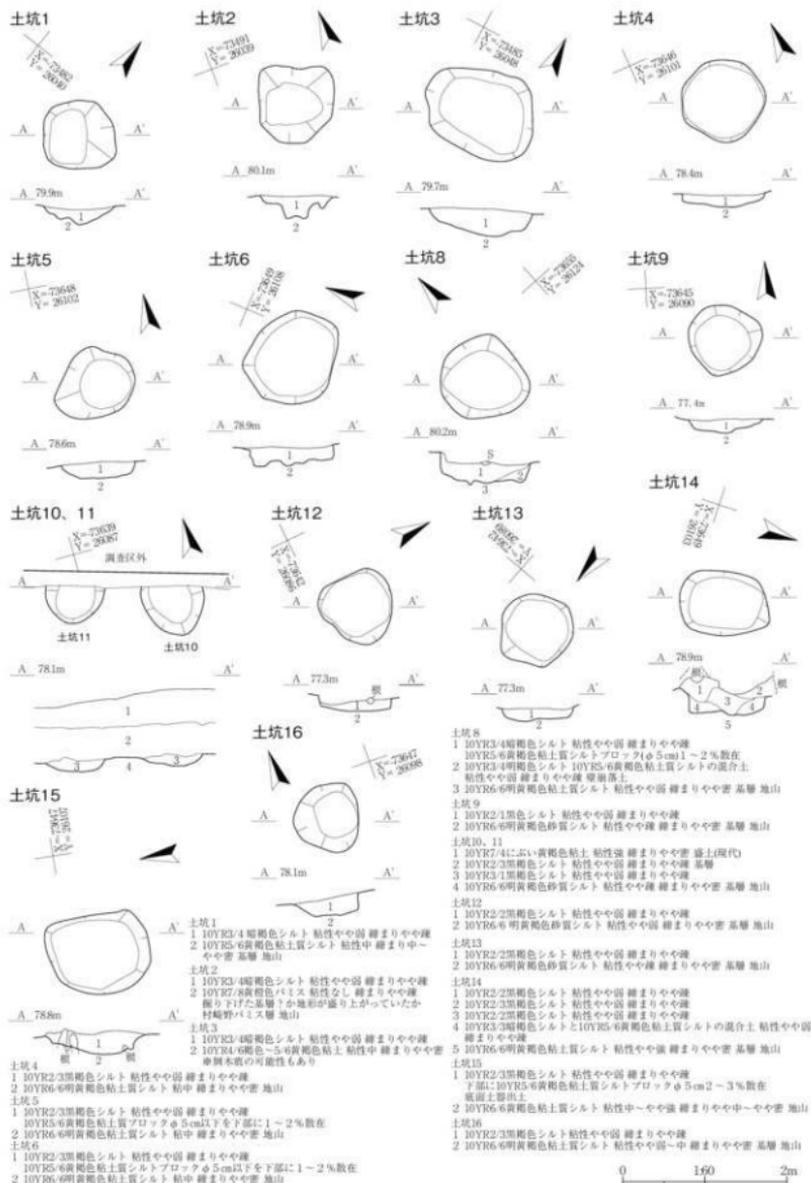
中央区北端の $X = -73649$ 、 $Y = 26108$ 付近に位置する。規模・形状は長径1.18 m、短径1.05 mの不整形円形、断面は鍋底形で深さは0.22 mである。出土遺物はないが、周辺遺構の所属時期から縄文時代の遺構と考えられる。

## 土坑8 (第16図、写真図版12)

中央区北端東側の $X = -73655$ 、 $Y = 26124$ 付近に位置する。規模・形状は長径1.1 m、短径1.06 mの不整形円形、断面は鍋底形で深さは0.2 mである。遺構検出面から、181 特殊磨石、200・201 自然礫が出土した。自然礫は人為的に設置した可能性があることから、墓坑として利用されたと考えられる。埋土から後期初頭～前葉の15 深鉢が出土しており、この時期までに廃絶した遺構と考えられる。

## 土坑9 (第16図、写真図版12)

中央区北端の $X = -73645$ 、 $Y = 26090$ 付近に位置する。規模・形状は長径0.9 m、短径0.87 mの略



第16図 土坑1~6、8~16

円形、断面は皿形で深さは0.17 mである。埋土から晩期と考えられる少量の土器を出土しているが、細片で掲載に至らなかった。出土土器の所属時期から、縄文時代晩期の遺構と考えられる。

#### 土坑 10 (第 16 図、写真図版 12)

中央区北端の X = -73639、Y = 26087 付近に位置する。北半は調査区外へ延びており不明である。土坑 11 に隣接する。規模・形状は、残存値で長径 0.72 m、短径 (0.45) m の略円形、断面は皿形で深さは 0.13 m である。埋土から後～晩期と考えられる少量の土器を出土しているが、細片で掲載に至らなかった。出土土器の時期から、縄文時代後晩期の遺構と考えられる。

#### 土坑 11 (第 16 図、写真図版 12)

中央区北端の X = -73639、Y = 26087 付近に位置する。北半は調査区外へ延びており不明である。土坑 10 に隣接する。規模・形状は、残存値で長径 (1.14) m、短径 0.74 m の楕円形、断面は皿形で深さは 0.13 m である。出土遺物はなく時期を特定できないが、隣接する土坑 10 と堆積状況が似ることから、縄文時代後晩期の遺構と推定される。

#### 土坑 12 (第 16 図、写真図版 12)

中央区北端の X = -73642、Y = 26086 付近に位置する。規模・形状は長径 0.93 m、短径 0.9 m の不整形円形、断面は皿形で深さ 0.13 m である。埋土から後～晩期と考えられる少量の土器を出土しているが、細片で掲載に至らなかった。出土土器の時期から、縄文時代後晩期の遺構と考えられる。

#### 土坑 13 (第 16 図、写真図版 13)

中央区北端の X = -73642、Y = 26089 付近に位置する。規模・形状は長径 0.96 m、短径 0.88 m の不整形円形、断面は皿形で深さ 0.16 m である。出土遺物はないが、隣接する土坑 12 と同形状であることから、同じく縄文時代後晩期の遺構と考えられる。

#### 土坑 14 (第 16 図、写真図版 13)

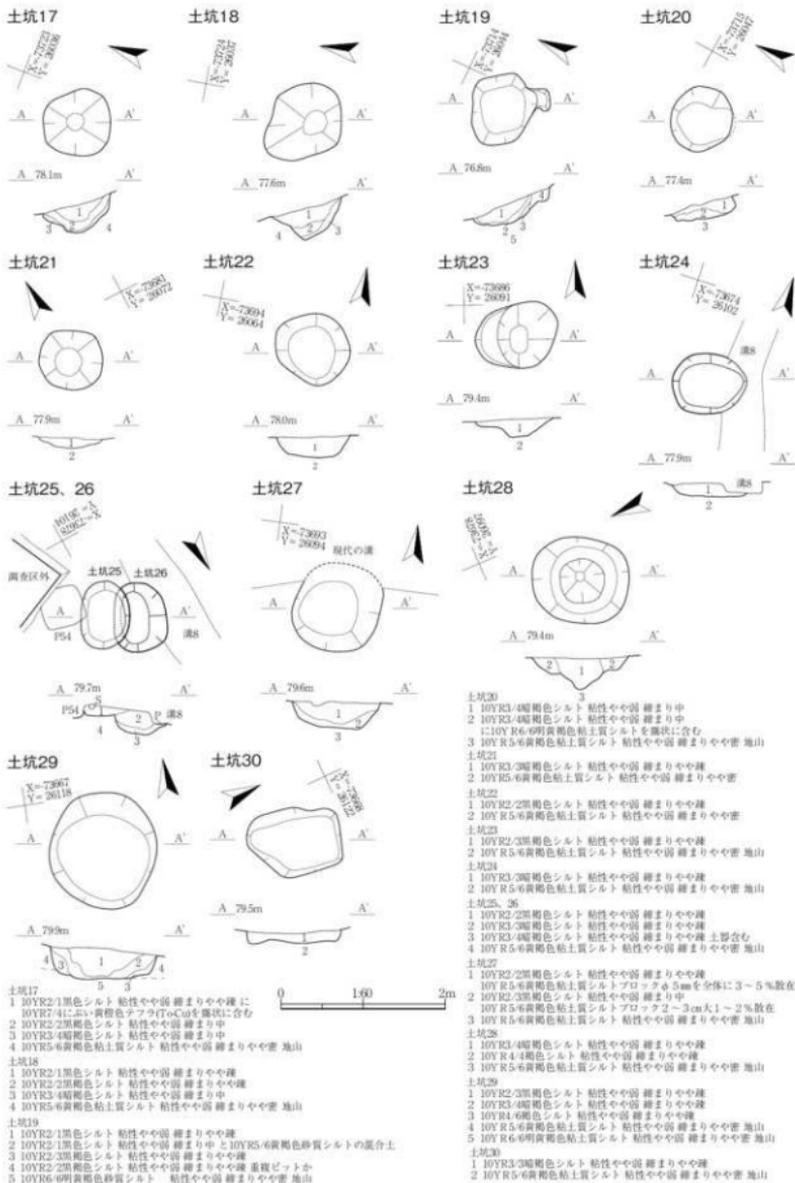
中央区北端の X = -73649、Y = 26103 付近に位置する。規模・形状は長径 1.06 m、短径 0.79 m の楕円形、断面は皿形で深さ 0.25 m である。出土遺物はないが、周辺遺構の所属時期から縄文時代の遺構と考えられる。

#### 土坑 15 (第 16 図、写真図版 13)

中央区北端の X = -73647、Y = 26107 付近に位置する。規模・形状は長径 1.26 m、短径 0.98 m の楕円形、断面は皿形で深さ 0.25 m である。埋土から晩期初頭～前葉の 16 深鉢が出土しており、埋土からも晩期の土器片が出土していることからこの時期に廃絶した遺構と考えられる。

#### 土坑 16 (第 16 図、写真図版 13)

中央区北端の X = -73647、Y = 26098 付近に位置する。規模・形状は長径 0.84 m、短径 0.79 m の不整形円形、断面は皿形で深さは 0.24 m である。出土遺物はないが、周辺遺構の所属時期から縄文時代の遺構と考えられる。



第17図 土坑17～30

**土坑 17** (第 17 図、写真図版 14)

中央区南西端の  $X = -73723$ 、 $Y = 26036$  付近に位置し、土坑 18 と隣接する。規模・形状は長径 0.83 m、短径 0.82 m の略円形、断面は皿形で深さは 0.33 m である。出土遺物はないが、周辺遺構の所属時期から縄文時代の遺構と考えられる。

**土坑 18** (第 17 図、写真図版 14)

中央区南西端の  $X = -73724$ 、 $Y = 26037$  付近に位置し、土坑 17 に隣接する。規模・形状は長径 1.1 m、短径 0.93 m の不整形、断面は鍋底形で深さは 0.38 m である。出土遺物はないが、周辺遺構の所属時期から縄文時代の遺構と考えられる。

**土坑 19** (第 17 図、写真図版 14)

中央区南西側の  $X = -73714$ 、 $Y = 26044$  付近に位置し、土坑 20 に隣接する。規模・形状は長径 0.94 m、短径 0.85 m の不整形、断面は鍋底形で深さは 0.22 m である。出土遺物はないが、周辺遺構の所属時期から縄文時代の遺構と考えられる。

**土坑 20** (第 17 図、写真図版 15)

中央区南西側の  $X = -73715$ 、 $Y = 26047$  付近に位置し、土坑 19 に隣接する。規模・形状は長径 0.81 m、短径 0.74 m の円形、断面は皿形で深さは 0.18 m である。出土遺物はないが、周辺遺構の所属時期から縄文時代の遺構と考えられる。

**土坑 21** (第 17 図、写真図版 15)

中央区中央の  $X = -73681$ 、 $Y = 26072$  付近に位置する。規模・形状は長径 0.77 m、短径 0.72 m の略円形、断面は皿形で深さは 0.13 m である。埋土から剥片 3 点を出土しているが時期は特定されないことから、周辺遺構の所属時期と同じく縄文時代の遺構と考えたい。

**土坑 22** (第 17 図、写真図版 15)

中央区中央南側の  $X = -73694$ 、 $Y = 26064$  付近に位置する。規模・形状は長径 0.9 m、短径 0.87 m の略円形、断面は皿形で深さは 0.24 m である。埋土から 187 特殊磨石、晩期と考えられる少量の土器片、剥片 17 点が出土していることから、該期には廃絶した遺構と考えられる。

**土坑 23** (第 17 図、写真図版 15)

中央区南東側の  $X = -73686$ 、 $Y = 26091$  付近に位置する。規模・形状は長径 1.03 m、短径 0.77 m の楕円形、断面は皿形で深さは 0.23 m である。埋土から縄文土器を少量、剥片 1 点が出土していることから、広く縄文時代の遺構と考える。

**土坑 24** (第 17 図、写真図版 16)

中央区南東側の  $X = -73674$ 、 $Y = 26102$  付近に位置し、溝 8 に東半を切られる。規模・形状は長径 (0.9) m、短径 0.74 m の楕円形、断面は皿形で深さは 0.17 m である。出土遺物はないが、周辺遺構の所属時期から縄文時代の遺構と考えられる。

**土坑 25** (第 17 図、写真図版 16)

中央区南東側の X = -73678、Y = 26104 付近に位置し、東側を P54 に切られ、西側で土坑 26 と重複しこれを切る。規模・形状は長径 0.83 m、短径 (0.59) m の楕円形、断面は皿形で深さは 0.13 m である。出土遺物はないが、土坑 26 との重複関係から縄文時代の遺構と考えられる。

**土坑 26** (第 17 図、写真図版 16)

中央区南東側の X = -73678、Y = 26104 付近に位置し、東側で土坑 25 と重複しこれに切られる。規模・形状は長径 0.84 m、短径 (0.65) m の楕円形、断面は皿形で深さは 0.27 m である。底面から晩期前葉の 17 深鉢が出土していることから、該期に廃絶した遺構と考えられる。

**土坑 27** (第 17 図、写真図版 16)

中央区南東側の X = -73693、Y = 26094 付近に位置し、北側で現代と推定される溝と重複しこれに切られる。規模・形状は長径 (1.1) m、短径 1.04 m の略円形、断面は皿形で深さは 0.32 m である。埋土上位から 162 石椀と剥片 1 点が出土しているが、所属時期は特定できないことから広く縄文時代の遺構と考える。

**土坑 28** (第 17 図、写真図版 17)

中央区南東側の X = -73678、Y = 26097 付近に位置する。規模・形状は長径 1.17 m、短径 1.04 m の楕円形、断面は皿形で深さは 0.38 m である。埋土から後期前葉の 18 壺と剥片 4 点が出土していることから、該期には埋没していた遺構と考える。

**土坑 29** (第 17 図、写真図版 17)

中央区南東側の X = -73667、Y = 26118 付近に位置する。規模・形状は長径 1.4 m、短径 1.27 m の楕円形、断面は鍋底形で深さは 0.37 m である。出土遺物はないが、周辺遺構の所属時期から縄文時代の遺構と考えられる。

**土坑 30** (第 17 図、写真図版 17)

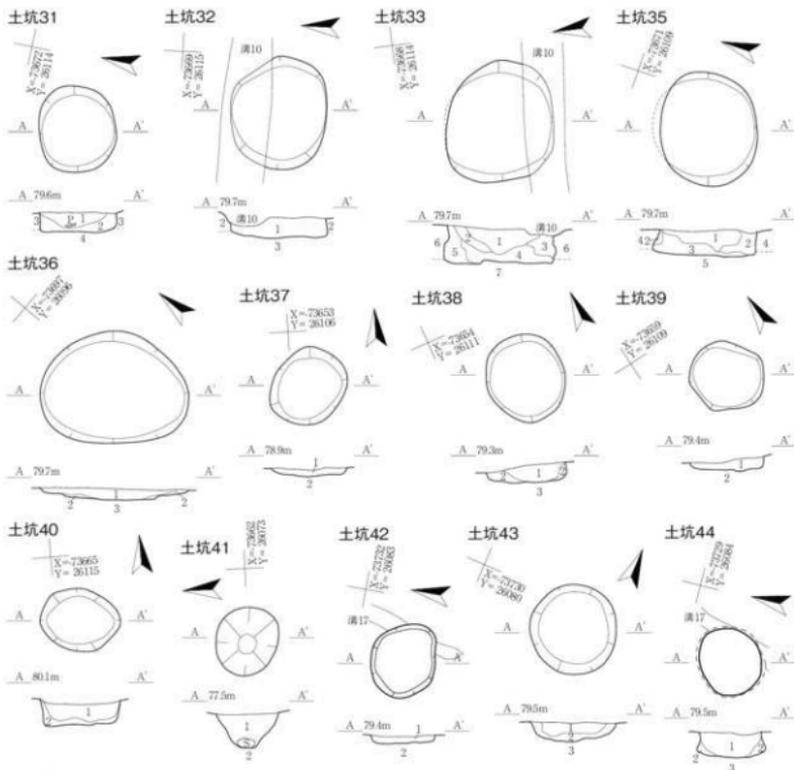
中央区南東側の X = -73668、Y = 26122 付近に位置する。規模・形状は長径 1.14 m、短径 0.84 m の不整形、断面は皿形で深さは 0.12 m である。埋土から晩期と考えられる土器片少量と剥片 7 点を出土していることから、該期までに廃絶した遺構と考えられる。

**土坑 31** (第 18 図、写真図版 17)

中央区南東側の X = -73672、Y = 26114 付近に位置する。規模・形状は長径 1.07 m、短径 0.93 m の略円形、断面は鍋底形で深さは 0.23 m である。埋土から後期初頭～前葉と考えられる 19 深鉢、晩期前葉の少量の壺・深鉢片、剥片 4 点が出土していることから、晩期前葉までに廃絶した遺構と考えられる。

**土坑 32** (第 18 図、写真図版 18)

中央区南東側の X = -73669、Y = 26115 付近に位置し、北側を溝 10 に切られる。規模・形状は長径 1.4 m、短径 (1.16) m の楕円形、断面は鍋底形で深さは 0.26 m である。埋土から晩期前葉と考え



土坑31

- 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 1m厚の腐化層(1~2%腐植土混入)
- 10YR3/3暗褐色シルト 粘性やや弱 締まり中
- 10YR5/6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや密 地山
- 10YR7/8黄褐色パリス 粘性やや弱 締まりやや密 地山

土坑32

- 10YR3/4暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR5/6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや密 地山
- 10YR7/8黄褐色パリス 粘性やや弱 締まりやや密 地山

土坑33

- 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
  - 10YR3/3暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
  - 10YR4/6暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬 礫面積落土
  - 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR7/8黄褐色パリス 1cm 1~2%含む
- 10YR4/6暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬 礫面積落土
  - 10YR5/6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや密 地山
  - 10YR7/8黄褐色パリス 粘性やや弱 締まりやや密 地山

土坑35

- 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR3/3暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR5/6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや密 地山
- 10YR7/8黄褐色パリス 粘性やや弱 締まりやや密 地山

土坑36

- 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや弱 締まり中
- 10YR3/3暗褐色シルト 粘性やや弱 締まり中
- 10YR5/6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや密 地山

土坑37

- 10YR3/3暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR5/6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや密 地山

土坑38

- 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR5/6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや密 地山

土坑39

- 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR3/4暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR5/6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや密 地山

土坑40

- 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR5/6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや密 地山

土坑41

- 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR3/3暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR5/6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや密 地山

土坑42

- 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR3/3暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR5/6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや密 地山

土坑43

- 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR3/2暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 主体に10YR5/6黄褐色粘土質シルトが混じる 礫落土
- 10YR5/6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや密 地山

土坑44

- 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR3/2暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 主体に10YR5/6黄褐色粘土質シルトが混じる 礫落土
- 10YR5/6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや密 地山

土坑38

- 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR3/4暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR5/6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや密 地山

土坑39

- 10YR3/3暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR5/6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや密 地山

土坑40

- 10YR4/3(3)に5%黄褐色シルト 粘性中 締まり中 腐化物混入 3~5mm 1%
- 10YR5/6黄褐色シルト 粘性中 締まり中

土坑41

- 10YR4/3(3)に5%黄褐色シルト 粘性中 締まり中 腐化物混入 3~5mm 1%
- 10YR5/6黄褐色粘土質シルト 粘性中 締まり中

土坑42

- 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR5/6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや密 地山

土坑43

- 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR3/3暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR5/6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや密 地山

土坑44

- 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR3/2暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 主体に10YR5/6黄褐色粘土質シルトが混じる 礫落土
- 10YR5/6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや密 地山

0 160 2m

第18図 土坑31~33、35~44

られる 20 鉢、石鉢 1 点、剥片 1 点、晩期前葉の深鉢片が少量出土していることから、晩期前葉までに廃絶した遺構と考えられる。

**土坑 33** (第 18 図、写真図版 18)

中央区南東側の X = -73668、Y = 26114 付近に位置し、南側を溝 10 に切られる。規模・形状は長径 1.5 m、短径 (1.3) m の楕円形、断面は鍋底形で深さは 0.45 m である。埋土から後期初頭～前葉と考えられる少量の土器片と、203 焼粘土塊が少量出土していることから、該期までに廃絶した遺構と考えられる。

**土坑 35** (第 18 図、写真図版 18)

中央区南東側の X = -73671、Y = 26109 付近に位置する。規模・形状は長径 1.4 m、短径 1.16 m の楕円形で北側はややオーバーハングしており、断面は鍋底形で深さは 0.28 m である。埋土から後期初頭～前葉と考えられる少量の土器片と剥片 2 点が出土していることから、該期までに廃絶した遺構と考えられる。

**土坑 36** (第 18 図、写真図版 18)

中央区南東側の X = -73697、Y = 26096 付近に位置する。規模・形状は長径 1.79 m、短径 1.36 m の楕円形、断面は皿形で深さは 0.13 m である。埋土から細かい微量の縄文土器片と甕状石器 1 点、二次加工ある剥片 1 点、剥片 17 点が出土しており、広く縄文時代の遺構と遺構と考えておきたい。

**土坑 37** (第 18 図、写真図版 19)

中央区北側の X = -73653、Y = 26106 付近に位置する。規模・形状は長径 0.97 m、短径 0.83 m の楕円形、断面は皿形で深さは 0.08 m である。埋土から晩期前葉と考えられる 21 注口、晩期と考えられる少量の土器片が出土していることから、該期までに廃絶した遺構と考えられる。

**土坑 38** (第 18 図、写真図版 19)

中央区北東側の X = -73654、Y = 26111 付近に位置する。規模・形状は長径 1.08 m、短径 0.95 m の略円形、断面は鍋底形で深さは 0.22 m である。出土遺物はないが、周辺遺構の所属時期から縄文時代の遺構と考えられる。

**土坑 39** (第 18 図、写真図版 19)

中央区北東側の X = -73659、Y = 26109 付近に位置する。規模・形状は長径 0.92 m、短径 0.85 m の略円形、断面は鍋底形で深さは 0.13 m である。埋土から後期初頭～前葉と考えられる少量の土器片が出土していることから、該期までに廃絶した遺構と考えられる。

**土坑 40** (第 18 図、写真図版 19)

中央区北東側の X = -73665、Y = 26115 付近に位置する。規模・形状は長径 0.97 m、短径 0.76 m の楕円形、断面は鍋底形で深さは 0.24 m である。埋土下位から晩期と考えられる微量の土器片が出土していることから、該期までに廃絶した遺構と考えられる。



**土坑 41** (第 18 図、写真図版 20)

中央区中央西側の X = -73662、Y = 26073 付近に位置する。規模・形状は長径 0.83 m、短径 0.75 m の略円形、断面は逆台形で深さは 0.4 m である。埋土から前期と考えられる少量の土器、134 楔形石器と剥片 14 点、底面から 198 台石が出土していることから、前期までに廃絶した遺構と考えられる。

**土坑 42** (第 18 図、写真図版 20)

南区中央北側の X = -73732、Y = 26083 付近に位置する。規模・形状は長径 0.92 m、短径 0.78 m の不整形円形、断面は鍋底形で深さは 0.08 m である。埋土から後期前葉～中葉と考えられる少量の土器と剥片 1 点が出土していることから、該期までに廃絶した遺構と考えられる。

**土坑 43** (第 18 図、写真図版 20)

南区中央北側の X = -73730、Y = 26080 付近に位置する。規模・形状は長径 1.1 m、短径 1.05 m の円形、断面は皿形で深さは 0.23 m である。埋土から晩期前葉と考えられる 22 鉢、後期初頭～前葉と考えられる少量の土器、剥片 5 点が出土しており、晩期前葉までに埋没した遺構と考えられる。

**土坑 44** (第 18 図、写真図版 20)

南区中央北側の X = -73729、Y = 26084 付近に位置する。規模・形状は長径 0.8 m、短径 0.75 m の略円形の開口部から、底部は長径 0.86 m、短径 0.83 m の円形袋状に広がる。深さは、0.3 m である。埋土から後期初頭～前葉と考えられる少量の土器片と篋状石器 1 点、剥片 4 点が出土しており、該期までに埋没した遺構と考えられる。

**土坑 46** (第 19 図、写真図版 21)

南区北東端の X = -73716、Y = 26124 付近に位置する。規模・形状は長径 2.16 m、短径 (0.72) m の不整形、断面も不整形で深さは 0.47 m である。出土遺物はないが、周辺遺構の所属時期から縄文時代の遺構と考えられる。

**土坑 47** (第 19 図、写真図版 21)

南区中央北側の X = -73742、Y = 26078 付近に位置する。規模・形状は長径 0.68 m、短径 0.65 m の円形、断面は皿形で深さは 0.11 m である。埋土から後期初頭～前葉と考えられる少量の土器片が出土しており、該期までに埋没した遺構と考えられる。

**土坑 48** (第 19 図、写真図版 21)

南区中央北側の X = -73737、Y = 26079 付近に位置する。規模・形状は長径 0.88 m、短径 0.81 m の円形、断面は鍋底形で深さは 0.17 m である。埋土から、晩期前葉と考えられる 23・24 注口と同時期の土器片、石核 1 点、特殊磨石 1 点、剥片 3 点が出土しており、晩期前葉までに埋没した遺構と考えられる。

**土坑 49** (第 27 図、写真図版 21・22)

南区北東側の X = -73731、Y = 26106 付近に位置し、陥し穴状遺構 22 と重複するが本遺構が新しい。

規模・形状は長径1.28 m、短径1.27 mの略円形の開口部から、底部は長径1.53 m、短径1.52 mの略円形フラスコ形に広がる。深さは、0.46 mである。埋土上位を中心に、晩期初頭～前葉と考えられる25壺、26～28鉢、29～32深鉢、晩期前葉の土器片（深鉢片多い）、埋土から93石鏃、筥状石器1点、石核1点、剥片49点、202円盤状土製品が出土しており、晩期前葉までに埋没した遺構と考えられる。

#### 土坑50（第19図、写真図版22）

南区中央北側のX=-73737、Y=26075付近に位置する。規模・形状は長径1.17 m、短径1.12 mの不整形、断面は皿形で深さは0.23 mである。埋土から晩期前葉と考えられる土器片がビニール1袋、剥片7点が出土しており、該期までに埋没した遺構と考えられる。

#### 土坑51（第19図、写真図版22）

南区中央北側のX=-73736、Y=26081付近に位置する。規模・形状は長径0.63 m、短径0.59 mの円形、断面は鍋底形で深さは0.17 mである。埋土から晩期と考えられる少量の土器片、剥片1点が出土しており、該期までに埋没した遺構と考えられる。

#### 土坑52（第19図、写真図版22）

南区中央北側のX=-73737、Y=26121付近に位置する。規模・形状は長径0.9 m、短径0.61 mの楕円形、断面は鍋底形で深さは0.33 mである。埋土から晩期と考えられる少量の土器片、剥片3点が出土しており、該期までに埋没した遺構と考えられる。

#### 土坑53（第19図、写真図版23）

南区中央北側のX=-73735、Y=26066付近に位置する。規模・形状は長径0.79 m、短径0.66 mの楕円形、断面は皿形で深さは0.08 mである。埋土から剥片1点が出土しているが所属時期は特定できない。周辺の隣接遺構から晩期に推定される。

#### 土坑54（第19図、写真図版23）

南区中央北側のX=-73736、Y=26065付近に位置する。規模・形状は長径0.86 m、短径0.72 mの楕円形、断面は鍋底形で深さは0.17 mである。埋土から晩期と考えられる土器片が少量、剥片2点が出土しており、該期までに埋没した遺構と考えられる。

#### 土坑56（第19図、写真図版23）

南区中央北側のX=-73737、Y=26072付近に位置する。規模・形状は長径0.85 m、短径0.84 mの略円形、断面は皿形で深さは0.1 mである。出土遺物はないが、周辺遺構の所属時期から晩期の遺構と考えられる。

#### 土坑57（第19図、写真図版23）

南区中央北側のX=-73737、Y=26072付近に位置する。規模・形状は長径0.55 m、短径0.51 mの略円形、断面は皿形で深さは0.09 mである。出土遺物はないが、周辺遺構の所属時期から晩期の遺構と考えられる。

**土坑 58** (第 19 図、写真図版 24)

南区中央の X = -73744、Y = 26092 付近に位置し、P176 と重複し本遺構が新しい。規模・形状は長径 0.85 m、短径 0.57 m の不整楕円形、断面は皿形で深さは 0.07 m である。埋土から晩期と考えられる土器片が少量出土しており、該期までに埋没した遺構と考えられる。

**土坑 59** (第 19 図、写真図版 24)

南区中央の X = -73744、Y = 26092 付近に位置し、P176、土坑 58 と隣接する。規模・形状は長径 0.83 m、短径 0.77 m の略円形、断面は皿形で深さは 0.15 m である。底面から 205 石棒類が出土しており、埋土からは晩期前葉と考えられる深鉢片、剥片 1 点が出土しており、該期までに埋没した遺構と考えられる。

**土坑 60** (第 19 図、写真図版 24)

南区中央東側の X = -73743、Y = 26100 付近に位置する。規模・形状は長径 1.03 m、短径 0.87 m の楕円形、断面は皿形で深さは 0.18 m である。底面南側に、長径 0.25 m、短径 0.22 m、深さ 0.22 m の円形副穴を伴う。底面から晩期前葉と考えられる 33 壺、埋土から晩期末葉と考えられる 34 鉢と浅鉢や深鉢片、台石 1 点、剥片 12 点、埋土から晩期と考えられる土器片が少量出土しており、晩期末葉までに廃絶した遺構と考えられる。

**土坑 61** (第 19 図、写真図版 24)

南区中央東側の X = -73746、Y = 26090 付近に位置する。規模・形状は長径 0.58 m、短径 0.57 m の略円形、断面は皿形で深さは 0.09 m である。埋土から晩期前葉と考えられる 35 鉢と同時期の土器片が少量出土しており、該期までに埋没した遺構と考えられる。

**土坑 62** (第 19 図、写真図版 25)

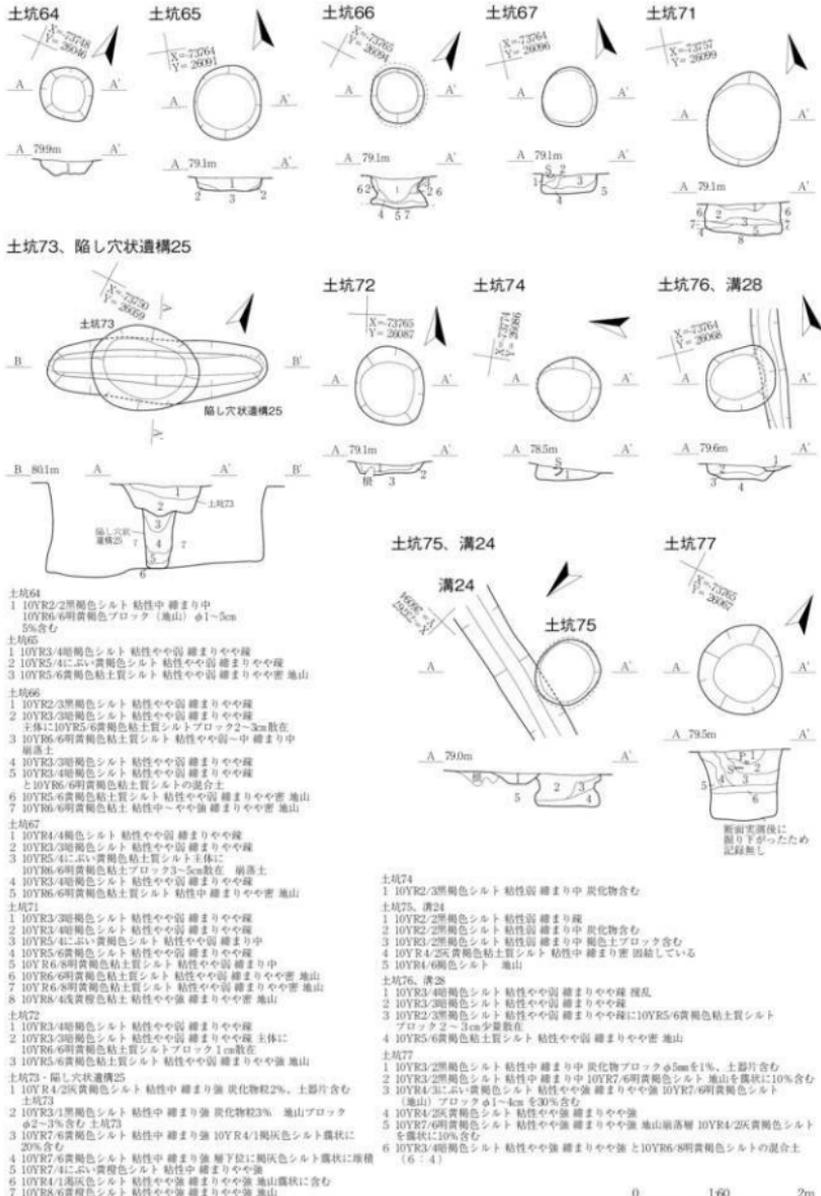
南区中央の X = -73753、Y = 26085 付近に位置する。規模・形状は長径 1.07 m、短径 1.03 m の不整円形、断面は鍋底形で深さは 0.67 m である。埋土から特殊磨石 1 点が出土しているが所屬時期は特定できない。周辺の隣接遺構から晩期に推定される。

**土坑 63** (第 19 図、写真図版 25)

南区中央の X = -73752、Y = 26093 付近に位置する。規模・形状は長径 0.52 m、短径 0.46 m の不整円形の開口部から、底部は長径 0.87 m、短径 0.75 m の楕円形フラスコ形に広がる。深さは、0.46 m である。埋土から 124 箇状石器のほか、後期前葉と見られる少量の土器片、剥片 5 点が出土しており、該期までに埋没した遺構と考えられる。

**土坑 64** (第 20 図、写真図版 25)

南区北西側の X = -73748、Y = 26046 付近に位置する。規模・形状は長径 0.64 m、短径 0.63 m の円形、断面は皿形で深さは 0.18 m である。埋土から晩期前葉と考えられる 36 深鉢が出土しており、該期までに埋没した遺構と考えられる。



土坑64

- 1 10YR2・2黒褐色シルト 粘性中 締まり中
- 10YR6・6明黄褐色ブロック (土山)  $\phi$ 1-5cm  
5%含む

土坑65

- 1 10YR3・4暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR2・4L・ふい黄褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR5・6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや密 土山

土坑66

- 1 10YR2・3暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR3・3暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 下部に10YR5・6黄褐色粘土質シルトブロック2-3cm散在
- 10YR6・6明黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 - 中 締まり中 崩落土
- 10YR3・3暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR3・4暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 土10YR6・6明黄褐色粘土質シルトの混入土
- 10YR5・6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや密 土山
- 10YR6・6明黄褐色粘土 粘性中やや強 締まりやや密 土山

土坑67

- 1 10YR4・4褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR3・3暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR5・4L・ふい黄褐色粘土質シルト主体に
- 10YR6・6明黄褐色粘土ブロック3-5cm散在 崩落土
- 10YR4・4暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR6・6明黄褐色粘土質シルト 粘性中 締まりやや密 土山

土坑71

- 1 10YR2・2暗褐色シルト 粘性中 締まり中
- 10YR3・4暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR5・4L・ふい黄褐色シルト 粘性やや弱 締まり中
- 10YR5・6黄褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR6・8明黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まり中
- 10YR6・6明黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや密 土山
- 10YR8・4L黄褐色シルト 粘性中やや強 締まりやや密 土山

土坑72

- 1 10YR3・4暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR3・3暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR6・6明黄褐色粘土質シルトブロック1cm散在
- 10YR5・6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや密 土山

土坑73 陥し穴状遺構25

- 1 10YR4・2灰黄褐色シルト 粘性中 締まり強 炭化物2%、土器片含む
- 土坑73
- 10YR3・1暗褐色シルト 粘性中 締まり強 炭化物3%、土山ブロック  $\phi$ 2-3%含む 土坑73
- 10YR7・6黄褐色シルト 粘性中 締まり強 10YR4・1褐灰色シルト炭状に20%含む
- 10YR7・6黄褐色シルト 粘性中 締まり強 下部下に灰褐色シルト炭状に増強
- 10YR2・4L・ふい黄褐色シルト 粘性中 締まりやや硬
- 10YR4・1褐色シルト 粘性やや強 締まりやや密 土山炭状に含む
- 10YR8・6黄褐色シルト 粘性中やや強 締まりやや密 土山

土坑74

- 1 10YR2・3暗褐色シルト 粘性弱 締まり中 炭化物含む

土坑75、溝24

- 1 10YR2・2暗褐色シルト 粘性弱 締まり硬
- 10YR2・2暗褐色シルト 粘性やや弱 炭化物含む
- 10YR3・2暗褐色シルト 粘性弱 締まり中 褐色土ブロック含む
- 10YR4・2灰黄褐色シルト 粘性中 締まり密 面結している
- 10YR4・6褐色シルト 土山

土坑76、溝28

- 1 10YR3・4暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬 硬塊
- 10YR3・3暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 10YR2・3暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬に10YR5・6黄褐色粘土質シルト
- 10YR4・6褐色シルト
- 10YR5・6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや密 土山

土坑77

- 1 10YR3・2暗褐色シルト 粘性中 締まり中 炭化物ブロック  $\phi$ 5mmを1%、土器片含む
- 10YR3・2暗褐色シルト 粘性中 締まり中 10YR7・6明黄褐色シルト 土山を炭状に10%含む (土山) ブロック  $\phi$ 1-4cmを30%含む
- 10YR4・2灰黄褐色シルト 粘性やや強 締まりやや密 土山崩落層 10YR4・2灰黄褐色シルトを炭状に10%含む
- 10YR3・4暗褐色シルト 粘性やや強 締まりやや密 と10YR6・8明黄褐色シルトの混入土

(6:4)



第20図 土坑64～67、71～77、陥し穴状遺構25、溝24・28

**土坑 65** (第 20 図、写真図版 25)

南区中央南側の X = -73764、Y = 26091 付近に位置する。規模・形状は長径 0.89 m、短径 0.8 m の略円形、断面は鍋底形で深さは 0.15 m である。埋土から晩期と考えられる土器片が少量出土しており、該期までに埋没した遺構と考えられる。

**土坑 66** (第 20 図、写真図版 26)

南区中央南側の X = -73765、Y = 26094 付近に位置する。規模・形状は長径 0.66 m、短径 0.62 m の円形の開口部から、底部は長径 0.76 m、短径 0.67 m の楕円形プラスチック形に広がる。深さは、0.35 m である。埋土から晩期前葉と考えられる 37 注口、同時期の土器片が少量、剥片 3 点が出土しており、該期までに埋没した遺構と考えられる。

**土坑 67** (第 20 図、写真図版 26)

南区中央南側の X = -73764、Y = 26096 付近に位置する。規模・形状は長径 0.72 m、短径 0.64 m の円形、断面は鍋底形で深さは 0.21 m である。埋土から縄文のみ施文の土器片が微量出土していることから、縄文時代の遺構と広く捉えておきたい。

**土坑 71** (第 20 図、写真図版 26)

南区中央南側の X = -73757、Y = 26099 付近に位置する。規模・形状は長径 1.14 m、短径 0.95 m の楕円形、断面は鍋底形で深さは 0.37 m である。東西がややオーバーハングすることから、袋状土坑の可能性がある。埋土から甕状石器 1 点、剥片 6 点が出土しているが時期は特定されないことから、周辺遺構と同じく晩期の遺構と考えたい。

**土坑 72** (第 20 図、写真図版 26)

南区中央南側の X = -73765、Y = 26087 付近に位置する。規模・形状は長径 0.93 m、短径 0.81 m の楕円形、断面は皿形で深さは 0.13 m である。埋土から、晩期前葉と見られる少量の土器片、剥片 3 点が出土していることから、該期までに廃絶した遺構と考えられる。

**土坑 73** (第 20 図、写真図版 27)

南区中央南側の X = -73750、Y = 26059 付近に位置する。陥し穴状遺構 25 と重複し、本遺構が新しい。規模・形状は長径 1.29 m、短径 1.03 m の楕円形、断面は鍋底形で深さは 0.36 m である。埋土から、晩期前葉と見られる 38・39 精製深鉢と同時期の注口など土器片、磨石 1 点、凹石 1 点、剥片 6 点が出土していることから、該期までに廃絶した遺構と考えられる。

**土坑 74** (第 20 図、写真図版 27)

南区中央南側の X = -73774、Y = 26086 付近に位置する。規模・形状は長径 0.76 m、短径 0.74 m の円形、断面は皿形で深さは 0.16 m である。北側がややオーバーハングする。埋土から、晩期前葉と考えられる 40 精製深鉢と同時期の深鉢片、剥片 4 点が出土していることから、該期までに廃絶した遺構と考えられる。

## 土坑75 (第20図、写真図版27)

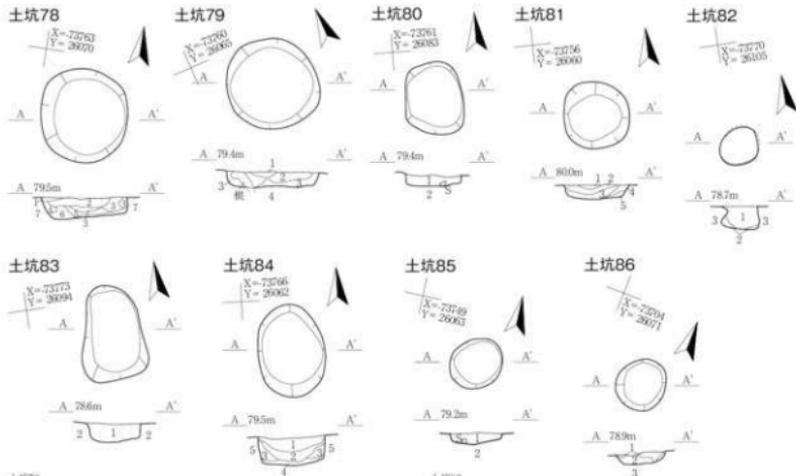
南区中央南側のX=-73767、Y=26094付近に位置し、北側を溝24に切られる。規模・形状は長径0.81m、短径0.7mの楕円形の開口部から、底部は長径0.83m、短径0.77mの楕円形袋状に広がる。埋土から、晩期前葉と考えられる41精製深鉢と同時期の深鉢片、石核1点、剥片17点、204焼成粘土塊が出土しており、該期までに廃絶した遺構と考えられる。

## 土坑76 (第20図、写真図版28)

南区南西側のX=-73764、Y=26068付近に位置し、東側を溝28に切られる。規模・形状は長径0.85m、短径0.73mの楕円形、断面は皿形で深さは0.16mである。埋土から剥片3点が出土しているが所属時期は特定されないことから、周辺遺構と同じく晩期の遺構と考えたい。

## 土坑77 (第20図、写真図版28)

南区南西側のX=-73765、Y=26067付近に位置する。規模・形状は長径1.07m、短径1.0mの円



## 土坑78

- 1 10Y2/3暗褐色シルト 粘性弱 締まりやや硬
- 2 10Y2/2黒褐色シルト 粘性弱 締まりやや硬
- 3 10Y2/3暗褐色シルト 粘性弱 締まりやや硬 炭化物含む
- 4 10Y8/4にぶい黄褐色粘土 粘性弱 締まりやや硬
- 5 10Y2/2黒褐色シルト 粘性弱 締まりやや硬
- 6 10Y2/3暗褐色シルト 粘性弱 締まりやや硬 炭化物含む
- 7 10Y8/4にぶい黄褐色粘土質シルト 地山

## 土坑79

- 1 10Y2/3暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬 主体に10YR7/6明黄褐色ブロック3cm含む
- 2 10Y2/3暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 3 10Y2/3暗褐色シルト 主体に10Y8/4にぶい黄褐色粘土ブロック2~3cm少量含む
- 4 10Y8/4にぶい黄褐色粘土 粘性やや強 締まりややや硬 地山

## 土坑80

- 1 10Y2/3暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 2 10Y8/6明黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりややや硬

## 土坑81

- 1 10Y8/4にぶい黄褐色粘土 粘性中 締まり中
- 2 10Y8/4にぶい黄褐色粘土 粘性中 締まり中
- 3 2層と同じで炭に炭化物粒φ5~10mmを3%含む
- 4 10Y7/2にぶい黄褐色シルト 粘性中 締まり中と10YR4/3にぶい黄褐色シルトの混合土(5:5)
- 5 10Y5/8黄褐色シルト 粘性中 締まり中 10YR4/3にぶい黄褐色シルトを層状に含む 地山再堆積層

## 土坑82

- 1 10Y2/3暗褐色シルト 粘性弱 締まりやや硬
- 2 10YR4/4褐色シルト 粘性弱 締まり中
- 3 10Y8/6明黄褐色粘土 地山

## 土坑83

- 1 10Y2/2黒褐色シルト 粘性弱 締まりやや硬 炭化物含む
- 2 10Y8/6褐色粘土質シルト 地山

## 土坑84

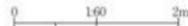
- 1 10Y2/2黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬 5mm以下の炭化物1%散在
- 2 10Y2/2黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬 1cm以下の炭化物5%散在
- 3 10Y5/8黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まり中 崩落土
- 4 10YR4/4褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬 初期堆積土
- 5 10Y8/6明黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりややや硬 地山

## 土坑85

- 1 10Y2/2黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬 炭化物5mm 1~2%散在
- 2 10Y8/6明黄褐色粘土 粘性やや弱 締まりややや硬 地山

## 土坑86

- 1 10Y2/2黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬 土砂少量混入
- 2 10Y8/4褐色粘土質シルト 粘性中 締まり中
- 3 10YR5/8黄褐色粘土質シルト 粘性中 締まりややや硬 地山



第21図 土坑78~86

形、断面はピーカー形で深さは0.83 mである。埋土から、晩期前葉と考えられる42注口と同時期の土器片少量、剥片5点が出土しており、該期までに廃絶した遺構と考えられる。

#### 土坑 78 (第21図、写真図版28)

南区南西側のX=-73763、Y=26070付近に位置する。規模・形状は長径1.16 m、短径1.04 mの略円形、断面は鍋底形で深さは0.26 mである。埋土から、晩期前葉～中葉と考えられる43・44鉢、晩期前葉の45注口、46精製深鉢と同時期の土器片ビニール1袋、121籠状石器、剥片59点が出土しており、該期までに廃絶した遺構と考えられる。

#### 土坑 79 (第21図、写真図版28)

南区南西側のX=-73760、Y=26065付近に位置する。規模・形状は長径1.13 m、短径1.12 mの円形、断面は鍋底形で深さは0.18 mである。埋土から晩期と考えられる土器片少量、剥片1点が出土しており、該期までに廃絶した遺構と考えられる。

#### 土坑 80 (第21図、写真図版29)

南区中央南側のX=-73761、Y=26083付近に位置する。規模・形状は長径0.89 m、短径0.72 mの楕円形、断面は鍋底形で深さは0.13 mである。埋土から縄文土器片少量、二次加工ある剥片1点、特殊磨石1点、台石1点が出土しており、周辺遺構の所属時期である晩期までに廃絶した遺構と推定される。

#### 土坑 81 (第21図、写真図版29)

南区西側のX=-73756、Y=26060付近に位置する。規模・形状は長径0.82 m、短径0.80 mの略円形、断面は皿形で深さは0.18 mである。埋土から後期前葉と考えられる47深鉢、晩期前葉と考えられる土器片少量、剥片1点が出土しており、晩期前葉までに廃絶した遺構と考えられる。

#### 土坑 82 (第21図、写真図版29)

南区南東端のX=-73770、Y=26105付近に位置する。規模・形状は長径0.46 m、短径0.45 mの円形の開口部から、底部は長径0.48 m、短径0.47 mの円形袋状に広がる。深さは、0.28 mである。埋土から晩期前葉と考えられる48精製深鉢と同時期の土器片少量、剥片3点が出土しており、該期までに廃絶した遺構と考えられる。

#### 土坑 83 (第21図、写真図版29)

南区南東側のX=-73773、Y=26094付近に位置する。規模・形状は長径1.17 m、短径0.80 mの不整楕円形、断面は鍋底形で深さは0.23 mである。埋土から晩期初頭～前葉と考えられる49深鉢と同時期の土器片微量、剥片2点が出土しており、該期までに廃絶した遺構と考えられる。

#### 土坑 84 (第21図、写真図版30)

南区南西側のX=-73766、Y=26062付近に位置する。規模・形状は長径1.14 m、短径0.81 mの楕円形、断面は鍋底形で深さは0.34 mである。埋土から、後期前葉と考えられる50深鉢、中期末葉と考えられる51深鉢と同時期の土器片ビニール1袋、埋土上位から剥片3点が出土しており、後期

初頭までに廃絶した遺構と考えられる。

#### 土坑 85 (第 21 図、写真図版 30)

南区西側の X = -73749、Y = 26063 付近に位置する。規模・形状は長径 0.68 m、短径 0.58 m の楕円形、断面は皿形で深さは 0.14 m である。埋土から、縄文のみ施文の土器片が微量と 206 石棒が出土していることから、縄文時代の遺構と広く捉えておきたい。

#### 土坑 86 (第 21 図、写真図版 30)

中央区中央南側の X = -73704、Y = 26071 付近に位置する。規模・形状は長径 0.65 m、短径 0.6 m の円形、断面は皿形で深さは 0.14 m である。埋土から、後期前葉と考えられる 52 壺が出土していることから、該期までに廃絶した遺構と考えられる。(北田)

### (5) 焼 土

#### 焼土 1 (第 22 図、写真図版 30・31)

中央区南東側の X = -73674、Y = 26111 付近に位置し、焼土 1～3 を並んで検出した。規模・形状は、長さ 0.48 m、幅 0.32 m の楕円形、被熱した深さは 0.1 m である。橙色～赤色に強変しており、現地性の焼土と考えられる。出土遺物はなく詳細な所属時期は特定できないが、周辺遺構の所属時期から縄文時代の遺構と広く捉えておきたい。

#### 焼土 2 (第 22 図、写真図版 31)

中央区南東側の X = -73674、Y = 26111 付近に位置し、焼土 1～3 を並んで検出した。規模・形状は、長さ 0.5 m、幅 0.49 m の不整形、被熱した深さは 0.1 m である。焼土層の間に灰白色粘土が挟まれており、焼土範囲を超えて長径 0.72 m、短径 0.5 m の不整な楕円形に広がっており、人為的に敷設されたと考えられる。焼土は橙色～赤色に強変しており、現地性の焼土と考えられる。出土遺物はなく詳細な所属時期は特定できないが、周辺遺構の所属時期から縄文時代の遺構と広く捉えておきたい。

#### 焼土 3 (第 22 図、写真図版 31)

中央区南東側の X = -73674、Y = 26111 付近に位置し、焼土 1～3 を並んで検出した。規模・形状は、長さ 0.52 m、幅 0.48 m の不整形、遺構中央が攪乱されているが、被熱した深さは 0.1 m である。赤色に強変しており、現地性の焼土と考えられる。出土遺物はなく詳細な所属時期は特定できないが、周辺遺構の所属時期から縄文時代の遺構と広く捉えておきたい。

#### 焼土 4 (第 22 図、写真図版 31)

南区中央北側の X = -73732、Y = 26079.5 付近に位置する。規模・形状は、長さ 0.35 m、幅 0.29 m の楕円形、被熱した深さは 0.04 m である。出土遺物はなく詳細な所属時期は特定できないが、周辺遺構の所属時期から晩期の遺構と考えられる。

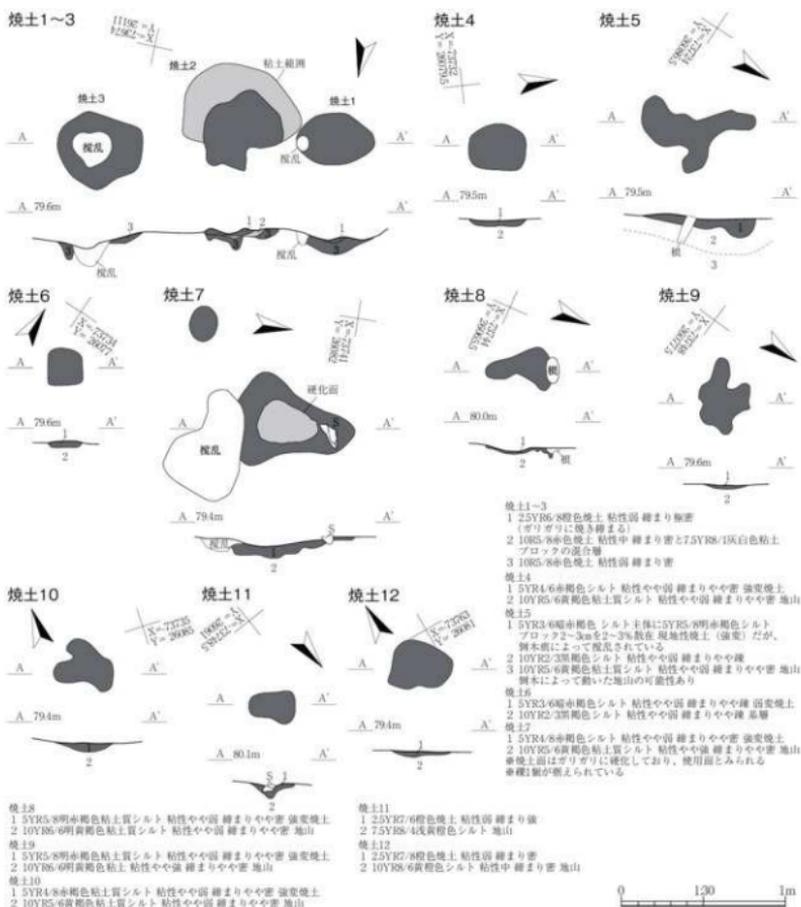
#### 焼土 5 (第 22 図、写真図版 32)

南区中央北側の X = -73724、Y = 26086.5 付近に位置する。規模・形状は、長さ 0.69 m、幅 0.36 m の不整形、被熱した深さは 0.12 m である。暗赤褐色に強変しており、攪乱されているが現地性の焼

土と考えられる。2層から縄文土器が微量と剥片2点が出土しており、周辺遺構の所属時期から晩期の遺構と考えられる。

### 焼土6 (第22図、写真図版32)

南区中央北側のX=-73734、Y=26077付近に位置する。規模・形状は、長さ0.23m、幅0.21mの方型、被熱した深さは0.04mである。明赤褐色に弱変しており、現地性の焼土と考えられる。出土遺物はなく詳細な所属時期は特定できないが、周辺遺構の所属時期から晩期の遺構と考えられる。



第22図 焼土1~12

**焼土 7** (第 22 図、写真図版 32)

南区中央北側の X = -73741、Y = 26082 付近に位置し、南側が攪乱されている。規模・形状は、長さ (0.68) m、幅 0.52 m の不整形、被熱した深さは 0.07 m である。北側に礫 1 個が据えられており、この内側が長さ 0.37 m、幅 0.27 m の不整形に硬化している。このことから、礫は炉を構成していたものと推定される。焼土は赤褐色に強変しており、現地性の焼土と考えられる。上面から晩期の土器片が微量出土していることから、該期に埋没した遺構と考えられる。

**焼土 8** (第 22 図、写真図版 32)

南区中央西側の X = -73744、Y = 26065.5 付近に位置し、北側を根によって攪乱されている。規模・形状は、長さ推定 0.4 m、幅 0.27 m の不整形、被熱した深さは 0.02 m である。明赤褐色に強変しており、現地性の焼土と考えられる。上面から、縄文のみ施文の土器片が微量出土しているが、詳細な時期は特定されない。周辺遺構の所属時期から、晩期の遺構と推定される。

**焼土 9** (第 22 図、写真図版 33)

南区中央の X = -73748、Y = 26077.5 付近に位置する。規模・形状は、長さ 0.47 m、幅 0.31 m の不整形、被熱した深さは 0.02 m である。明赤褐色に強変しており、現地性の焼土と考えられる。出土遺物はなく詳細な所属時期は特定できないが、周辺遺構の所属時期から晩期の遺構と考えられる。

**焼土 10** (第 22 図、写真図版 33)

南区中央北側の X = -73735、Y = 26085 付近に位置する。規模・形状は、長さ 0.36 m、幅 0.26 m の不整形、被熱した深さは 0.06 m である。赤褐色に強変しており、現地性の焼土と考えられる。上面から晩期の土器片が微量出土していることから、該期に埋没した遺構と考えられる。

**焼土 11** (第 22 図、写真図版 33)

南区中央西側の X = -73748.5、Y = 26061 付近に位置する。規模・形状は、長さ 0.28 m、幅 0.2 m の不整形、被熱した深さは 0.07 m である。橙色に強変しており、現地性の焼土と考えられる。出土遺物はなく詳細な所属時期は特定できないが、周辺遺構の所属時期から晩期の遺構と考えられる。

**焼土 12** (第 22 図、写真図版 33)

南区中央南側の X = -73763、Y = 26081 付近に位置する。規模・形状は、長さ 0.36 m、幅 0.3 m の不整形、被熱した深さは 0.04 m である。橙色に強変しており、現地性の焼土と考えられる。出土遺物はなく詳細な所属時期は特定できないが、周辺遺構の所属時期から晩期の遺構と考えられる。(北田)

## (6) 陥し穴状遺構

## 〈方形基調〉

**陥し穴状遺構 23** (第 23 図、写真図版 34)

南区中央北側の X = -73733、Y = 26066 付近に位置する。規模・形状は、長さ 1.28 m、幅 1.06 m の方形、深さは 0.71 m である。埋土上位から早期中葉～後葉の土器片微量と剥片 3 点、埋土下位から薄手の縄文土器片微量と剥片 1 点が出土していることから、縄文時代早期もしくはそれ以前の遺構と考えられる。



**陥し穴状遺構 28** (第 23 図、写真図版 34)

南区南東端の  $X = -73773$ 、 $Y = 26104$  付近に位置し、溝 25 に切られる。規模・形状は、長さ 1.36 m、幅 1.1 m の方形、深さは 0.61 m である。出土遺物はないが、堆積状況と同形状遺構の年代から縄文時代早期もしくはそれ以前の遺構と考えられる。

**陥し穴状遺構 33** (第 23 図、写真図版 34)

南区中央の  $X = -73744$ 、 $Y = 26075$  付近に位置する。規模・形状は、長さ 1.45 m、幅 1.08 m の方形、深さは 0.7 m である。埋土上位から 123 筈状石器、埋土下位から剥片 1 点を出土したが詳細な時期は特定できない。堆積状況と同形状遺構の年代から縄文時代早期もしくはそれ以前の遺構と考えられる。

**陥し穴状遺構 35** (第 23 図、写真図版 34)

南区南東側の  $X = -73764$ 、 $Y = 26097$  付近に位置する。規模・形状は、長さ 1.23 m、幅 0.95 m の方形、深さは 0.63 m である。埋土から剥片 1 点を出土したが詳細な時期は特定できない。堆積状況と同形状遺構の年代から縄文時代早期もしくはそれ以前の遺構と考えられる。

**〈円形基調〉****陥し穴状遺構 6** (第 23 図、写真図版 35)

中央区中央北側の  $X = -73649$ 、 $Y = 26106$  付近に位置する。規模・形状は、長さ 1.48 m、幅 1.32 m の楕円形、深さは 1.3 m である。底面に、長さ 0.28 m、幅 0.22 m、深さ 0.25 m の副穴を 1 個伴う。2 層中に、To-Cu テフラを二次堆積する。埋土中位から、早期後葉の薄手の縄文土器片微量が出土していること、埋土上位に To-Cu テフラを二次堆積することから、前期初頭～前葉には廃絶していた遺構と考えられる。

**陥し穴状遺構 7** (第 23 図、写真図版 35)

中央区中央南端の  $X = -73705$ 、 $Y = 26083$  付近に位置する。規模・形状は、長さ 1.98 m、幅 1.86 m の円形、深さは 1.08 m である。2 層中に、To-Cu テフラを二次堆積する。埋土上～中位から後期前葉～中葉の土器片微量、特殊磨石 2 点、剥片 20 点が出土しており、また埋土上位には To-Cu テフラを二次堆積することから、前期初頭～前葉には廃絶していた遺構と考えられる。

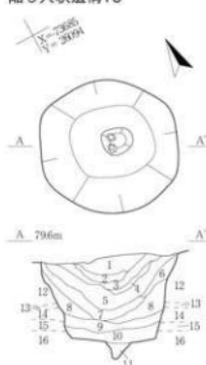
**陥し穴状遺構 8** (第 23 図、写真図版 35)

中央区南東端の  $X = -73708$ 、 $Y = 26084$  付近に位置する。規模・形状は、残存値で長さ 0.96 m、幅 (0.75) m の円形、深さは 1.21 m である。埋土上～中位から、前期前葉の土器片微量と剥片 3 点が出土しており、該期には埋没した遺構と考えられる。

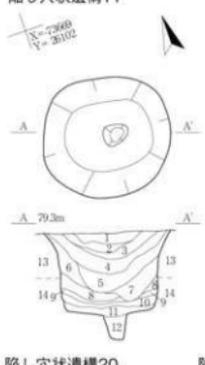
**陥し穴状遺構 9** (第 23 図、写真図版 35)

中央区南東側の  $X = -73682$ 、 $Y = 26094$  付近に位置する。規模・形状は、長さ 1.68 m、幅 1.48 m の円形、深さは 0.85 m である。2 層中に、To-Cu テフラを二次堆積する。埋土から、早期後葉の薄手の縄文土器片微量と二次加工ある剥片 1 点が出土しており、埋土上位に To-Cu テフラを二次堆積することから、前期初頭～前葉には廃絶していた遺構と考えられる。

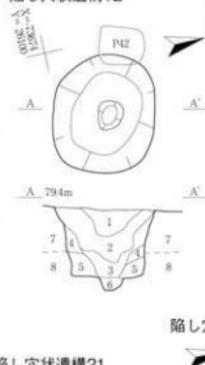
陥し穴状遺構10



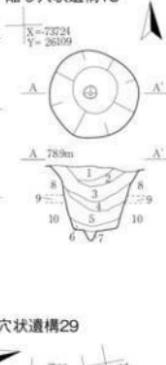
陥し穴状遺構11



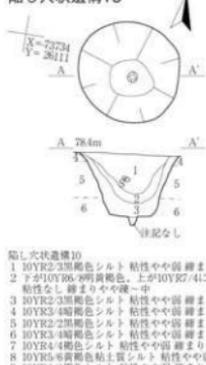
陥し穴状遺構12



陥し穴状遺構18



陥し穴状遺構19



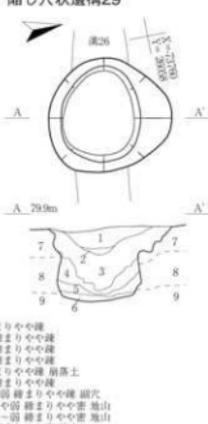
陥し穴状遺構20



陥し穴状遺構21



陥し穴状遺構29



陥し穴状遺構10

- 1 10YR2-3黒褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 2 下が10Y06-8明黄褐色土 上が10YR7-4Lい黄褐色土To-Cuテフラ二次堆積層 粘性なし 締まりや中硬-中
- 3 10YR3-3暗褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 4 10YR3-4暗褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 5 10YR2-2黒褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 6 10YR3-4暗褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 7 10YR4-4暗褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 8 10YR5-6黄褐色粘土質シルト 粘性や中弱 締まりや中硬 礫面崩落土
- 9 10YR4-4暗褐色粘土質シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 10 10YR5-6黄褐色粘土質シルト 粘性や中弱 締まりや中硬 礫面崩落土
- 11 10YR3-3暗褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬 礫穴
- 12 10YR5-6黄褐色粘土質シルト 粘性や中弱 締まりや中硬 地山
- 13 10YR4-6暗褐色粘土質シルト 粘性や中弱 締まりや中硬 地山
- 14 10YR6-8明黄褐色土質シルト 粘性や中弱 締まりや中硬 地山
- 15 10YR7-8黄褐色粘土 粘性や中弱 締まりや中硬 地山
- 16 10YR8-4L黄褐色粘土 粘性や中弱 締まりや中硬 地山

陥し穴状遺構11

- 1 下層が10YR7-8黄褐色土 上層が10YR6-4Lい黄褐色土To-Cuテフラ二次堆積層 粘性なし 締まりや中硬
- 2 10YR3-3暗褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 3 10YR4-4暗褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 4 10YR2-2黒褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 5 10YR3-4暗褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 6 10YR3-4暗褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 7 10YR3-4暗褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 8 10YR4-6暗褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬 礫面崩落土
- 9 10YR3-4暗褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 10 10YR5-6黄褐色粘土質シルト 粘性や中弱 締まりや中硬 礫面崩落土
- 11 10YR3-3暗褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬 初期堆積土
- 12 10YR3-3暗褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬 炭化粒径<0.1mm<1%
- 13 地山土質シルト10%炭灰状土混入 粘性や中弱 締まりや中硬 地山
- 14 10YR5-6黄褐色粘土質シルト 粘性や中弱 締まりや中硬 地山

陥し穴状遺構12

- 1 10YR2-3黒褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 2 10YR2-2黒褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 3 10YR4-6暗褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 4 10YR4-4暗褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 5 10YR2-2黒褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 6 10YR5-6黄褐色粘土質シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 7 10YR5-6黄褐色粘土質シルト 粘性や中弱 締まりや中硬 地山
- 8 10YR7-4Lい黄褐色粘土質シルト 粘性や中弱 締まりや中硬 地山
- 9 10YR7-4Lい黄褐色粘土質シルト 粘性や中弱 締まりや中硬 地山

陥し穴状遺構18

- 1 10YR2-1黒色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 2 10YR3-3暗褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 3 10YR3-2黒褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 4 10YR3-3暗褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 5 10YR4-4暗褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬 崩落土
- 6 10YR3-2黒褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 7 10YR4-4暗褐色粘土質シルト 粘性や中弱 締まりや中硬 礫穴
- 8 10YR5-6黄褐色粘土質シルト 粘性や中弱 締まりや中硬 地山
- 9 10YR6-8明黄褐色土質シルト 粘性や中弱 締まりや中硬 地山
- 10 10YR8-4L黄褐色粘土 粘性や中弱 締まりや中硬 地山

陥し穴状遺構19

- 1 10YR2-2黒褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 2 10YR2-2黒褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 3 10YR4-4暗褐色粘土質シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 4 10YR4-6暗褐色粘土質シルト 粘性や中弱 締まりや中硬 地山
- 5 10YR6-8明黄褐色粘土 粘性や中弱 締まりや中硬 地山
- 6 10YR8-4L黄褐色粘土 粘性や中弱 締まりや中硬 地山

陥し穴状遺構20

- 1 10YR2-2黒褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 2 10YR3-4暗褐色粘土質シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 3 10YR4-4暗褐色粘土質シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 4 10YR3-3暗褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬 地山
- 5 10YR6-8明黄褐色粘土 粘性や中弱 締まりや中硬 地山

陥し穴状遺構21

- 1 10YR2-2黒褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 2 10YR3-4暗褐色粘土質シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 3 10YR3-3暗褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 4 10YR4-6暗褐色粘土質シルト 粘性や中弱 締まりや中硬 初期堆積土
- 5 10YR5-6黄褐色粘土質シルト 粘性や中弱 締まりや中硬 地山
- 6 10YR8-4L黄褐色粘土 粘性や中弱 締まりや中硬 地山

陥し穴状遺構29

- 1 10YR3-3暗褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 2 10YR6-8明黄褐色土質シルト 粘性や中弱 締まりや中硬 To-Cuテフラ二次堆積層
- 3 10YR2-3暗褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬
- 4 10YR5-4Lい黄褐色粘土質シルト 粘性や中弱 締まりや中硬 中崩落土
- 5 10YR6-8明黄褐色粘土質シルト 粘性や中弱 締まりや中硬 地山
- 6 粘性土混入 粘性や中弱 締まりや中硬 崩落土
- 7 10YR3-3暗褐色シルト 粘性や中弱 締まりや中硬 初期堆積土
- 8 10YR4-6暗褐色粘土質シルト 粘性や中弱 締まりや中硬 地山
- 9 10YR7-4Lい黄褐色粘土質シルト 粘性や中弱 締まりや中硬 地山

第24図 陥し穴状遺構10~12、18~21、29

**陥し穴状遺構 10** (第 24 図、写真図版 36)

中央区南東側の X = -73685, Y = 26094 付近に位置する。規模・形状は、長さ 1.66 m、幅 1.64 m の略円形、深さは 1.08 m である。底面に、長さ 0.38 m、幅 0.33 m、深さ 0.2 m の副穴を 1 個伴う。2 層中に、To-Cu テフラを二次堆積する。埋土上位から、早期中葉の土器片少量、144 スクレイパー類、微細剥離痕ある剥片 1 点、石核 1 点、剥片 25 点を出土しており、また埋土上位に To-Cu テフラを二次堆積することから、前期初頭～前葉には廃絶していた遺構と考えられる。

**陥し穴状遺構 11** (第 24 図、写真図版 36)

中央区南東側の X = -73669, Y = 26102 付近に位置する。規模・形状は、長さ 1.58 m、幅 1.47 m の略円形、深さは 1.0 m である。底面に、長さ 0.32 m、幅 0.25 m、深さ 0.28 m の副穴を 1 個伴う。1 層中に、To-Cu テフラを二次堆積する。出土遺物はないが、埋土上位に To-Cu テフラを二次堆積すること、同形状の周辺遺構の年代から前期初頭～前葉には廃絶していた遺構と考えられる。

**陥し穴状遺構 12** (第 24 図、写真図版 36)

中央区南東側の X = -73674, Y = 26100 付近に位置する。P42 と重複し切られる。規模・形状は、長さ 1.46 m、幅 1.23 m の楕円形、深さは 0.82 m である。底面に、長さ 0.37 m、幅 0.32 m、深さ 0.16 m の副穴を 1 個伴う。埋土から剥片 1 点を出土しているが時期は特定できない。同形状の周辺遺構の年代から前期初頭～前葉には廃絶していた遺構と考えられる。

**陥し穴状遺構 18** (第 24 図、写真図版 37)

南区北東側の X = -73724, Y = 26109 付近に位置する。規模・形状は、長さ 1.08 m、幅 1.07 m の円形、深さは 0.78 m である。底面に、長さ 0.16 m、幅 0.15 m、深さ 0.11 m の副穴を 1 個伴う。埋土から剥片 4 点を出土しているが時期は特定できない。同形状の周辺遺構の年代から前期初頭～前葉には廃絶していた遺構と考えられる。

**陥し穴状遺構 19** (第 24 図、写真図版 37)

南区中央東側の X = -73734, Y = 26111 付近に位置する。規模・形状は、長さ 1.24 m、幅 1.22 m の円形、深さは 0.76 m である。底面に、長さ 0.12 m、幅 0.11 m、深さ 0.1 m の副穴を 1 個伴う。出土遺物はないが、同形状の周辺遺構の年代から前期初頭～前葉には廃絶していた遺構と考えられる。

**陥し穴状遺構 20** (第 24 図、写真図版 37)

南区北東側の X = -73730, Y = 26100 付近に位置する。規模・形状は、長さ 1.05 m、幅 0.93 m の略円形、深さは 0.58 m である。底面に、長さ 0.15 m、幅 0.12 m、深さ 0.03 m の副穴を 1 個伴う。埋土から剥片 3 点を出土しているが時期は特定できない。同形状の周辺遺構の年代から前期初頭～前葉には廃絶していた遺構と考えられる。

**陥し穴状遺構 21** (第 24 図、写真図版 38)

南区北東側の X = -73727, Y = 26108 付近に位置する。規模・形状は、長さ 0.94 m、幅 0.93 m の円形、深さは 0.74 m である。底面に、長さ 0.17 m、幅 0.16 m、深さ 0.02 m の副穴を 1 個伴う。出土遺物はないが、同形状の周辺遺構の年代から前期初頭～前葉の遺構と考えられる。



**陥し穴状遺構 31** (第 25 図、写真図版 38)

南区南西側の X = -73759、Y = 26055 付近に位置する。規模・形状は、推定値で長さ (0.94) m、幅 (0.93) m の円形、深さは 0.6 m である。出土遺物はないが、同形状の周辺遺構の年代から前期初頭～前葉の遺構と考えられる。

**陥し穴状遺構 32** (第 25 図、写真図版 39)

中央区南西側の X = -73670、Y = 26110 付近に位置し、溝 7・10 に切られる。規模・形状は、長さ 0.9 m、幅 0.89 m の円形、深さは 0.8 m である。底面に、長さ 0.26 m、幅 0.16 m、深さ 0.33 m の副穴を 1 個伴う。出土遺物はないが、同形状の周辺遺構の年代から前期初頭～前葉の遺構と考えられる。

**陥し穴状遺構 34** (第 25 図、写真図版 39)

南区中央南側の X = -73763、Y = 26092 付近に位置する。規模・形状は、長さ 1.3 m、幅 1.02 m の楕円形、深さは 0.68 m である。埋土上位から、剥片 4 点が出土しているが所属時期は特定できないが、同形状の周辺遺構の年代から前期初頭～前葉の遺構と考えられる。

**陥し穴状遺構 36** (第 25 図、写真図版 39)

南区中央西側の X = -73751、Y = 26063 付近に位置し、陥し穴状遺構 24 に切られる。規模・形状は、推定値で長さ (1.5) m、幅 1.31 m の楕円形、深さは 0.71 m である。底面に、長さ 0.25 m、幅 0.24 m、深さ 0.18 m の副穴を 1 個伴う。2 層中に、To-Cu テフラと考えられる堆積が認められる。副穴埋土から剥片 1 点を出土しているが時期は特定できない。埋土上位に To-Cu テフラと考えられる明黄褐色ブロックが堆積することから、前期初頭～前葉には廃絶していた遺構と考えられる。

**〈溝状基調〉****陥し穴状遺構 1** (第 26 図、写真図版 40)

北区北東側の X = -73481、Y = 26059 付近に位置し、陥し穴状遺構 2 と隣接する。規模・形状は、長さ 2.21 m、幅 0.5 m の溝状、深さは 0.98 m である。出土遺物はないが、前期初頭～前葉までに廃絶していた円形基調の陥し穴状遺構を切る出土例と晩期前葉の土坑に切られる出土例、埋土中に To-Cu テフラを堆積しないことから、これよりも新しい中～後期の遺構と推定される。

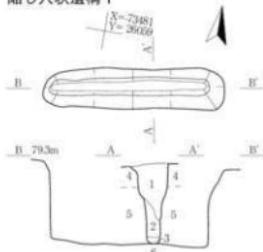
**陥し穴状遺構 2** (第 26 図、写真図版 40)

北区北東側の X = -73479、Y = 26058 付近に位置し、陥し穴状遺構 1 と隣接する。規模・形状は、長さ 2.23 m、幅 0.54 m の溝状、深さは 0.92 m である。埋土中位から、早期中葉の土器片微量を出土している。また、前期初頭～前葉までに廃絶していた円形基調の陥し穴状遺構を切る出土例と晩期前葉の土坑に切られる出土例、埋土中に To-Cu テフラを堆積しないことから、これよりも新しい中～後期の遺構と推定される。

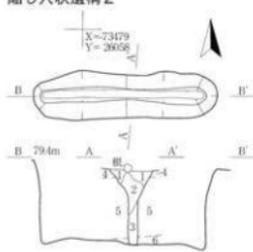
**陥し穴状遺構 3** (第 26 図、写真図版 40)

中央区北東端の X = -73652、Y = 26129 付近に位置し、陥し穴状遺構 4・5 と隣接する。規模・形状は、長さ 2.58 m、幅 0.48 m の溝状、深さは 1.03 m である。埋土中位から、前期末葉と考えられる 53 深鉢片と同時期の土器片少量を出土している。また、前期初頭～前葉までに廃絶していた円形基

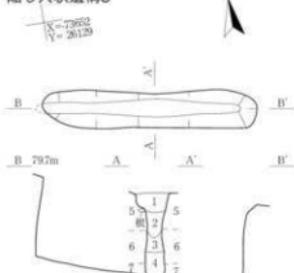
陥し穴状遺構 1



陥し穴状遺構 2



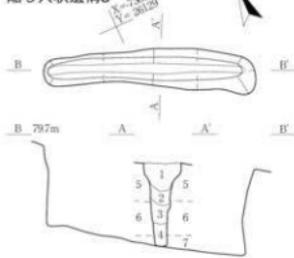
陥し穴状遺構 3



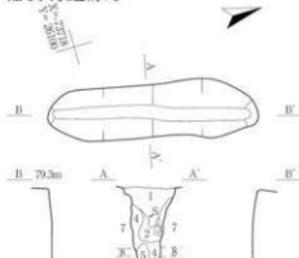
陥し穴状遺構 4



陥し穴状遺構 5



陥し穴状遺構 13



陥し穴状遺構 1

- 1 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 2 10YR4/4褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 3 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 4 10YR3/4褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬—中 地山
- 5 10YR5/6黄褐色粘土質シルト 粘中 締まり中下部に村輪野パミス 地山
- 6 10YR6/2灰黄褐色粘土 粘性強 締まりやや硬 地山

陥し穴状遺構 2

- 1 10YR3/4褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 2 10YR2/3黒褐色シルトと10YR4/6褐色粘土質シルトの混合 粘性やや弱 締まりやや硬
- 3 10YR4/4褐色シルトに5層が少量散在 粘性やや弱 締まりやや硬
- 4 10YR3/4褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬—中 地山
- 5 10YR5/6黄褐色粘土質シルト 粘性中 締まり中下部に村輪野パミス 地山
- 6 10YR6/2灰黄褐色粘土 粘性強 締まりやや硬 地山

陥し穴状遺構 3

- 1 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 2 10YR3/4褐色シルトと10YR5/6黄褐色粘土質シルトの混合土 粘性やや弱 締まりやや硬
- 3 10YR5/6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや硬 崩落土
- 4 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 5 10YR5/6黄褐色粘土質シルトブロックが5cmを1~2%散在
- 6 10YR6/6明黄褐色粘土質シルト 粘中 締まりやや硬 地山
- 7 10YR8/4灰黄褐色パミス(燧石) 粘性なし 締まり中やや硬 地山
- 8 10YR8/6黄褐色粘土 粘性中 締まりやや硬 地山

陥し穴状遺構 4

- 1 10YR4/4褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 2 10YR3/3黒褐色シルト 粘性やや弱 締まり中土
- 3 10YR5/6黄褐色粘土質シルトの混合土 崩落土
- 4 10YR4/4褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まり中 崩落土
- 5 10YR5/6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まり中やや硬
- 6 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬 崩落土
- 7 10YR3/3黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬 初期崩落土
- 8 10YR5/6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや硬 地山
- 9 10YR7/4紅土—黄褐色粘土 粘性やや弱 締まりやや硬 地山

陥し穴状遺構 5

- 1 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 2 10YR3/3黒褐色シルト 粘性やや弱 締まり中土
- 3 10YR5/6黄褐色粘土質シルトの混合土 崩落土
- 4 10YR4/4褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まり中 崩落土
- 5 10YR5/6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まり中やや硬
- 6 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬 崩落土
- 7 10YR3/3黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬 初期崩落土
- 8 10YR5/6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや硬 地山
- 9 10YR7/4紅土—黄褐色粘土 粘性やや弱 締まりやや硬 地山

陥し穴状遺構 13

- 1 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬
- 2 10YR3/3黒褐色シルト 粘性やや弱 締まり中土
- 3 10YR5/6黄褐色粘土質シルトの混合土 崩落土
- 4 10YR4/4褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まり中 崩落土
- 5 10YR5/6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まり中やや硬
- 6 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬 崩落土
- 7 10YR3/3黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや硬 初期崩落土
- 8 10YR5/6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや硬 地山
- 9 10YR7/4紅土—黄褐色粘土 粘性やや弱 締まりやや硬 地山

陥し穴状遺構 1

第 26 図 陥し穴状遺構 1～5、13

調の陥し穴状遺構を切る出土例と晩期前葉の土坑に切られる出土例、埋土中に To-Cu テフラを堆積しないことから、これよりも新しい中～後期の遺構と推定される。

#### 陥し穴状遺構 4 (第 26 図、写真図版 40)

中央区北東端の X = -73654、Y = 26129 付近に位置し、陥し穴状遺構 3・5 と隣接する。規模・形状は、長さ 2.72 m、幅 0.48 m の溝状、深さは 1.03 m である。埋土中位から、縄文土器片を微量出土しているが所属時期は特定できない。前期初頭～前葉までに廃絶していた円形基調の陥し穴状遺構を切る出土例と晩期前葉の土坑に切られる出土例、埋土中に To-Cu テフラを堆積しないことから、これよりも新しい中～後期の遺構と推定される。

#### 陥し穴状遺構 5 (第 26 図、写真図版 41)

中央区北東端の X = -73656、Y = 26129 付近に位置し、陥し穴状遺構 3・4 と隣接する。規模・形状は、長さ 2.56 m、幅 0.45 m の溝状、深さは 1.02 m である。出土遺物はないが、前期初頭～前葉までに廃絶していた円形基調の陥し穴状遺構を切る出土例と晩期前葉の土坑に切られる出土例、埋土中に To-Cu テフラを堆積しないことから、これよりも新しい中～後期の遺構と推定される。

#### 陥し穴状遺構 13 (第 26 図、写真図版 41)

南区北東側の X = -73718、Y = 26100 付近に位置する。規模・形状は、長さ 2.55 m、幅 0.65 m の溝状、深さは 1.0 m である。埋土から後晩期の土器片少量のほか、141 スクレイパー類、165 石核、石鏃 2 点、篋状石器 2 点、二次加工ある剥片 1 点、剥片 24 点が出土している。また、前期初頭～前葉までに廃絶していた円形基調の陥し穴状遺構を切る出土例と晩期前葉の土坑に切られる出土例、埋土中に To-Cu テフラを堆積しないことから、これよりも新しい中～後期の遺構と推定される。

#### 陥し穴状遺構 14 (第 27 図、写真図版 41)

南区北東側の X = -73720、Y = 26107 付近に位置する。規模・形状は、長さ 2.67 m、幅 0.33 m の溝状、深さは 0.83 m である。埋土から、早期後葉の土器片少量、剥片 3 点が出土している。また、前期初頭～前葉までに廃絶していた円形基調の陥し穴状遺構を切る出土例と晩期前葉の土坑に切られる出土例、埋土中に To-Cu テフラを堆積しないことから、これよりも新しい中～後期の遺構と推定される。

#### 陥し穴状遺構 15 (第 27 図、写真図版 41)

南区北東端の X = -73714、Y = 26115 付近に位置する。規模・形状は、長さ 2.02 m、幅 0.48 m の溝状、深さは 0.87 m である。埋土上位から、篋状石器 1 点、剥片 4 点が出土しているが所属時期は特定できない。早期後葉の土器片少量が出土している。また、前期初頭～前葉までに廃絶していた円形基調の陥し穴状遺構を切る出土例と晩期前葉の土坑に切られる出土例、埋土中に To-Cu テフラを堆積しないことから、これよりも新しい中～後期の遺構と推定される。

#### 陥し穴状遺構 16 (第 27 図、写真図版 42)

南区北東端の X = -73712、Y = 26117 付近に位置する。規模・形状は、長さ 2.87 m、幅 0.65 m の溝状、深さは 0.93 m である。出土遺物はないが、前期初頭～前葉までに廃絶していた円形基調の陥

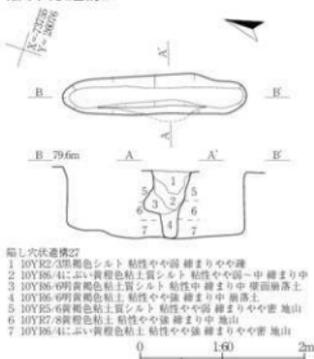


し穴状遺構を切る出土例と晩期前葉の土坑に切られる出土例、埋土中に To-Cu テフラを堆積しないことから、これよりも新しい中～後期の遺構と推定される。

#### 陥し穴状遺構 17 (第 27 図、写真図版 42)

南区北東端の X = -73707、Y = 26115 付近に位置する。規模・形状は、長さ 29 m、幅 0.55 m の溝状、深さは 1.08 m である。埋土から、166・167 石核、甕状石器 1 点が出土しているが所属時期は特定できない。前期初頭～前葉までに廃絶していた円形基調の陥し穴状遺構を切る出土例と晩期前葉の土坑に切られる出土例、埋土中に To-Cu テフラを堆積しないことから、これよりも新しい中～後期の遺構と推定される。

#### 陥し穴状遺構 27



- 陥し穴状遺構 27  
 1 10YR2/3 暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや強  
 2 10YR6/4 濃い黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱～中 締まり中  
 3 10YR6/6 黄褐色粘土質シルト 粘性中 締まり中 礫面崩落土  
 4 10YR6/9 黄褐色粘土 粘性やや強 締まり中 礫面土  
 5 10YR5/6 黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや強 地山  
 6 10YR7/8 黄褐色粘土 粘性やや強 締まり中 地山  
 7 10YR6/4 濃い黄褐色粘土 粘性やや強 締まりやや強 地山

第 28 図 陥し穴状遺構 27

#### 陥し穴状遺構 22 (第 27 図、写真図版 42)

南区北東側の X = -73731、Y = 26106 付近に位置し、土坑 49 に切られる。規模・形状は、長さ 2.85 m、幅 0.33 m の溝状、深さは 0.67 m である。出土遺物はないが、晩期前葉と考えられる土坑 49 に切られること、前期初頭～前葉までに廃絶していた円形基調の陥し穴状遺構を切る出土例、埋土中に To-Cu テフラを堆積しないことから、中～後期の遺構と推定される。

#### 陥し穴状遺構 24 (第 25 図、写真図版 42)

南区中央西側の X = -73752、Y = 26060 付近に位置し、陥し穴状遺構 36 を切る。規模・形状は、残存値で長さ (2.27) m、幅 0.45 m の溝状、深さは 0.83 m である。出土遺物はないが、前期初頭～中葉には廃絶していた陥し穴状遺構 36 を切ること、晩期前葉の土坑に切られる出土例、埋土中に To-Cu テフラを堆積しないことから、中～後期の遺構と推定される。

#### 陥し穴状遺構 25 (第 20 図、写真図版 27)

南区中央西側の X = -73750、Y = 26059 付近に位置し、土坑 73 に切られる。また、陥し穴状遺構 24 と隣接する。規模・形状は、残存値で長さ 2.62 m、幅 0.75 m の溝状、深さは 0.98 m である。出土遺物はないが、晩期前葉の土器を出土する土坑 73 に切られ、埋土中に To-Cu テフラを堆積しないことから、中～後期の遺構と推定される。

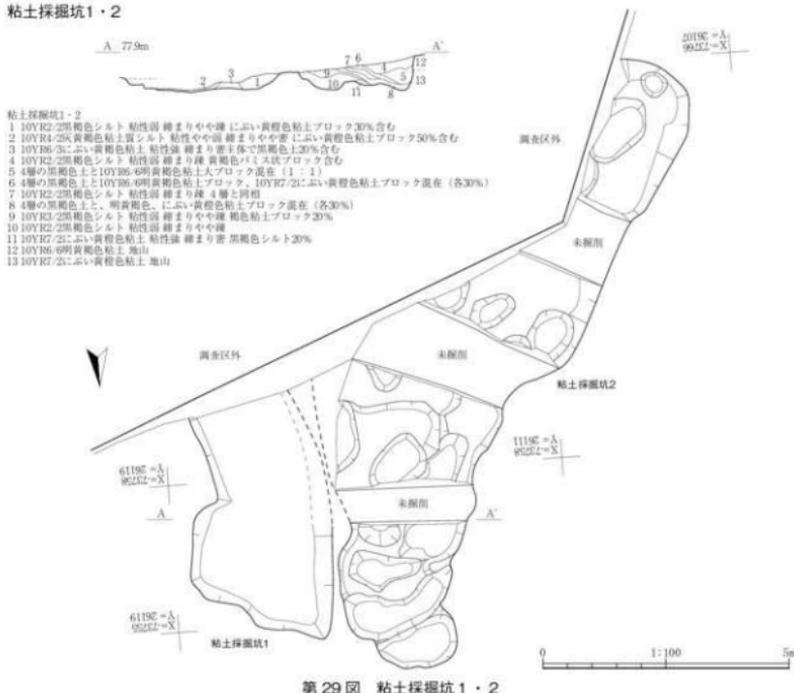
#### 陥し穴状遺構 26 (第 27 図、写真図版 43)

南区中央の X = -73756、Y = 26073 付近に位置し、陥し穴状遺構 27 と隣接する。規模・形状は、長さ 2.58 m、幅 0.46 m の溝状、深さは 0.85 m である。出土遺物はないが、前期初頭～前葉までに廃絶していた円形基調の陥し穴状遺構を切る出土例と晩期前葉の土坑に切られる出土例、埋土中に To-Cu テフラを堆積しないことから、中～後期の遺構と推定される。

#### 陥し穴状遺構 27 (第 28 図、写真図版 43)

南区中央の X = -73755、Y = 26076 付近に位置し、陥し穴状遺構 26 と隣接する。規模・形状は、長さ 2.23 m、幅 0.49 m の溝状、深さは 0.82 m である。出土遺物はないが、前期初頭～前葉までに廃

## 粘土採掘坑1・2



第29図 粘土採掘坑1・2

絶していた円形基調の陥し穴状遺構を切る出土例と晩期前葉の土坑に切られる出土例、埋土中にTo-Cuテフラを堆積しないことから、中～後期の遺構と推定される。(北田)

## (7) 粘土採掘坑

## 粘土採掘坑1・2 (第29図、写真図版55)

南区南東側のX=-73755～-73766、Y=26107～26119の間に位置し、南側は調査範囲外へ延びる。規模・形状は、粘土採掘坑1が残存値で長さ(5.1)m、幅2.9mの不整形、深さは0.25mである。粘土採掘坑2は残存値で長さ13.1m、幅(3.25)mの不整形、深さは0.6mである。粘土採掘坑1の底面は凹凸が少ないが、粘土採掘坑2は底面に複数の小土坑を伴っている。小土坑は重なり合っており、不規則に認められる。遺構底面には明黄褐色やにおい黄褐色粘土が広がっていることから、良質な粘土を求めて掘削した結果と考えられる。4層には黄褐色パミス状ブロックを含んでおり、To-Cuテフラが混入していると考えられることから、前期初頭～中葉には廃絶していた遺構と推定される。出土遺物は、粘土採掘坑1の埋土から二次加工ある剥片1点、石核3点、剥片11点が出土している。また、粘土採掘坑2の埋土から108・112 筒状石器、148 二次加工ある剥片、164・168 石核、180 礫器、縄文のみ施文の土器片微量、筒状石器4点、楔形石器1点、スクレイパー類6点、二次加工ある剥片6点、石核1点、剥片46点、磨製石斧未成品1点、特殊磨石1点、磨石1点、敲石2点、凹石2点、石錘か1点、台石1点が出土している。(北田)

## 3 古代～中世

## (1) 概 要

古代～中世は、竪穴状遺構1棟・曲輪1箇所を確認した。古代と考えられる竪穴状遺構は、南区南端から確認されているが、該期の遺物は出土しておらず詳細は不明である。また、中央区と南区の全体が中世の坊館跡の一部と考えられ、二子城に関連する曲輪の可能性がある。以下、遺構種別に記載する。

## (2) 竪穴状遺構

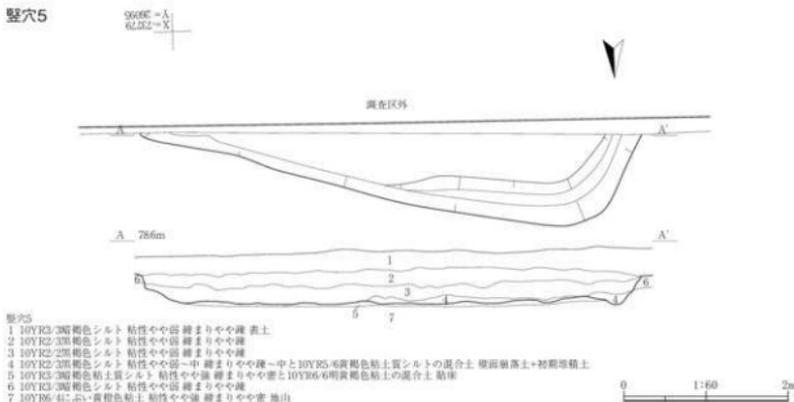
## 竪穴5 (第30図、写真図版8)

南区南端のX=-73779、Y=26095付近に位置する。調査区境界の7層地山ののび黄褐色粘土上面で、方形と考えられる黒褐色プランを検出した。規模・形状は、残存値で長さ(6.1)m、幅(1.13)m、北辺の推定される長さは5.9mの方形を呈すると推定される。床面はほぼ平坦に構築されており、暗褐色粘土質シルトの貼床が6cm程度敷設されている。調査区内の遺構の残存は良好で、北壁0.32m、西壁0.3mで外傾しながら緩やかに立ち上がる形状であるが、南側の調査区外約1m先は後世の削平によって急に落ち込んでおり、遺構も切られていると推定される。埋土は貼床も含めて計4層で構成されており、2～4層はいずれも黒褐色シルト主体である。5層は暗褐色粘土質シルトと明黄褐色粘土の混合土で構築されている。床面の北辺中央から西辺にかけて、壁溝が認められる。深さは7～8cm程で、床面最下層と同じ埋土であることから、廃絶時は開口していたと見られる。

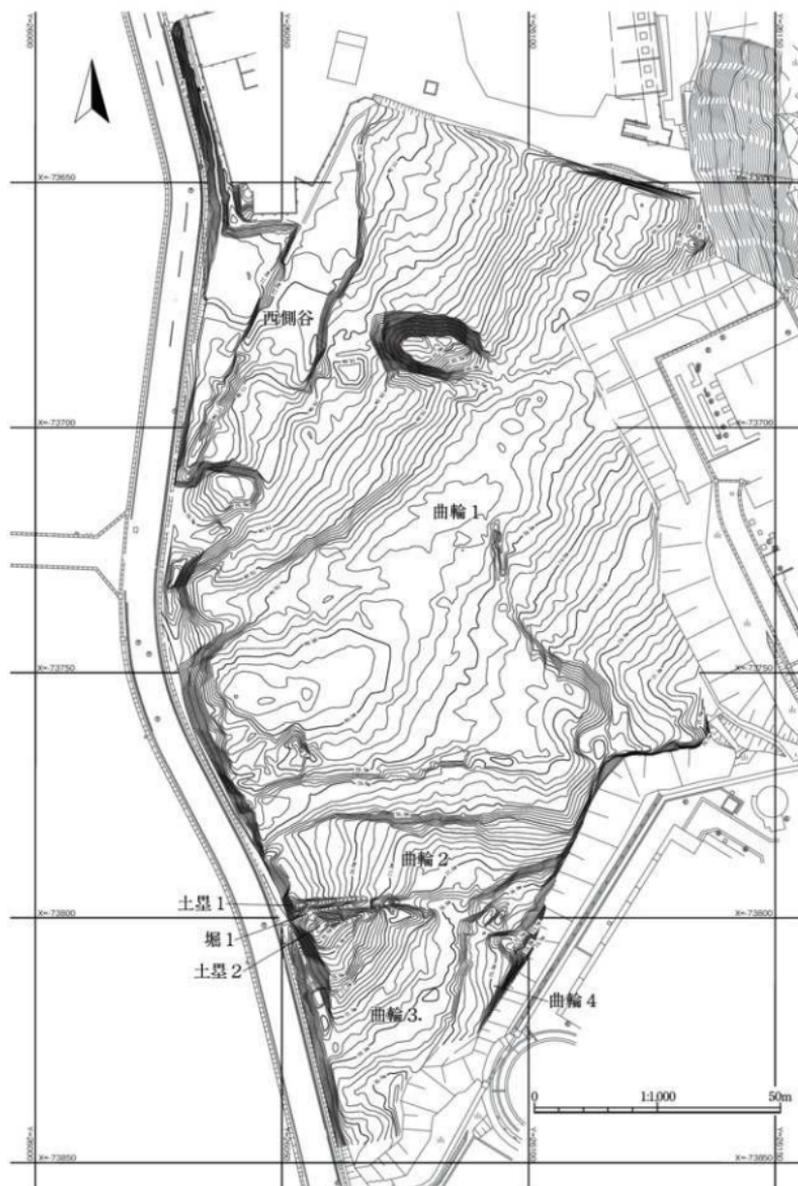
埋土から、186特殊磨石、192敲石、194凹石、晩期前葉の土器片少量、磨製石斧未成品1点、剥片14点が出土した。

出土は縄文時代の遺物のみであるが、形状から古代～中世の遺構の可能性がある。調査区南側に、中世と考えられる造成の影響を受けていることから考えると、古代の遺構と推定される。(北田)

竪穴5



第30図 竪穴5



第 31 図 現況等高線図 (坊館推定範囲)

### (3) 城館に関連する遺構

#### 曲輪1 (第31図)

西側谷と東側の段丘崖に区切られた範囲を曲輪1とした。曲輪1は、北西から南東方向に延びる尾根上の丘陵を持ち、北西と南東方向に緩傾斜面を有する微地形で構成される。

現況では、北西側の緩傾斜面上に周囲の土を盛り上げたマウンドが存在するが、断ち割って確認したところ、現代に造成された残土山であることが分かった。また、南区南側に窪地や小規模の段が認められるが、これについても現代の造成による痕跡と考えられる。西側谷はトレンチ調査の結果、現地表面から約5m下がるということが分かったが、堆積土のうち上部3～4mはおそらく昭和40～50年代のごく最近に埋め立てられたと考えられ、谷本来の堆積層は1m程度と見られる。また、現況で市道から約30m付近までは、タイヤやコンクリート片などの産業廃棄物が大量に投棄された痕跡が確認される。

調査区外の南側には、現況調査で曲輪2～4と考えられる平坦面と、曲輪2と曲輪3の間に東西に走る堀1、その南北両側に土塁1と土塁2を確認した。ただし、現代の造成の影響も少なくないことから、今後本調査が入れば変更されることも十分に考えられる。

曲輪1は、中世城館に関わる普請や作事の痕跡は確認されなかったが、近年の造成による影響も少なからず受けていると考えられる。中央区から南区にかけての調査範囲は、伝承では坊館跡と伝えられており、和賀氏の祖先が居城を更木から飛勢ヶ森に移した時、坊館の場所に「正法寺」を建立し、和賀氏の祈禱所とされたとあるが、今回調査の検出面で捉えられる建物などの痕跡は認められなかった。しかし、坊館の範囲は北側の生コン工場跡地部分や調査区南側に残っていることも含めて、今後検討を要する。

(北田)

## 4 中世以降

### (1) 概要

中世以降は、溝跡24条・柱穴状ピット110個を確認した。溝跡の大半は時期を特定できる遺物を出土しておらず、堆積状況から中世以降としたが近現代までの広い時期幅を想定している。また、確認した柱穴状ピット110個は、近現代の桑畑など植栽痕の可能性もある。以下、遺構種別に記載する。

### (2) 溝跡

#### 溝1 (第32図、写真図版43・44)

北区西側のX=-73496～-73506、Y=26016～26036付近に位置するL字形に曲がる溝で、西側と南側は調査区外へ延びる。規模は、東西辺が約20.0m、南北辺が約9.5mの長さが残存しており、幅は0.2～0.8m、深さは0.1～0.2mである。底面標高は西端で79.78m、L字形に曲がる付近で79.55m、南端で79.16mと東側と南側に向かって下がる。溝の形状から区画溝と考えられるが、排水も兼ねた構造と考えられる。縄文土器片を少量出土しているが、細片のため時期は不明である。この他に時期を特定できる遺物は出土していないが、中世～近現代の時期と広く捉えておきたい。

#### 溝2 (第32図、写真図版44)

北区西側のX=-73492～-73497、Y=26035～26037付近に位置する。溝1の屈曲部から北に延びる

## 溝1・2



第32図 溝1・2

溝で、本来は繋がっていた可能性がある。規模は、長さ4.0m、幅0.4m、深さ0.08mである。底面標高は北端で79.75m、南端で79.74mとほぼ平坦だが、南側に向かって下がると考えられる。溝1との関連から区画溝と考えられるが、同じく排水も兼ねた構造と考えられる。遺物は出土していないが溝1との関係から、中世～近現代の時期と広く捉えておきたい。

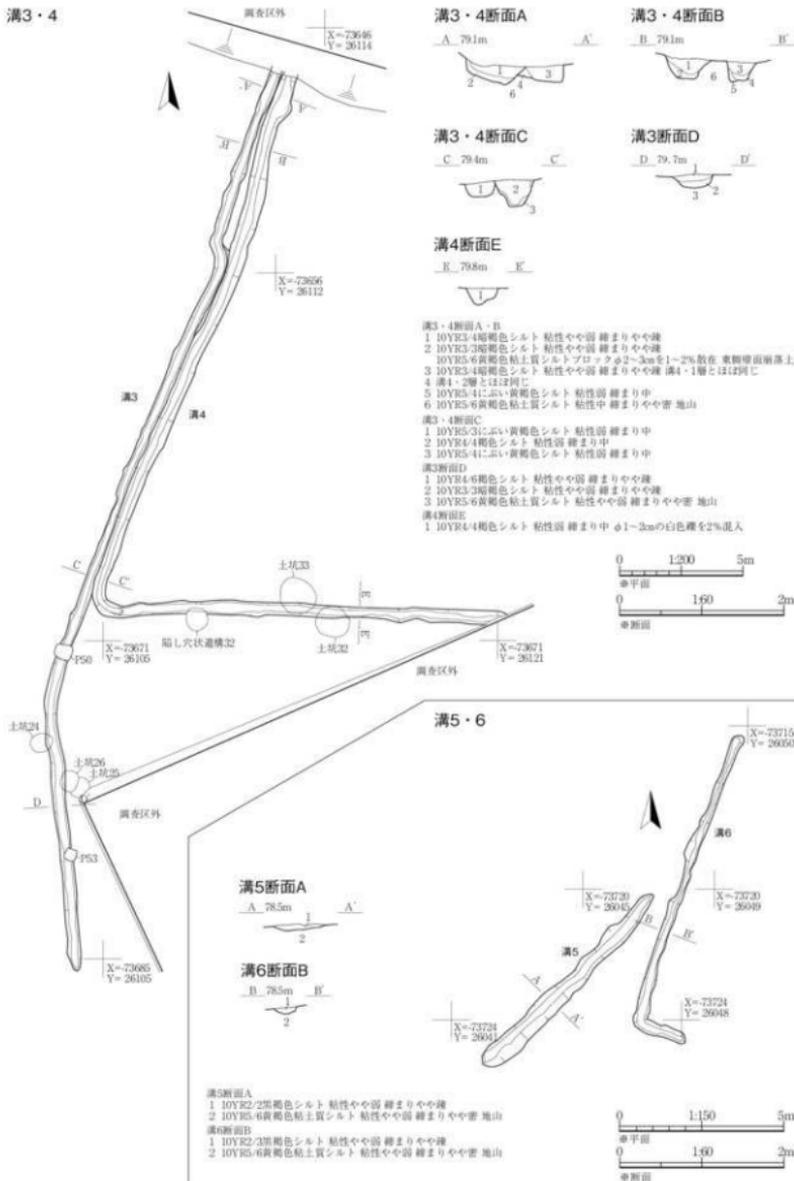
## 溝3 (第33図、写真図版44～46)

中央区東側のX=-73646～-73685、Y=26103～26114付近に位置する。同じく南北に走る溝4と途中まで平行に走っているが、断面A・Cから本遺構が古い。また、P50・53よりも古く、土坑24・26よりも新しい。規模は、長さ38.0m、幅0.4～0.6m、深さ0.15～0.25mである。底面標高は北端で78.61m、中央で79.02m、南端で79.63mと北側に向かって下がっている。排水溝と考えられ、南から北に向かって排水がされたと推測される。縄文時代後期土器片、剥片4点を出土しているが、この他に時期を特定できる遺物は出土していないことから、中世～近現代の時期と広く捉えておきたい。

## 溝4 (第33図、写真図版45・46)

中央区東側のX=-73646～-73671、Y=26104～26121付近に位置する。同じく南北に走る溝3と途中まで平行に走っており、断面A・Cから本遺構が新しい。また、同じく土坑32・33、陥し穴状遺構32よりも新しい。規模は、長さが南北23.5mから東に110°折れてさらに17.0mの計40.5m、幅0.4～0.7m、深さ0.2～0.33mである。底面標高は北端で78.60m、中央で78.91m、南端で79.22mと東側から西側、南側から北側に向かって下がっている。排水溝と考えられ、南から北に向かって排水がされたと推測される。また、L字形に屈曲することから、何らかの区画溝とも考えられる。縄文

## 溝3・4



第33図 溝3~6

時代後期土器片を少量、剥片3点を出土しているが、この他に時期を特定できる遺物は出土していないことから、中世～近現代の時期と広く捉えておきたい。

#### 溝5 (第33図、写真図版46)

中央区南西隅のX=-73720～-73725、Y=26041～26047付近に位置する。溝6と隣接しており、繋がる可能性もある。規模は、長さ7.4m、幅0.4～0.7m、深さ0.08mである。底面標高は北東端で78.17m、南西端で78.30mと北側に向かって下がっている。排水溝と考えられ、南から北に向かって排水がされたと推測される。剥片2点のみを出土しており、時期を特定できる遺物はないことから、中世～近現代の時期と広く捉えておきたい。

#### 溝6 (第33図、写真図版46)

中央区南西隅のX=-73715～-73724、Y=26046～26050付近に位置し、短くL字形に曲がる。溝5と隣接しており、繋がる可能性もある。規模は、北西辺が9.5m、南東辺が1.7mである。底面標高は北東端で77.80m、屈曲部で78.41m、南東端で78.47mと北側に向かって下がっている。溝の形状から区画溝とも考えられるが、排水も兼ねた構造と考えられる。遺物は出土していないが、中世～近現代の時期と広く捉えておきたい。

#### 溝7 (第34図、写真図版47)

中央区東側から南区中央東寄りのX=-73670～-73732、Y=26092～26109付近に位置する。北東端は溝4東側付近から確認されているため、溝4に繋がる可能性もある。溝3、P52・53、現代の溝と重複しており、本遺構が古い。また、北端で陥し穴状遺構32と重複しており、本遺構が新しい。規模は、導水管部分約14m分を含んだ長さは61.5m、幅0.1～0.9m、深さ0.05～0.25mである。底面標高は中央区の北東端で79.43m、中央で79.63m、南西端で79.49m、南区の北端で79.14m、南端で78.90mと、中央区の中央付近が高く、北と南に向かって下がっている。排水溝と考えられ、北と南に向かって排水がされたと推測される。縄文土器の細片を極少量と剥片22点を出土しているが、この他に時期を特定できる遺物は出土していないことから、中世～近現代の時期と広く捉えておきたい。

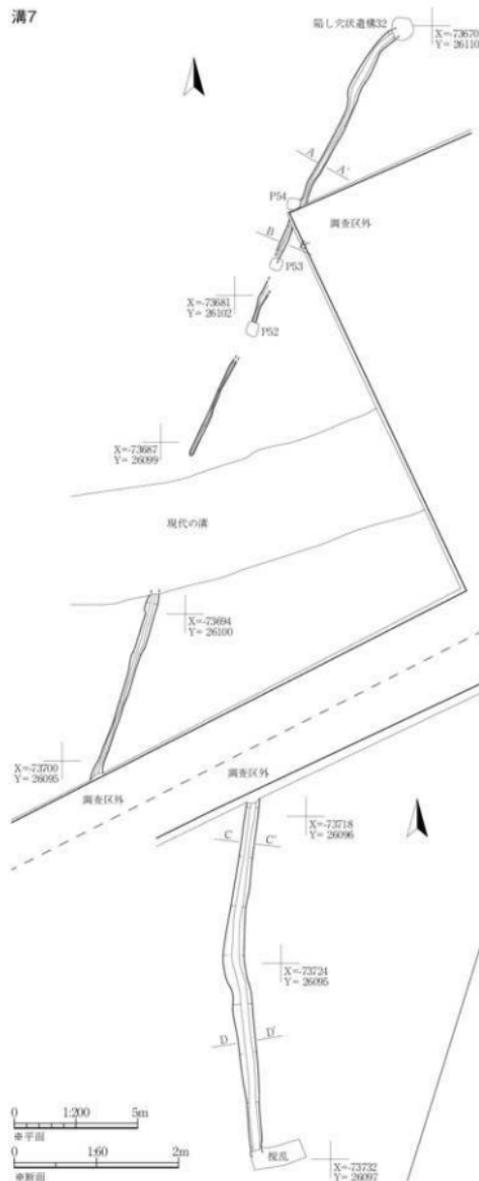
#### 溝9 (第34図、写真図版48)

中央区西側のX=-73674～-73692、Y=26056～26064付近に位置する。西側谷に平行して構築されており、離れているが溝7とも平行する。規模は、長さ19.0m、幅0.3～0.9m、深さ0.12mである。底面標高は北東端で77.33m、中央部で77.40m、南東端で78.58mと北側に向かって下がっている。排水溝と考えられ、南に向かって排水がされたと推測される。遺物は出土していないが、中世～近現代の時期と広く捉えておきたい。

#### 溝11 (第35図、写真図版48)

中央区東側のX=-73658～-73668、Y=26101～26103付近に位置する。溝3の西側に隣接し、ほぼ平行して南北に走る。規模は、長さ9.3m、幅0.3～0.4m、深さ0.05mである。底面標高は北端で78.65m、中央部で78.84m、南端で78.99mと北側に向かって下がっている。排水溝と考えられ、北に向かって排水がされたと推測される。縄文土器の細片を極少量出土しているが、この他に時期を特

## 溝7



## 溝7断面A



## 溝7断面B



## 溝7断面C



## 溝7断面D



## 溝7断面A・B

- 1 10YK3-3暗褐色シルト 粘性やや弱 雜まりやや強
- 2 10YK5-6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 雜まりやや密 地山

## 溝7断面C

- 1 10YK3-3暗褐色シルト 粘性やや弱 雜まりやや強
- 2 10YK5-6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 雜まりやや密 地山

## 溝7断面D

- 1 10YK2-2黒褐色シルト 粘性やや弱 雜まりやや強
- 2 10YK3-3暗褐色シルト 粘性やや弱 雜まりやや強
- 3 10YK5-6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 雜まりやや密 地山

## 溝9

## 溝9断面A

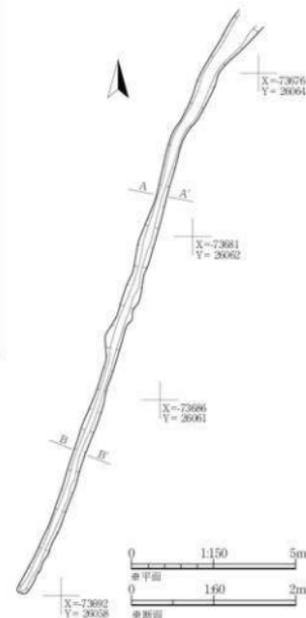


## 溝9断面B



## 溝9断面A・B

- 1 10YK2-2黒褐色シルト 粘性やや弱 雜まりやや強
- 2 10YK5-6黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 雜まりやや密 地山



第34図 溝7・9

定できる遺物は出土していないことから、中世～近現代の時期と広く捉えておきたい。

#### 溝 12 (第 35 図、写真図版 48・49)

南区東側の X=-73717～-73755、Y=26095～26132 付近に位置する。東から南に向かって大きく曲がる溝である。北辺と直角に繋がる西辺は、別遺構の可能性も考えられる。地形に沿って下がる南側は、本溝跡と溝 14～16 に枝分かれするが、本来流れていた流路が埋没して向きが徐々に変わったことによると推測される。明確な切り合いは確認していないが、溝 14→溝 16→溝 15→溝 12 と流路が変化したことが想定される。規模は、長さが北辺が 28.5 m、西辺から溝 14 との交叉部までが 25 m、交叉部から南側の南辺が 30.0 m の計 63.5 m である。幅は 0.3～1.2 m、深さ 0.04～0.15 m である。底面標高は北辺東端で 78.08 m、北辺中央部で 78.82 m、北辺西端で 79.20 m、西辺中央部で 78.86 m、溝 14 との交叉部で 78.03 m、南辺中央部で 77.35 m、南辺南端で 76.89 m を測り、北辺と西辺が直角に交わる箇所から、東と南に向かって下がる。状況から排水溝と考えられ、東と南に向かって排水がされたと推測される。縄文時代晩期の土器片を少量と剥片 22 点を出土しているが、遺構の時期を特定できる遺物は出土していないことから、中世～近現代の時期と広く捉えておきたい。

#### 溝 13 (第 35 図、写真図版 50)

南区東側の X=-73728～-73737、Y=26094～26096 付近に位置する。溝 12 の西側に隣接し、ほぼ平行して南北に走る。規模は、長さ 11.0 m、幅 0.3～0.6 m、深さ 0.05～0.08 m である。底面標高は北端で 79.04 m、中央部で 78.98 m、南端で 78.95 m と南側に向かって下がっている。排水溝と考えられ、南に向かって排水がされたと推測される。剥片 1 点のみを出土しており、この他に時期を特定できる遺物は出土していないことから、中世～近現代の時期と広く捉えておきたい。

#### 溝 14 (第 35 図、写真図版 49・50)

南区南東側の X=-73746～-73756、Y=26104～26130 付近に位置する。溝 12 から枝分かれする溝跡で、最初に流れていた流路と考えられる。溝 15・16 は、その後続く流路と見られる。規模は、溝 12 から枝分かれする箇所からの長さが 26.5 m、幅は 0.2～1.0 m、深さ 0.16～0.25 m である。底面標高は北西端で 77.96 m、中央部で 77.53 m、南東端で 77.14 m を測り、南に向かって下がっている。溝 12 と同様に排水溝と考えられ、南に向かって排水されたと推測される。縄文時代晩期の土器片を少量と剥片 26 点を出土しているが、遺構の時期を特定できる遺物は出土していないことから、中世～近現代の時期と広く捉えておきたい。

#### 溝 15 (第 35 図、写真図版 49・50)

南区南東側の X=-73753～-73755、Y=26118～26130 付近に位置する。溝 14 から枝分かれする溝跡で、溝 16 の次に流れていた流路と考えられる。規模は、溝 14 から枝分かれする箇所からの長さが 11.0 m、幅は 0.2～0.6 m、深さ 0.22 m である。底面標高は西端で 77.56 m、中央部で 77.24 m、南東端で 77.15 m を測り、東に向かって下がっている。溝 14 と同様に排水溝と考えられ、東に向かって排水されたと推測される。剥片 5 点のみを出土しており、この他に時期を特定できる遺物は出土して



いないことから、中世～近現代の時期と広く捉えておきたい。

#### 溝 16 (第 35 図、写真図版 49・50)

南区南東側の X=-73754 ~ -73756、Y=26121 ~ 26123 付近に位置する。溝 14 から枝分かれする溝跡で、溝 15 以前に流れていた流路と考えられる。規模は、溝 14 から枝分かれする箇所からの長さが 3.3 m、幅は 0.3 ~ 0.7 m、深さ 0.05 m である。底面標高は西端で 77.51 m、東端で 77.63 m を測り、東に向かって下がっている。溝 14 と同様に排水溝と考えられ、東に向かって排水されたと推測される。遺物は出土していないが、中世～近現代の時期と広く捉えておきたい。

#### 溝 17 (第 36 図、写真図版 51)

南区北側の X=-73727 ~ -73739、Y=26080 ~ 26085 付近に位置する。中央が途切れる小規模な溝跡である。規模は、長さ 11.6 m、幅 0.2 ~ 0.3 m、深さ 0.08 m である。底面標高は北東端で 79.29 m、中央部で 79.32 m、南西端で 79.38 m を測り、北に向かって下がっている。排水溝と考えられ、北に向かって排水されたと推測される。遺物は出土していないが、中世～近現代の時期と広く捉えておきたい。

#### 溝 18 (第 36 図、写真図版 51)

南区北側の X=-73741 ~ -73742、Y=26070 ~ 26077 付近に位置する。導水管部分のある西側から延びる溝 19 から、枝分かれする溝である。規模は、溝 19 から枝分かれする箇所からの長さが 6.0 m、幅は 0.2 ~ 0.6 m、深さ 0.06 m である。底面標高は西端で 79.66 m、東端で 79.54 m を測り、溝 19 とほぼ同じ高さで、東に向かって下がっている。排水溝と考えられ、溝 19 と同様に排水のための溝と推測される。遺物は出土していないが、中世～近現代の時期と広く捉えておきたい。

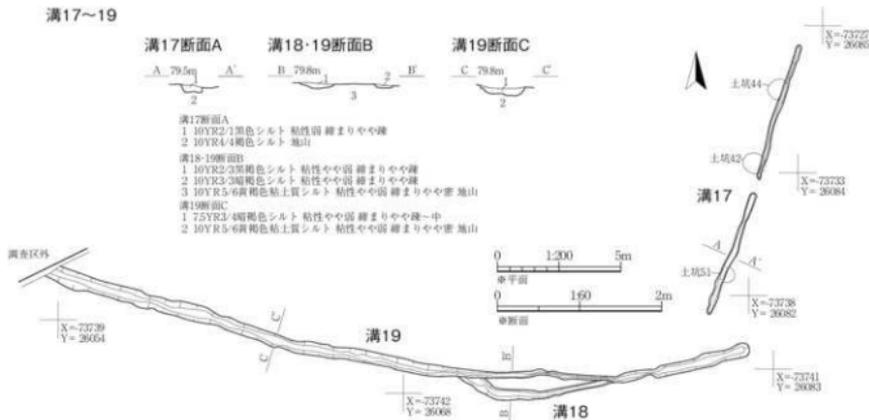
#### 溝 19 (第 36 図、写真図版 51)

南区北側の X=-73736 ~ -73742、Y=26053 ~ 26082 付近に位置する。導水管部分のある西側から延びる溝跡で、途中から溝 18 に枝分かれする。規模は、長さ 28.8 m、幅は 0.2 ~ 0.7 m、深さ 0.03 ~ 0.08 m である。底面標高は西端で 79.24 m、中央部で 79.63 m、東端で 79.21 m を測り、中央から東西に向かって下がっている。排水溝と考えられ、中央の雨水を東西両側に向かって排水していたと推測される。遺物は出土していないが、中世～近現代の時期と広く捉えておきたい。

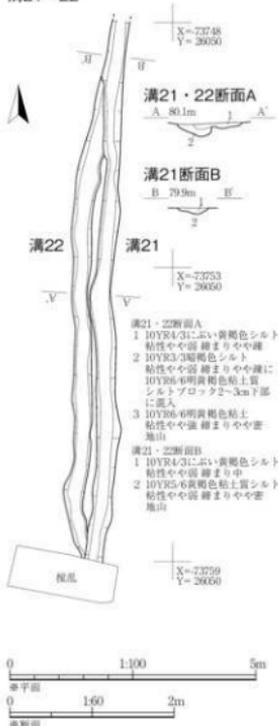
#### 溝 21 (第 36 図、写真図版 52)

南区西側の X=-73748 ~ -73759、Y=26048 ~ 26050 付近に位置する。南区の最も高い標高 80.0 m 付近で南北に延びる溝跡で、途中から溝 22 に枝分かれする。断面 A から、溝 21 → 溝 22 に流路が変化したと考えられる。規模は、長さ 11.0 m、幅は 0.25 ~ 0.5 m、深さ 0.08 ~ 0.15 m である。底面標高は北端で 79.67 m、中央部で 79.94 m、南端で 79.92 m を測り、中央から南北に向かって下がっている。排水溝と考えられ、中央の雨水を南北両側に向かって排水していたと推測される。剥片 1 点のみを出土しており、この他に時期を特定できる遺物は出土していないことから、中世～近現代の時期と広く捉えておきたい。

## 溝17~19



## 溝21・22



## 溝22 (第36図、写真図版52)

南区西側の  $X=73748 \sim 73759$ ,  $Y=26048 \sim 26050$  付近に位置する。南区の最も高い標高 80.0 m 付近で南北に延びる溝跡で、溝 21 の途中から溝枝分かれする。断面 A から、溝 21 → 溝 22 に流路が変化したと考えられる。規模は、溝 21 から枝分かれする箇所からの長さが 9.8 m、幅は 0.3 ~ 0.5 m、深さ 0.06 m である。底面標高は北端で 79.79 m、中央部で 79.98 m、南端で 79.97 m を測り、中央から南北に向かって下がっている。溝 21 から流路が変わった排水溝と考えられ、中央の雨水を南北両側に向かって排水していたと推測される。遺物は出土していないが、中世～近現代の時期と広く捉えておきたい。

## 溝24 (第37図、写真図版52・53)

南区南側の  $X=73764 \sim 73773$ ,  $Y=26053 \sim 26108$  付近に位置する。溝 25 の北側に平行して東西に延びる溝跡で、西側はやや途切れるが繋がると考えられる。また、南北に走る溝 28 も連結する可能性がある。規模は、長さ 58.0 m、幅は 0.2 ~ 0.7 m、深さ 0.1 m である。底面標高は西端で 79.32 m、中央部で 79.02 m、東端で 78.40 m を測り、西から東に向かって下がっている。排水溝と考えられ、一段下がる南側に雨水を流さないために東西に走る溝を施し、東に向かって排水していたと推測される。縄文土器の細片を少量と剥片 1 点を出土しているが、時期を特定できる遺物は出土していないことから、中世～近

第36図 溝17～19、21・22

代の時期と広く捉えておきたい。

#### 溝 25 (第 37 図、写真図版 53・54)

南区南側の X=-73768~-73775、Y=26053~26106 付近に位置する。溝 24 の南側に平行して東西に延びる溝跡で、西側は攪乱の影響を受けているが、まだ西側に延びると考えられる。また、溝 27 は枝分かれした流路と考えられる。規模は、途切れているが長さ 52.6 m、幅は 0.5~1.2 m、深さ 0.15~0.2 m である。底面標高は西端で 78.80 m、中央部で 78.63 m、東端で 78.33 m を測り、西から東に向かって下がっている。排水溝と考えられ、北側からの雨水を南側へ流さないために東西に走る溝を施し、東に向かって排水していたと推測される。縄文晩期の土器細片を少量と剥片 20 点を出土しているが、時期を特定できる遺物は出土していないことから、中世~近現代の時期と広く捉えておきたい。

#### 溝 26 (第 37 図、写真図版 54・55)

南区南側の X=-73759~-73763、Y=26048~26072 付近に位置する。溝 21・22 南端付近から東西に延びる溝跡で、溝 19・24 にはほぼ平行して走っている。規模は、長さ 23.5 m、幅は 0.3~0.7 m、深さ 0.08 m である。底面標高は西端で 79.83 m、中央部で 79.67 m、東端で 79.44 m を測り、西から東に向かって下がっている。排水溝と考えられ、北側からの雨水を南側へ流さないために東西に走る溝を施し、東に向かって排水していたと推測される。遺物は出土していないが、中世~近現代の時期と広く捉えておきたい。

#### 溝 27 (第 37 図)

南区南側の X=-73770~-73773、Y=26066~26081 付近に位置する。溝 25 の南側に枝分かれする溝跡で、溝 25 の流路が一部変わった部分と考えられる。規模は、溝 25 から枝分かれする箇所からの長さが 15.0 m、幅は 0.2~0.4 m、深さ 0.03 m である。底面標高は西端で 78.74 m、中央部で 78.60 m、東端で 78.71 m を測り、東西から中央に向かって下がっている。溝 25 と同様に排水溝と考えられ、北側からの雨水を南側へ流さないために東西に走る溝を施し、東に向かって排水していたと推測される。遺物は出土していないが、溝 25 と同時期中世~近現代の時期と広く捉えておきたい。

#### 溝 28 (第 37 図、写真図版 55)

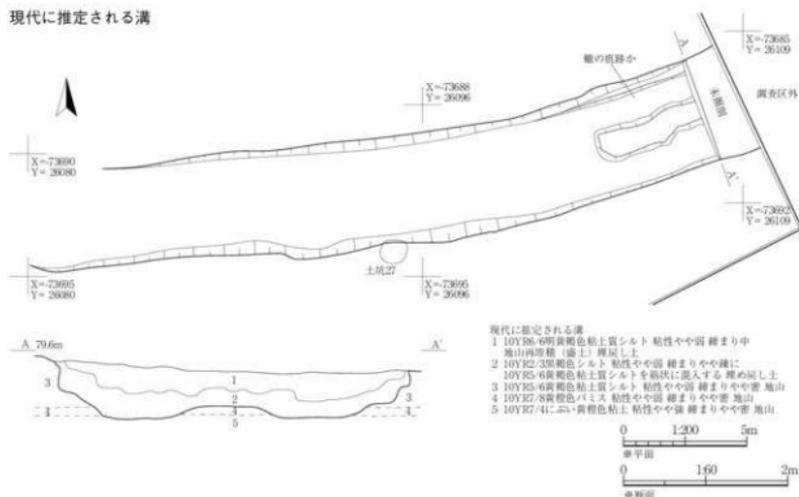
南区南側の X=-73762~-73770、Y=26068~26070 付近に位置する。東西に走る北側の溝 26 と南側の溝 24 の間に南北に延びる溝跡で、2 条の溝跡を連結していた可能性もある。規模は、長さ 6.5 m、幅は 0.2~0.4 m、深さ 0.05 m である。底面標高は北端で 79.46 m、中央部で 79.33 m、東端で 79.07 m を測り、北から南に向かって下がっている。排水溝と考えられ、溝 26 の雨水を連結した溝 24 へ排水していた可能性がある。遺物は出土していないが、中世~近現代の時期と広く捉えておきたい。

#### 現代に推定される溝 (第 38 図、写真図版 57)

中央区南側の X=-73685~-73695、Y=26080~26109 付近に位置する。当初、長さ約 30 m、幅約 4 m の大規模なプランから、城館に伴う堀を想定して調査を行った。掘削の結果、埋土上位は明黄褐色粘土質シルトの地山埋め戻し土、埋土下位は黒褐色シルトに黄褐色粘土質シルトの地山土を筋状に堆積しており、一括土で埋め戻されていた。また、底面に轍状の窪みが認められ、工事機械による掘



## 現代に推定される溝



第38図 現代に推定される溝

前と運搬車の工事用道路が想定されたことから、ごく最近の工事などに伴う掘削痕と判断した。規模は、長さ30.0m、幅は3.9～4.4m、深さ0.68mである。縄文土器片を少量出土しているが、前述の堆積状況から、現代の攪乱と推定される。(北田)

## (3) 柱穴状ピット (第4表)

検出した柱穴状ピット207個のうち、等間隔に並ぶ方形基調のピット計110個は、標高に関係なく立地する特徴から、植栽痕である可能性がある。また、これら110個と欠番3個を差し引いた94個については、縄文時代以降の柱穴状ピットとした。大半のピットは規則性を有せず、調査区域に散在している。この中で、中央区南東端のP61・32・59・33・58は等間隔で直線に並んでおり、建物や堀跡を構成していた可能性もあるが導水管部分など調査区外へと延びており明らかでない。これら柱穴状ピットからは縄文時代の遺物のみを出土しているが、後世の遺構である可能性もある。

また、昭和63年の埋文調査の際、川沿いの工業用水道施設の建設予定地部分から建物様の配列を示す土坑55基が確認されているが、「建物跡様の配列を示す土坑群は、円形・方形の土坑の重複関係などから同一地点において2時期の形成期が存在することは明らかである。また一部の土坑では、その底面や埋土に柱痕跡に近似した状態をもってはいるものの積極的掘立柱建物跡と言えるものはない。また所属する時代を示す資料も存在しない」と報告されており、今回検出した等間隔に並ぶ柱穴状ピット群と近似していることから、同様の植栽痕の可能性も指摘される(財)岩文埋1989)。

(北田)

第4表 柱穴状ビット計測表

( ) : 残存直

遺構名	グリッド	幅相 (cm)				底面標高 (m)	備考	
		上層		下層				
		長軸	短軸	長軸	短軸			
P1	X = 7389 Y = 2690	35	34	18	16	61	79.231	
P2	X = 7381 Y = 2651	37	32	17	10	71	79.066	
P3	X = 7388 Y = 2656	34	29	16	15	29	78.645	
P4	X = 7387 Y = 2655	32	29	20	13	13	78.868	
P5	X = 7386 Y = 2656	37	27	10	9	36	78.701	
P6	X = 7382 Y = 2657	37	32	12	9	45	78.515	
P7	X = 7388 Y = 2658	35	32	25	16	30	78.591	
P8	X = 7386 Y = 2659	35	31	26	23	11	78.813	
P9	X = 7385 Y = 2658	22	21	10	6	47	78.553	
P10	X = 7388 Y = 2664	53	41	37	24	16	78.875	
P11	X = 7382 Y = 2662	31	26	20	16	32	79.477	
P12	X = 7328 Y = 2653	28	27	12	8	55	79.013	
P13	X = 7381 Y = 2656	42	35	35	24	50	78.726	
P14	X = 7385 Y = 2663	47	33	22	20	23	79.464	
P15	X = 7385 Y = 2665	48	37	28	13	26	79.217	
P16	X = 7384 Y = 2660	66	49	48	37	29	78.767	
P17	X = 7386 Y = 2655	26	25	13	11	30	79.510	
P18	X = 7386 Y = 2631	29	24	17	14	18	78.947	
P19	X = 7382 Y = 2652	24	24	15	9	33	79.653	
P20	X = 7384 Y = 2618	32	23	14	13	26	79.560	
P21	X = 7383 Y = 2618	39	31	21	18	15	79.668	
P22	X = 7367 Y = 2634	31	24	11	6	25	78.282	
P23	X = 7383 Y = 2683	45	43	27	18	18	76.946	
P24	X = 7362 Y = 2656	50	46	31	21	20	76.800	
P25	X = 7392 Y = 2686	29	25	14	13	25	79.270	
P26	X = 7389 Y = 2688	29	26	15	12	30	79.394	
P27	X = 7380 Y = 2690	42	32	33	19	24	79.408	
P28	X = 7392 Y = 2691	30	25	17	14	25	79.218	
P29	X = 7392 Y = 2690	84	69	72	54	18	79.468	
P30	X = 7390 Y = 2689	33	30	26	21	14	79.402	
P31	X = 7392 Y = 2691	28	22	20	19	37	79.215	
P32	X = 7386 Y = 2632	68	59	32	26	79	78.743	
P33	X = 7386 Y = 2636	52	55	23	19	66	78.678	
P34	X = 7382 Y = 2639	25	25	14	12	17	79.006	
P35	X = 7381 Y = 2639	22	21	14	11	24	78.960	
P36	X = 7381 Y = 2638	26	19	15	11	14	79.157	
P37	X = 7385 Y = 2695	55	52	40	38	29	79.279	植栽痕
P38	X = 7387 Y = 2696	63	60	49	46	27	79.133	植栽痕
P39	X = 7380 Y = 2697	60	53	48	41	34	79.103	植栽痕
P40	X = 7387 Y = 2698	63	49	48	41	34	79.102	植栽痕
P41	X = 7385 Y = 2699	65	59	47	44	31	79.097	植栽痕

遺構名	グリッド	幅相 (cm)				底面標高 (m)	備考	
		上層		下層				
		長軸	短軸	長軸	短軸			
P42	X = 7383 Y = 2699	56	47	44	41	14	79.036	植栽痕
P43	X = 7380 Y = 2699	51	49	44	42	17	79.005	植栽痕
P44	X = 7386 Y = 2698	61	51	47	39	30	79.338	植栽痕
P45	X = 7384 Y = 2699	64	51	45	40	25	79.338	植栽痕
P46	X = 7381 Y = 2699	62	57	46	40	30	79.276	植栽痕
P47	X = 7382 Y = 2699	70	57	40	35	31	79.266	植栽痕
P48	X = 7385 Y = 2691	51	47	44	38	17	79.329	植栽痕
P49	欠庫							
P50	X = 7381 Y = 2693	71	64	64	55	16	79.170	植栽痕
P51	X = 7384 Y = 2691	70	60	50	44	21	79.502	植栽痕
P52	X = 7382 Y = 2692	57	46	43	33	25	79.485	植栽痕
P53	X = 7389 Y = 2693	49	48	36	34	22	79.472	植栽痕
P54	X = 7387 Y = 2694	51	49	38	36	19	79.456	植栽痕
P55	X = 7387 Y = 2691	61	50	48	41	22	79.489	植栽痕
P56	X = 7384 Y = 2695	63	56	46	34	27	79.382	植栽痕
P57	X = 7382 Y = 2695	54	49	45	35	27	79.335	植栽痕
P58	X = 7384 Y = 2698	57	48	36	33	44	78.759	
P59	X = 7386 Y = 2694	75	57	18	15	110	78.567	
P60	X = 7381 Y = 2696	30	25	22	19	18	79.309	
P61	X = 7387 Y = 2699	52	45	37	32	28	79.316	
P62	X = 7382 Y = 2693	26	24	13	11	22	79.380	
P63	X = 7383 Y = 2693	42	38	25	18	73	78.837	
P64	X = 7382 Y = 2691	21	18	11	9	28	79.315	
P65	X = 7381 Y = 2691	26	23	13	12	22	79.367	
P66	X = 7382 Y = 2690	38	26	30	10	23	79.183	
P67	X = 7382 Y = 2691	36	22	12	10	55	78.906	
P68	X = 7387 Y = 2690	47	42	39	27	18	79.241	
P69	X = 7384 Y = 2690	24	20	9	6	33	78.968	
P70	X = 7383 Y = 2699	21	19	10	9	23	79.021	
P71	X = 7381 Y = 2691	24	22	13	13	24	78.945	
P72	X = 7385 Y = 2690	45	39	34	30	17	79.293	
P73	X = 7388 Y = 2698	34	33	24	21	25	79.340	
P74	X = 7389 Y = 2693	50	32	31	13	20	77.679	
P75	X = 7384 Y = 2696	42	38	18	11	32	77.684	
P76	X = 7388 Y = 2697	49	32	18	15	38	77.735	
P77	X = 7389 Y = 2695	27	23	12	8	24	77.832	
P78	X = 7390 Y = 2696	49	33	17	14	21	77.887	
P79	X = 7385 Y = 2695	20	17	9	7	14	78.255	
P80	X = 7385 Y = 2695	27	23	12	9	15	78.263	
P81	X = 7383 Y = 2697	73	60	43	41	17	78.330	
P82	X = 7388 Y = 2694	50	40	30	21	26	78.370	

遺構名	グリッド	規模 (cm)					遺留標高 (m)	備考
		上層		下層		障子		
		長軸	短軸	長軸	短軸			
P83	X = 7278 Y = 2053	37	32	14	13	24	77.631	
P84	X = 7225 Y = 2041	27	19	15	7	31	78.103	
P85	X = 7227 Y = 2038	24	18	15	9	16	78.262	
P86	X = 7307 Y = 2052	59	47	51	41	17	79.153	積炭痕
P87	X = 7305 Y = 2050	50	49	46	41	29	79.003	積炭痕
P88	X = 7329 Y = 2091	59	58	43	42	30	78.885	積炭痕
P89	X = 7367 Y = 2095	57	50	41	40	32	78.837	積炭痕
P90	X = 7381 Y = 2096	68	66	44	43	32	78.826	積炭痕
P91	欠番							
P92	X = 7369 Y = 2058	59	56	45	42	19	78.773	積炭痕
P93	X = 7386 Y = 2050	57	56	46	41	28	78.832	積炭痕
P94	X = 7384 Y = 2050	62	55	43	41	32	78.773	積炭痕
P95	X = 7384 Y = 2091	64	57	47	41	36	78.670	積炭痕
P96	X = 7368 Y = 2052	66	58	48	43	34	78.583	積炭痕
P97	X = 7326 Y = 2053	(54)	(39)	(47)	(35)	33	78.586	積炭痕
P98	X = 7323 Y = 2091	60	56	47	42	27	78.573	積炭痕
P99	X = 7321 Y = 2095	61	51	47	46	25	78.580	積炭痕
P100	X = 7368 Y = 2095	53	49	44	41	19	78.543	積炭痕
P101	X = 7365 Y = 2092	59	53	45	40	28	78.629	積炭痕
P102	X = 7383 Y = 2098	63	56	49	42	31	78.487	積炭痕
P103	X = 7380 Y = 2099	62	54	51	40	32	78.398	積炭痕
P104	X = 7328 Y = 2090	63	54	49	40	26	78.331	積炭痕
P105	X = 7325 Y = 2090	64	57	45	44	10	78.317	積炭痕
P106	X = 7321 Y = 2091	58	53	52	44	19	78.289	積炭痕
P107	X = 7320 Y = 2092	60	53	50	44	18	78.315	積炭痕
P108	X = 7387 Y = 2093	56	56	51	46	17	78.218	積炭痕
P109	X = 7384 Y = 2094	61	57	48	45	27	78.361	積炭痕
P110	X = 7382 Y = 2095	58	56	48	44	31	78.255	積炭痕
P111	X = 7329 Y = 2096	58	51	48	41	24	78.217	積炭痕
P112	X = 7367 Y = 2097	53	50	44	38	18	78.152	積炭痕
P113	X = 7321 Y = 2098	57	46	46	38	18	78.077	積炭痕
P114	X = 7322 Y = 2099	52	49	42	39	17	78.024	積炭痕
P115	X = 7369 Y = 2099	50	49	46	39	10	78.073	積炭痕
P116	X = 7367 Y = 2090	(64)	(62)	71	67	13	78.059	積炭痕
P117	X = 7384 Y = 2092	58	46	43	35	13	78.215	積炭痕
P118	X = 7381 Y = 2093	48	42	36	33	12	78.085	積炭痕
P119	X = 7328 Y = 2093	51	44	45	37	10	78.017	積炭痕
P120	X = 7320 Y = 2094	(49)	(46)	46	(24)	6	77.970	積炭痕
P121	X = 7323 Y = 2095	(53)	(49)	(27)	(22)	10	77.916	積炭痕
P122	X = 7321 Y = 2096	31	22	16	10	6	77.875	積炭痕
P123	X = 7367 Y = 2094	60	60	45	50	8	77.546	積炭痕

遺構名	グリッド	規模 (cm)					遺留標高 (m)	備考
		上層		下層		障子		
		長軸	短軸	長軸	短軸			
P124	X = 7325 Y = 2095	62	62	54	51	10	77.478	積炭痕
P125	X = 7322 Y = 2096	63	58	58	54	11	77.419	積炭痕
P126	X = 7320 Y = 2097	64	61	61	56	22	77.325	積炭痕
P127	X = 7367 Y = 2098	60	56	49	48	22	77.255	積炭痕
P128	X = 7384 Y = 2098	76	71	56	49	11	77.245	積炭痕
P129	X = 7366 Y = 2070	(62)	57	58	57	19	77.361	積炭痕
P130	X = 7321 Y = 2099	62	(59)	(59)	52	30	77.474	積炭痕
P131	X = 7323 Y = 2098	68	62	59	53	17	77.456	積炭痕
P132	X = 7323 Y = 2098	68	61	59	58	15	77.474	積炭痕
P133	X = 7326 Y = 2092	60	55	53	51	13	77.551	積炭痕
P134	X = 7329 Y = 2097	55	53	45	38	19	77.455	積炭痕
P135	X = 7329 Y = 2099	64	58	55	54	17	77.361	積炭痕
P136	X = 7367 Y = 2070	68	62	60	52	28	77.550	積炭痕
P137	X = 7321 Y = 2071	58	58	54	51	19	77.471	積炭痕
P138	X = 7321 Y = 2072	67	59	56	51	22	77.440	積炭痕
P139	X = 7369 Y = 2073	59	59	56	53	12	77.430	積炭痕
P140	X = 7366 Y = 2053	66	59	55	53	18	77.390	積炭痕
P141	X = 7327 Y = 2072	68	62	58	50	11	77.639	積炭痕
P142	X = 7328 Y = 2073	43	(27)	35	(19)	12	77.682	積炭痕
P143	X = 7325 Y = 2073	(50)	46	34	(22)	6	77.642	積炭痕
P144	X = 7322 Y = 2074	69	68	56	55	11	77.616	積炭痕
P145	X = 7320 Y = 2075	56	(45)	56	46	14	77.373	積炭痕
P146	X = 7323 Y = 2075	45	(21)	36	(18)	12	77.547	積炭痕
P147	X = 7326 Y = 2076	(50)	49	44	41	18	77.628	積炭痕
P148	X = 7326 Y = 2076	(51)	47	48	(47)	4	77.723	積炭痕
P149	X = 7328 Y = 2075	45	37	36	29	6	77.731	積炭痕
P150	X = 7384 Y = 2074	41	33	22	20	7	77.716	積炭痕
P151	X = 7369 Y = 2072	67	64	53	49	7	77.748	積炭痕
P152	欠番							
P153	X = 7321 Y = 2074	(46)	38	37	35	6	77.605	積炭痕
P154	X = 7366 Y = 2034	56	40	33	24	27	79.635	
P155	X = 7321 Y = 2038	43	33	22	12	42	79.242	
P156	X = 7321 Y = 2032	46	38	31	23	32	79.318	
P157	X = 7321 Y = 2031	41	32	22	16	35	79.382	
P158	X = 7321 Y = 2031	37	29	26	19	24	79.395	
P159	X = 7367 Y = 2032	43	34	17	15	41	79.316	
P160	X = 7365 Y = 2038	36	26	16	12	34	78.096	
P161	X = 7320 Y = 2033	56	47	36	27	33	79.641	
P162	X = 7327 Y = 2099	24	22	15	12	20	78.379	
P163	X = 7360 Y = 2093	48	45	19	16	35	77.096	
P164	X = 7321 Y = 2037	56	50	47	40	16	78.749	

遺構名	グリッド	規模 (cm)				底辺標高 (m)	備考	
		上層		下層				
		長軸	短軸	長軸	短軸			
P165	X = 7221 Y = 26103	61	52	30	13	41	78.704	
P166	X = 7226 Y = 26110	40	34	36	17	18	78.215	
P167	X = 7253 Y = 26115	40	36	21	20	20	77.695	
P168	X = 7233 Y = 26111	28	26	15	12	27	78.164	
P169	X = 7228 Y = 26100	43	40	26	23	38	78.328	
P170	X = 7228 Y = 26098	35	33	24	19	34	78.470	
P171	X = 7226 Y = 26082	60	53	44	33	13	79.229	
P172	X = 7219 Y = 26090	30	24	19	17	35	78.319	
P173	X = 7227 Y = 26077	26	24	11	8	17	79.311	
P174	X = 7230 Y = 26119	31	28	13	12	45	77.380	
P175	X = 7231 Y = 26101	40	33	22	17	11	78.483	
P176	X = 7233 Y = 26080	23	21	9	8	21	78.828	
P177	X = 7217 Y = 26089	28	23	10	7	22	78.916	
P178	X = 7234 Y = 26081	57	46	29	25	14	79.151	
P179	X = 7226 Y = 26096	61	60	54	53	17	79.921	構築痕
P180	X = 7225 Y = 26063	77	63	67	52	12	79.911	構築痕
P181	X = 7224 Y = 26062	63	45	27	23	23	79.733	構築痕
P182	X = 7222 Y = 26061	68	65	57	54	14	79.896	構築痕
P183	X = 7234 Y = 26097	62	61	52	50	13	79.845	構築痕
P184	X = 7220 Y = 26091	69	65	58	58	13	79.818	構築痕
P185	X = 7219 Y = 26081	65	63	58	57	11	79.712	構築痕
P186	X = 7217 Y = 26064	70	62	59	56	17	79.627	構築痕
P187	X = 7222 Y = 26066	68	58	55	49	19	79.883	構築痕
P188	X = 7218 Y = 26047	62	61	60	55	10	79.738	構築痕
P189	X = 7226 Y = 26066	64	58	52	44	9	79.290	構築痕
P190	X = 7230 Y = 26064	65	63	58	53	17	79.440	構築痕
P191	X = 7220 Y = 26061	72	66	58	55	18	79.427	構築痕
P192	X = 7230 Y = 26058	70	60	60	48	16	79.548	構築痕
P193	X = 7230 Y = 26056	75	65	62	55	16	79.564	構築痕
P194	X = 7225 Y = 26067	38	34	21	18	40	79.613	
P195	X = 7231 Y = 26068	32	31	24	21	41	79.170	
P196	X = 7226 Y = 26061	68	62	54	52	12	79.931	構築痕
P197	X = 7226 Y = 26058	83	68	68	50	7	79.432	構築痕
P198	X = 7224 Y = 26059	30	27	18	16	28	79.738	
P199	X = 7214 Y = 26064	74	73	60	60	14	79.452	構築痕
P200	X = 7215 Y = 26065	67	63	54	51	8	79.293	構築痕
P201	X = 7219 Y = 26058	68	65	59	53	14	79.218	構築痕
P202	X = 7232 Y = 26067	75	70	64	59	18	79.396	構築痕

遺構名	グリッド	規模 (cm)				底辺標高 (m)	備考	
		上層		下層				
		長軸	短軸	長軸	短軸			
P203	X = 7215 Y = 26017	75	69	61	58	15	79.527	構築痕
P204	X = 7231 Y = 26068	31	26	21	19	35	79.501	
P205	X = 7228 Y = 26043	61	60	50	48	7	79.935	構築痕
P206	X = 7227 Y = 26041	54	52	47	42	11	79.915	構築痕
P207	X = 7262 Y = 26129	34	28	12	11	34	78.849	

型穴 1

P1	X = 7207 Y = 26082	26	23	14	13	8	79.222	
P2	X = 7207 Y = 2608	21	18	10	8	9	79.319	
P3	X = 7206 Y = 26082	19	18	11	11	12	79.321	
P4	X = 7206 Y = 26082	17	14	11	8	5	79.358	
P5	X = 7206 Y = 26083	17	15	6	5	8	79.384	

型穴 2

P1	X = 7309 Y = 26081	23	21	9	8	20	78.732	
P2	X = 7308 Y = 26080	22	19	12	7	20	78.751	
P3	X = 7308 Y = 26080	24	20	10	7	51	78.963	
P4	X = 7308 Y = 26080	24	23	14	11	9	78.883	
P5	X = 7307 Y = 26080	22	18	8	8	12	78.822	
P6	X = 7306 Y = 26081	27	24	16	14	12	78.885	
P7	X = 7307 Y = 26082	15	15	7	6	15	78.923	
P8	X = 7308 Y = 26082	19	19	10	8	9	78.981	
P9	X = 7309 Y = 26082	21	16	6	5	28	78.752	
P10	X = 7309 Y = 26081	23	17	9	7	10	78.981	
P11	X = 7290 Y = 26081	20	18	11	9	7	79.000	
P12	X = 7290 Y = 26080	24	21	13	10	13	78.961	
P13	X = 7309 Y = 26080	20	18	11	9	6	78.973	
P14	X = 7308 Y = 26080	17	17	5	4	21	78.754	

型穴 3

P1	X = 7362 Y = 26117	27	26	13	11	24	79.609	
P2	X = 7361 Y = 26115	31	30	18	13	25	79.551	
P3	X = 7369 Y = 26116	31	28	16	14	10	79.687	
P4	X = 7360 Y = 26118	28	24	15	11	23	79.673	
P5	X = 7369 Y = 26117	30	27	16	12	30	79.712	

型穴 4

P1	X = 7369 Y = 26096	19	18	14	11	12	76.935	
P2	X = 7369 Y = 26096	20	18	10	8	14	76.897	
P3	X = 7369 Y = 26096	19	14	6	5	10	76.915	

## V 出土遺物

今回の調査から、縄文時代早期～晩期の土器・石器・土製品・石製品、中世～近代の陶磁器が出土した。遺物の主体は、縄文時代後期～晩期で8割ほどを占める。以下、遺物の種類別に記載する。

### I 土 器

土器は大コンテナで計3箱出土し、1～87の計87点を掲載した。今回の調査からは、縄文時代早期、中期、後期、晩期の土器が出土した。掲載にあたっては、これらの出土土器を時期ごとにI～IV群に分け、その上で特徴によってさらに細分した。なお、個別の特徴については観察表に記載している。

#### I群 縄文時代早期

A類は、早期中葉の寺の沢式に相当する。尖底深鉢と考えられ、貝殻縁線文や貝殻条痕文、貝殻押し文を施す(1・2・56～61)。また、胴部に鋸歯状の多重沈線文を施文する(53)。B類は、早期後葉の榎木1式に相当する。細隆起線文による文様表現を特徴とし、薄手に作られる(55・62)。遺構外を中心に出土しており、1・2は堅穴2埋土から確認されている。

#### II群 縄文時代中期

中期末葉に位置付けられる土器で、63は大本木10式新段階に相当する。51・67は口縁部に無文帯を持つ土器で、54は磨消縄文が施される。

#### III群 縄文時代後期

A類は、後期初頭～前葉の網取I式に相当する。ボタン状貼付文と弧線文が施される(15)。B類は、後期前葉後半の十腰内I式(新)に相当する。渦状入組文が展開するものや弧線文、方形区画文を施す(4・6・8・18・47・52・64・65・68)。また、3・5の多重沈線文が展開するものは、新相に位置付けられる。縄文のみを施文する7・19・50・66についてもこの時期に含めた。堅穴3は、B類がまとまって出土しており、該期に廃絶した遺構と考えられる。

#### IV群 縄文時代晩期

A類は、晩期初頭～前葉の大洞B1～2式に相当する。入組三叉文や半肉彫り的な磨消文様が展開する一群で、深鉢・鉢・壺・注口が出土している(14・25～29・31・35～43・45・46・48・69・70)。B類は、晩期前葉の大洞BC1～2式に相当し、半歯状文や雲形文、C字状文が施される一群で、深鉢・鉢・台付浅鉢・注口が出土している(21・23・24・44・77・78)。土器埋設遺構に設置されたものを含む縄文のみを施文する深鉢(9～13・79)、胴部下半のみの深鉢(16・17・32)、20・22鉢や33壺などは晩期前半までに取まると考えた。C類は、晩期中葉の大洞C1～2式に相当し、単純化し退化した雲形文を展開する台付鉢がある(72～74)。75は、四脚の台付き鉢の脚部である。また、口縁部に多重平行沈線が施される九年橋型に類似する深鉢はこの時期に含まれる(80～85)。D類は、晩期末葉の大洞A'式に相当し、変形工字文や匹字文が展開する。器種は、鉢・台付鉢・台付浅鉢が出土している(34・71・76・86・87)。(北田)

## 2 石 器

石器は中コンテナで計12箱出土し、計2,225点を登録した。このうち、88～201の計114点を掲載した。出土石器の所属時期から、縄文時代早期、中期、後期、晩期に製作されたと見られるが、石器の出土量を見ると縄文時代後期～晩期が主体と考えられる。器種は、石槍、石鏃、石匙、石錐、篋状石器、楔形石器、スクレイパー類、二次加工ある剥片、微細剥離痕ある剥片、剥片、石核、磨製石斧、石鏃、礮器、特殊磨石、磨石、敲石、凹石、砥石、台石、遺跡に持ち込まれた自然礫などが出土している。以下、器種ごとに解説し、詳細については観察表に記載している。

### 石槍 (88～92)

8点出土し、5点を掲載した。いずれも茎部を持たず、柄に挟んで使用すると考えられる。88は堅穴4床面から出土しており、晩期後葉～末葉と考えられる。石材は、すべて奥羽山脈を産地とする頁岩製である。

### 石鏃 (93～99)

19点出土し、7点を掲載した。93は有茎、94～96は無茎凹基、97は無茎平基、98は基部欠損か、99は平基かと考えられる。93は土坑49から出土しており、伴出土器から晩期前葉に比定される。石材は、未掲載のうち1点が凝灰岩、その他はすべて奥羽山脈を産地とする頁岩製である。

### 石匙 (100)

2点出土し、1点を掲載した。100は摘み側を欠損した横型と考えられる。石材は、掲載した100が北上山地を産地とする頁岩で、未掲載の1点が奥羽山脈を産地とする頁岩製である。

### 石錐 (101～104)

4点出土し、全点を掲載した。101は石槍からの転用と考えられる。いずれも先端部に摩滅痕を有する。石材は、101が凝灰岩（奥羽山脈）、102・103が頁岩（奥羽山脈）、104が頁岩（北上山地）である。

### 篋状石器 (105～133)

74点出土し、29点を掲載した。105～122は両面加工、123～133は片面加工で、基本的に片刃で作られる。また、端部に使用による摩滅痕が認められる場合が多いことから、草なめしなど掻く動作に関連する作業に用いられていたと考えられる。今回の調査で出土した石器のうち、篋状石器の割合が高いことから、本遺跡に特徴的な事例と言える。また、打製石斧を思わせるくらい大形の成品が多いことも指摘できる。石材は、頁岩（奥羽山脈）60点、頁岩（北上山地）3点、ホルンフェルス（奥羽山脈基盤）8点、珪質頁岩・テイスサイト・凝灰岩各1点とはほぼ頁岩が占める。

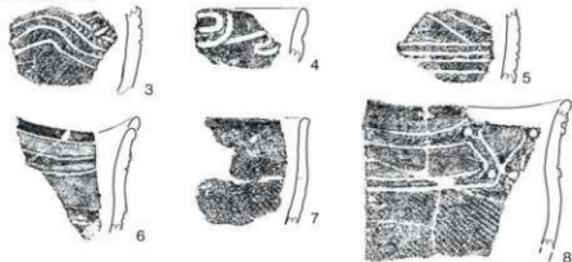
### 楔形石器 (134・135)

6点出土し、2点を掲載した。2個一対の刃部を持つものが3点、4個二対の刃部が1点、不明が

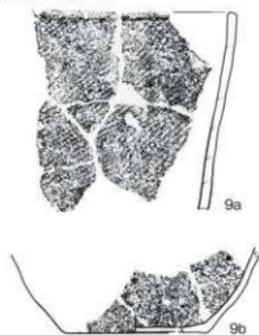
竪穴2 (1・2)



竪穴3 (3~8)



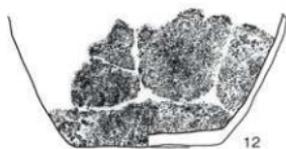
土器埋設遺構1 (9a・b)



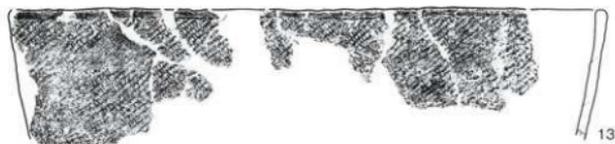
土器埋設遺構2 (10・11)



土器埋設遺構3 (12)



土器埋設遺構4 (13)



第39図 土器(1)

土器埋設遺構 5 (14)



土坑 8 (15)



土坑 26 (17)



土坑 15 (16)



土坑 28 (18)



土坑 31 (19)



土坑 37 (21)



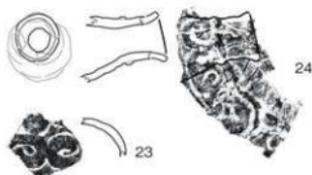
土坑 43 (22)



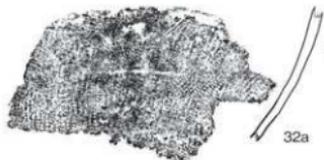
土坑 32 (20)



土坑 48 (23・24)

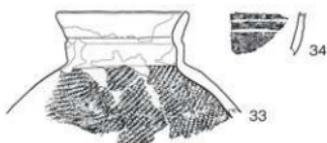


土坑 49 (25～32)



第40図 土器(2)

土坑 60 (33·34)



土坑 61 (35)



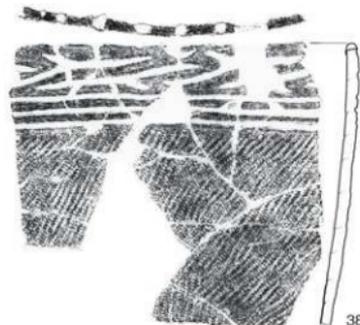
土坑 66 (37)



土坑 64 (36)



土坑 73 (38·39)



土坑 77 (42)



土坑 74 (40)



土坑 75 (41)



土坑 78 (43~46)



土坑 81 (47)



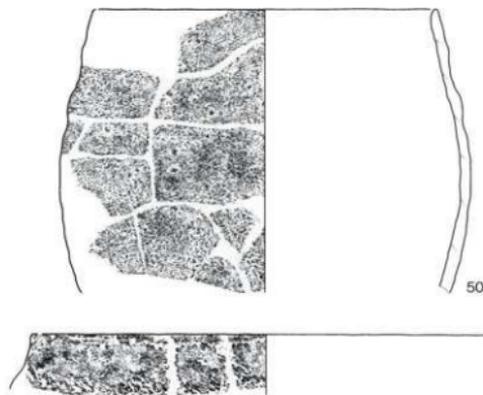
土坑 82 (48)



土坑 83 (49)



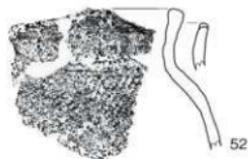
土坑 84 (50·51)



0 1:3 10cm

第41图 土器(3)

土坑 86 (52)



陥し穴状遺構 3 (53)



溝 1 (54)



溝 24 (55)

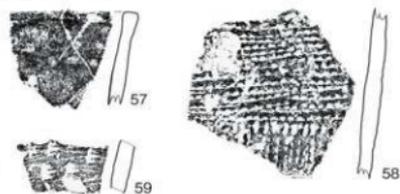


P52 (56)

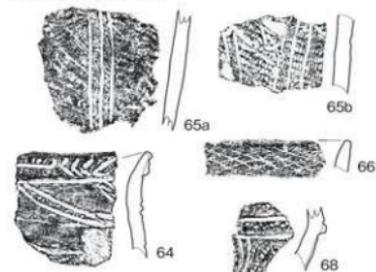


遺構外出土土器 (57~87)

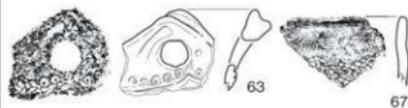
I 群 (57~62)



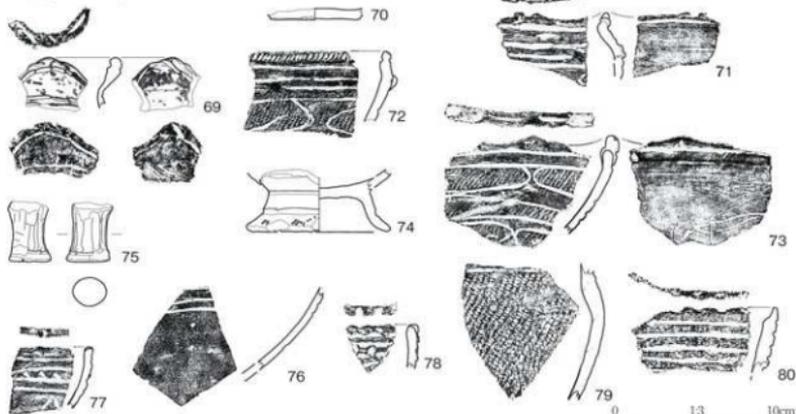
III 群 (64~66, 68)



II 群 (63, 67)

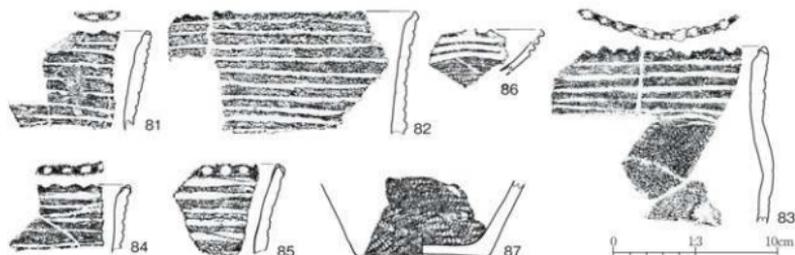


IV 群 (69~87)



0 1 3 10cm

第 42 図 土器 (4)



第43図 土器 (5)

2点である。石材は、頁岩（奥羽山脈）4点、頁岩（北上山地）2点を数える。

#### スクレイパー類 (136～146)

46点出土し、11点を掲載した。素材剥片の長辺に二次加工を施すことが多い。139は全周に加工が施される。145は石核を再利用して、刃部を形成した可能性がある。石材は、頁岩（奥羽山脈）41点、頁岩（北上山地）・砂岩（北上山地）各2点、ホルンフェルス（奥羽山脈基盤）1点である。

#### 二次加工ある剥片 (147～149)

44点出土し、3点を掲載した。スクレイパー類に加工する前段階、もしくは失敗品などと考えられる。石材は、頁岩（奥羽山脈）39点、凝灰岩（奥羽山脈）4点、珪質頁岩（奥羽山脈）1点である。

#### 剥片 (150～161)

1883点出土し、接合した12点を掲載した。この中には、石器製作が行われたと見られる堅穴4から出土した、剥片・チップ593点（541.2g）も含まれている。堅穴4から出土した剥片のうち、接合できた12点5接合資料を掲載した。接合資料1（150～153）は、90°打面転位される。接合資料2（154・155）及び接合資料3（156・157）、接合資料5（160・161）は、同一面からの剥離が考えられる。接合資料4（158・159）は、上下の180°打面転位が認められる。なお、堅穴4出土以外の残り計1290点は、時間の都合で接合作業を行えなかった。石材は、掲載した12点は頁岩（奥羽山脈）である。その他については鑑定できなかったが、9割以上は頁岩（奥羽山脈）で占められる。

#### 石核 (162～169)

42点出土し、8点を掲載した。多方向から、打面を転位して剥片剥離を行う資料は少なく、素材となる礫に打面を形成後、同一方向からのみ作業されるものが多い。石材は、頁岩（奥羽山脈）34点、碧玉（奥羽山脈）3点、珪質頁岩（奥羽山脈）2点、頁岩（北上山地）・チャート（北上山地）・デイサイト（奥羽山脈）各1点に分けられる。

#### 磨製石斧 (170～175)

13点出土し、6点を掲載した。このうち、174・175は未成品と考えられ、未掲載にも6点含まれる。171は両刃、172は片刃に加工されている。石材は、ホルンフェルス（奥羽山脈基盤）4点、凝灰岩（奥羽山脈）3点、蛇紋岩（早池峰山周辺）・頁岩（北上山地）・はんれい岩（北上山地）・ヒン

岩（北上山地）・デイサイト（奥羽山脈）・砂岩（北上山地）各1点である。

#### 石鍬（176～178）

4点出土し、3点を掲載した。打裂石斧だが、土掘り具としての使用を想定して石鍬とした。177は端部に摩滅痕が認められる。石材は、ホルンフェルス（奥羽山脈基盤）2点、赤紫色凝灰岩（一関市東山町）・頁岩（北上山地）各1点で、硬質でない石材が用いられている。

#### 礫器（179・180）

2点出土し、全点を掲載した。礫の形状を残して刃部を作出した資料で、180は磨製石斧未成品の可能性もある。いずれも、石材はホルンフェルス（奥羽山脈基盤）である。

#### 特殊磨石（181～189）

37点出土し、9点を掲載した。断面三角形の形状を持つ礫の角に、敲打痕及び擦痕が認められる資料で、堅穴2・P12埋土などから出土している。石材は、デイサイト（奥羽山脈）13点、ホルンフェルス（奥羽山脈基盤）7点、安山岩（奥羽山脈）6点、流紋岩（奥羽山脈）・砂岩（北上山地）各3点、凝灰岩（奥羽山脈）2点、頁岩（奥羽山脈）・頁岩（北上山地）・片麻岩（北上山地）各1点である。

#### 敲石（190～193）

14点出土し、4点を掲載した。端部に敲打痕が認められる資料。193は全面に微細な敲打痕が認められ、手のひらに収まるサイズであることから、剥片の二次加工に用いられた可能性がある。石材は、ホルンフェルス（奥羽山脈基盤）5点、砂岩（北上山地）・安山岩（奥羽山脈）各2点、頁岩（奥羽山脈）・流紋岩（奥羽山脈）・凝灰岩（北上山地）・デイサイト（奥羽山脈）・チャート（北上山地）各1点である。

#### 凹石（194・195）

7点出土し、2点を掲載した。正面に複数の凹痕を持つものが多い。石材は、流紋岩（奥羽山脈）・砂岩（北上山地）・溶岩（岩手山）各2点、デイサイト（奥羽山脈）1点である。

#### 砥石（196）

1点出土し、全点を掲載した。溝25から出土しており、新しい時期の所産の可能性がある。流紋岩（奥羽山脈）製である。

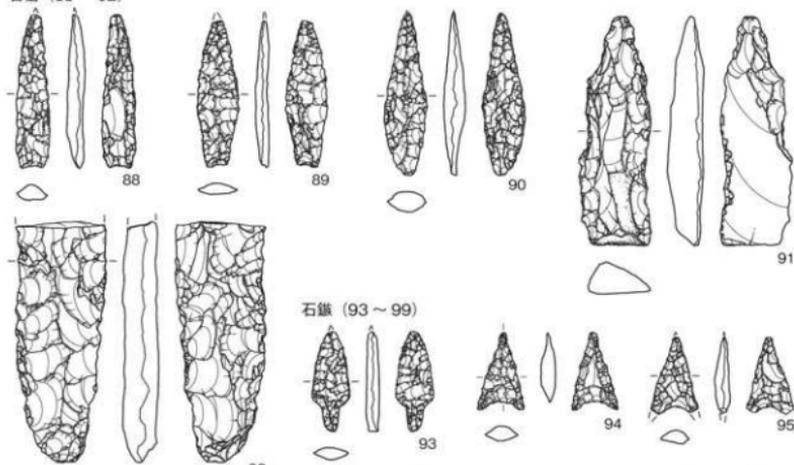
#### 台石（197～199）

11点出土し、3点を掲載した。作業台として使用された資料で、片面に擦痕や敲打痕が認められる。石材は、安山岩（奥羽山脈）4点、凝灰岩（奥羽山脈）・ホルンフェルス（奥羽山脈）・デイサイト（奥羽山脈）各2点、流紋岩（奥羽山脈）1点で、いずれも遺跡近傍の河原から運ばれたと見られる。

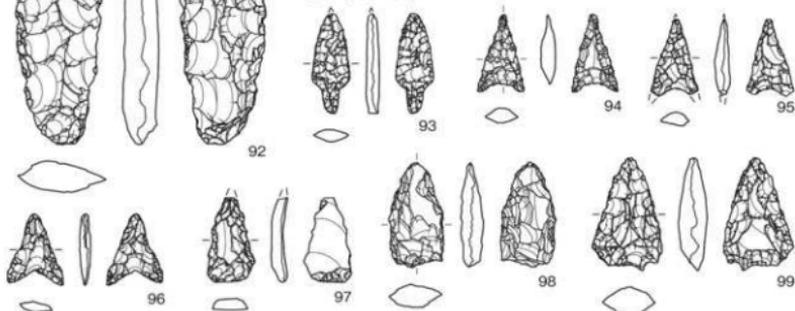
#### 自然礫（200・201）

2点出土し、全点を掲載した。いずれも土坑8上面から出土した資料で、意図的に遺跡内に運ばれ

石槍 (88~92)

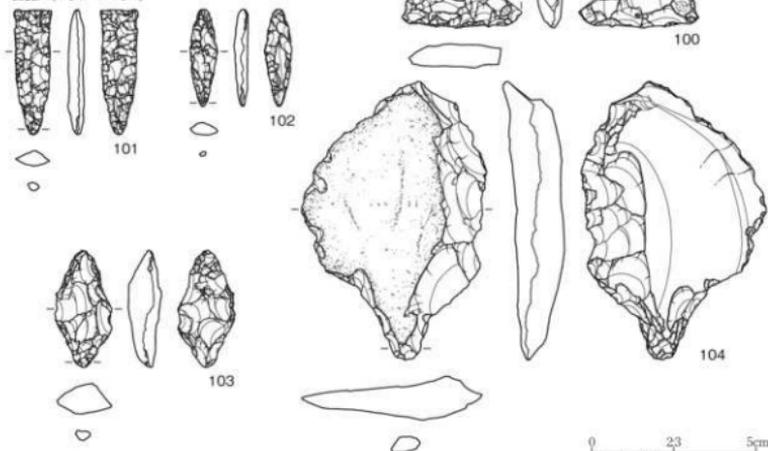


石鏃 (93~99)



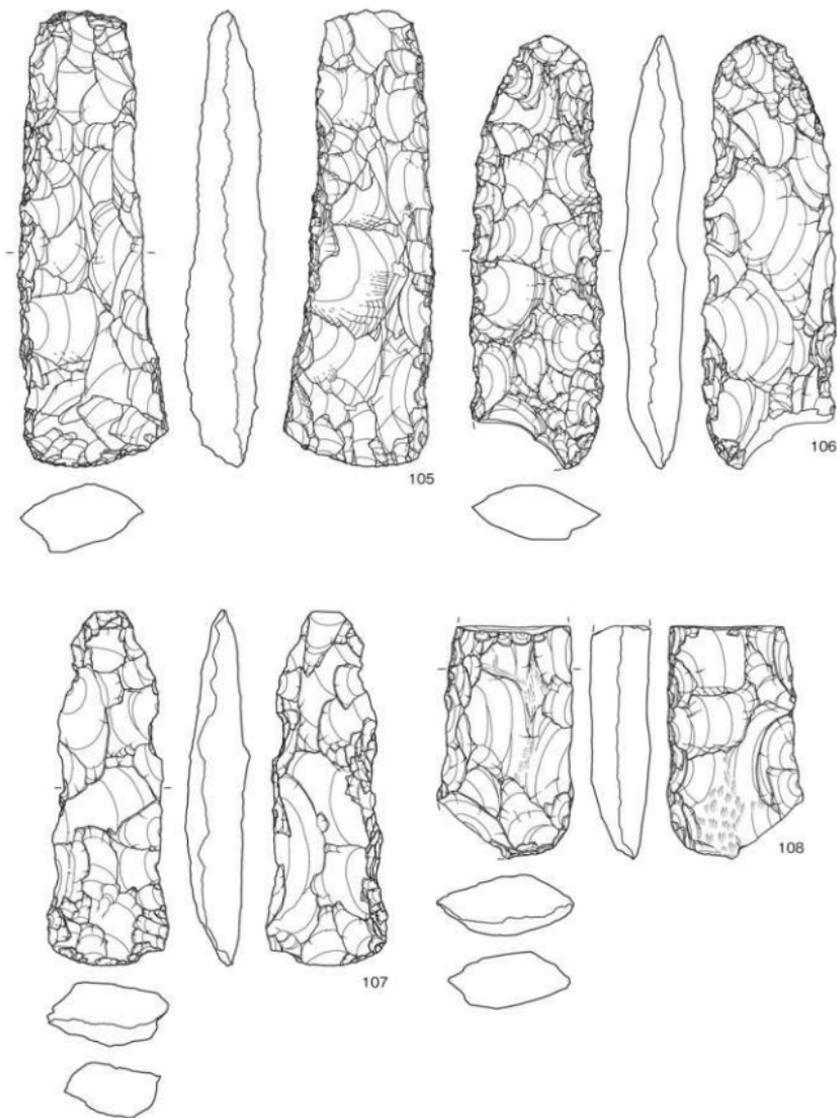
石匙 (100)

石鏃 (101~104)

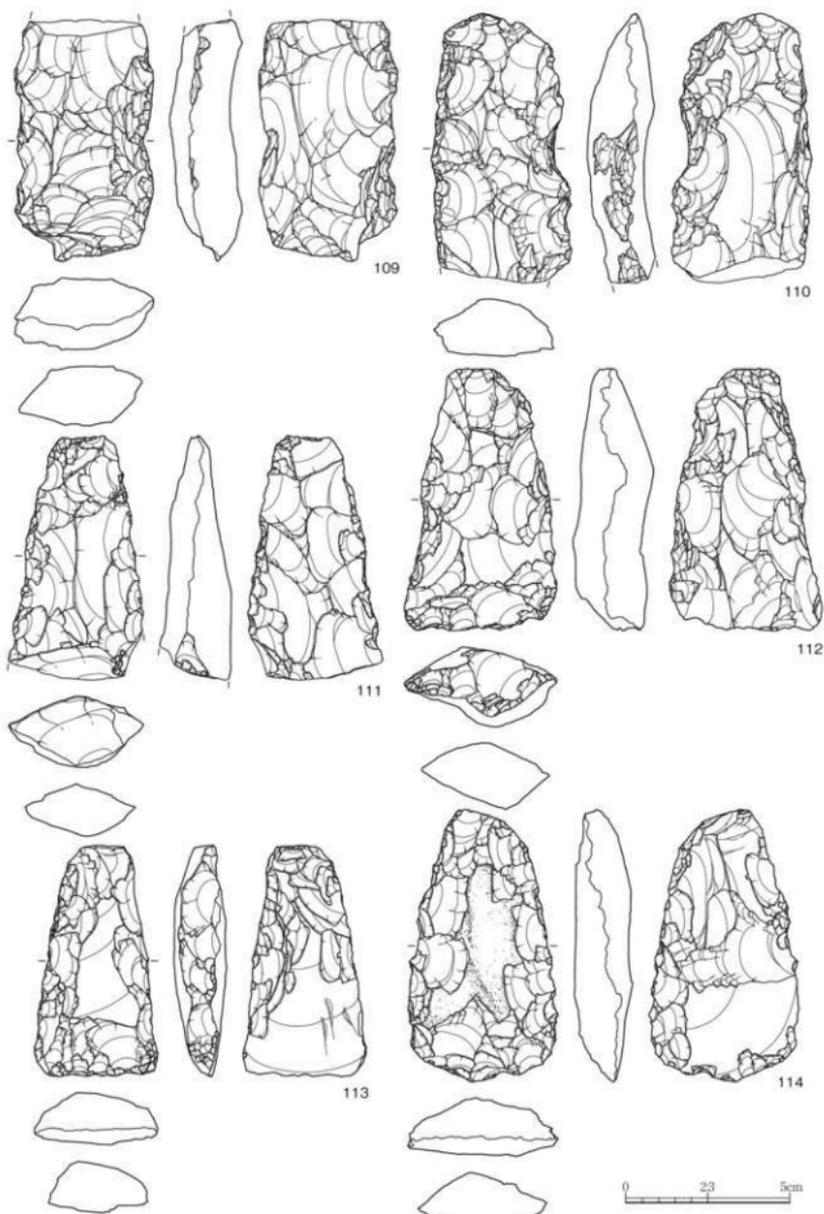


第44図 石器 (1)

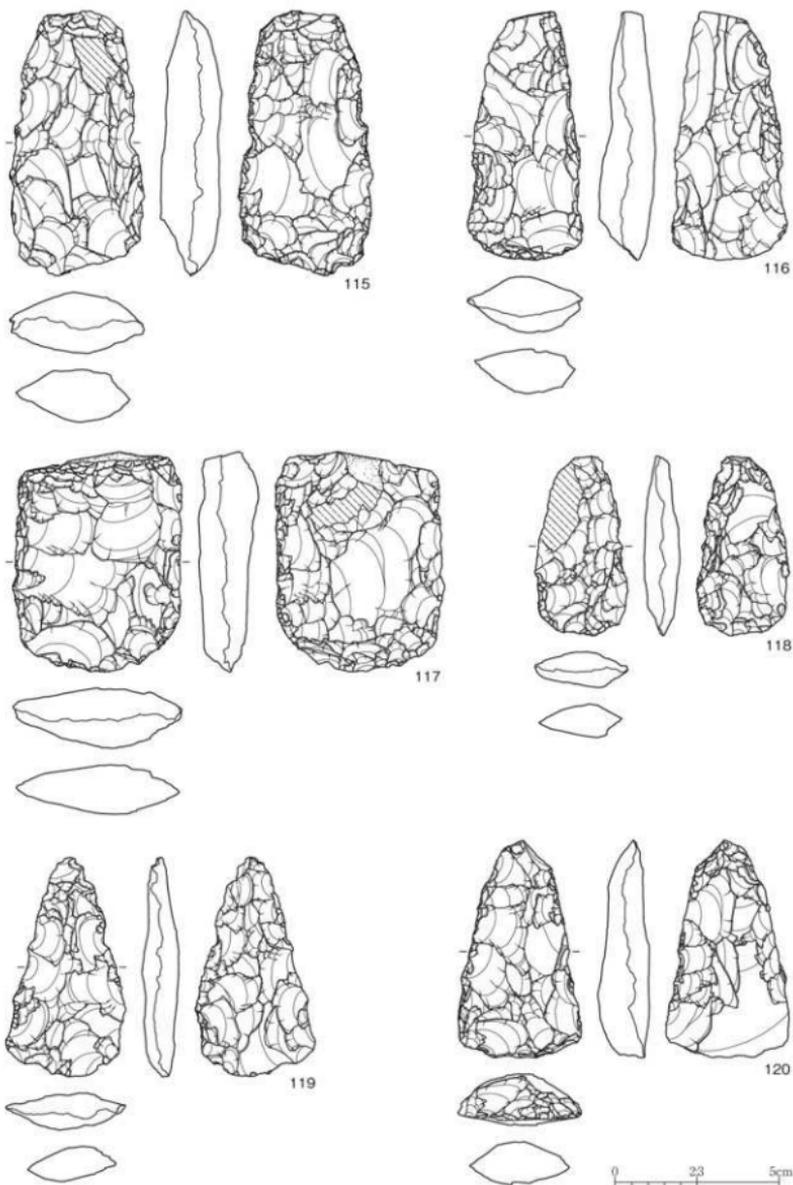
## 寬狀石器 (105 ~ 133)



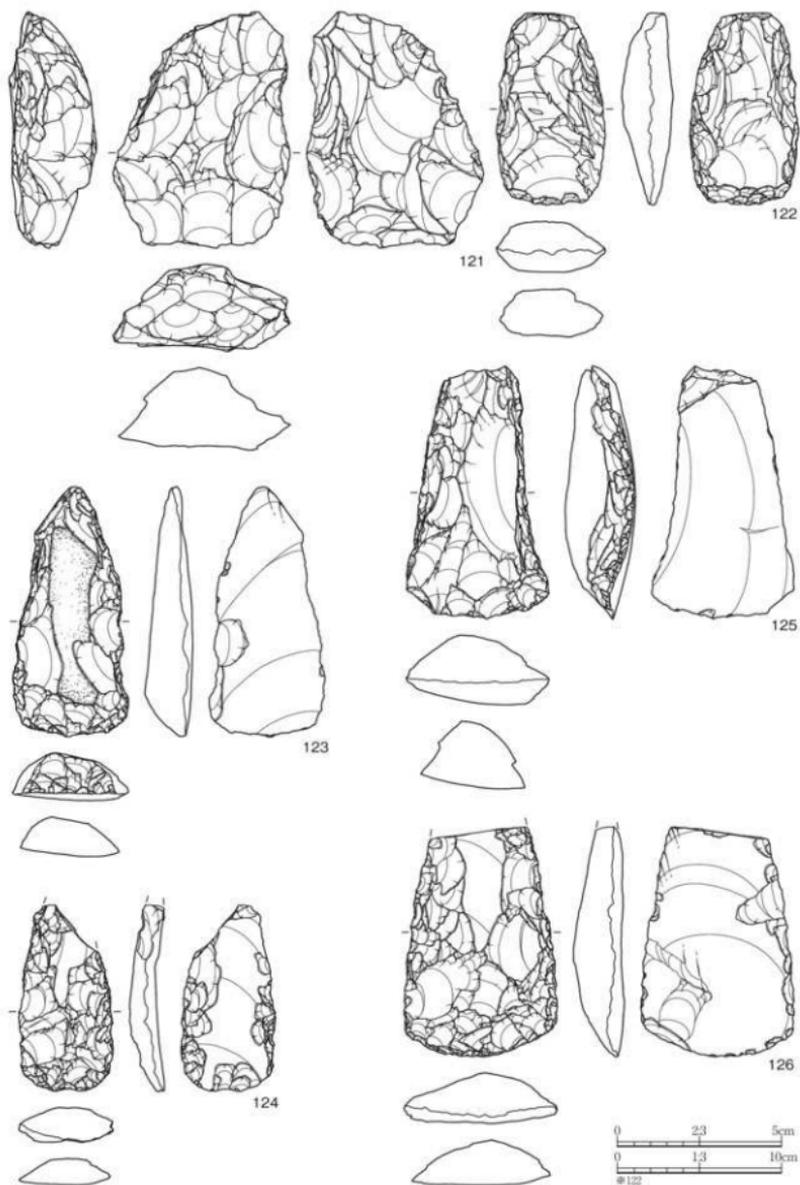
第45図 石器(2)



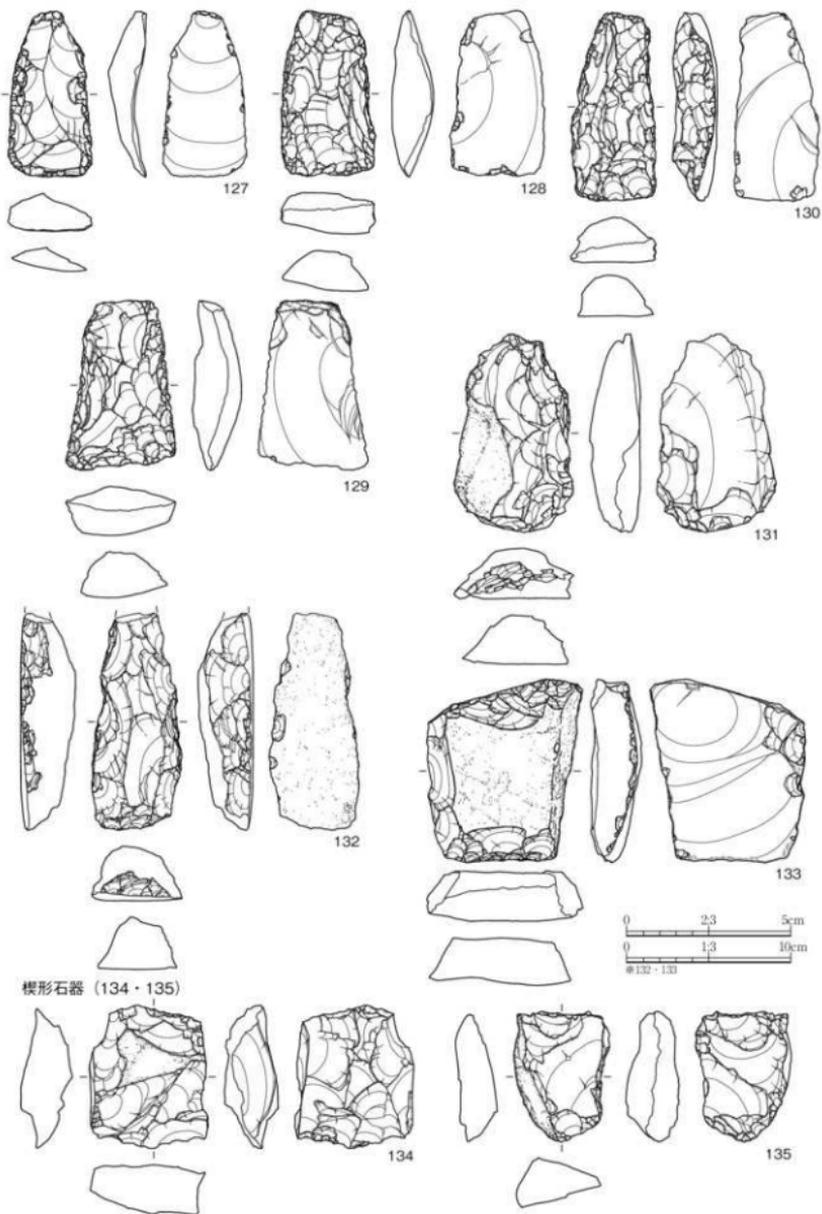
第46图 石器(3)



第47図 石器(4)

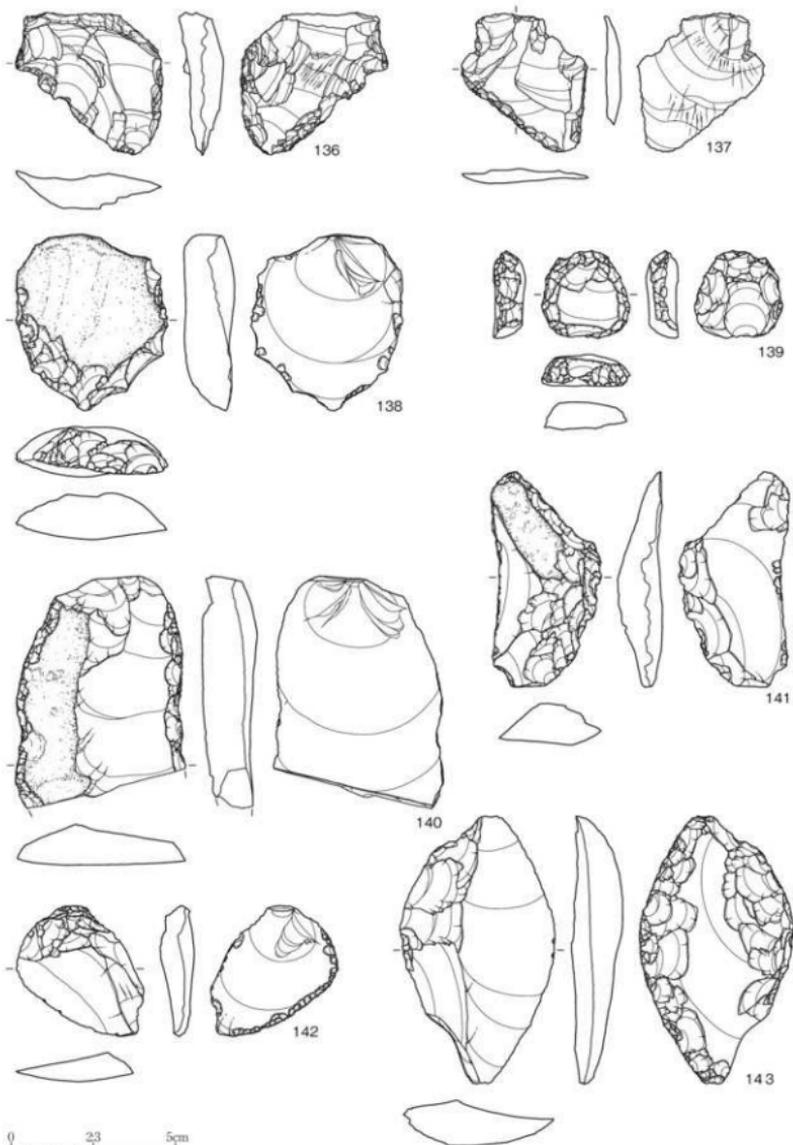


第48图 石器(5)

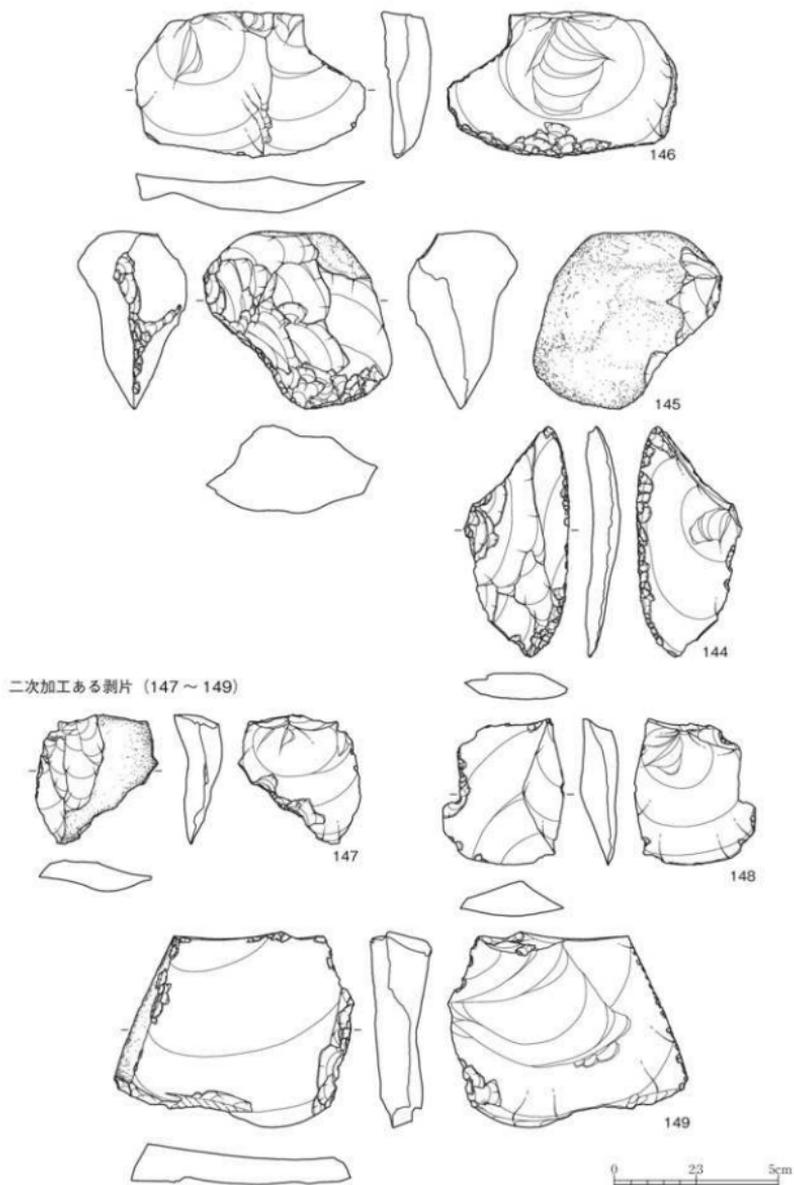


第49図 石器(6)

スクレイパー類 (136～146)



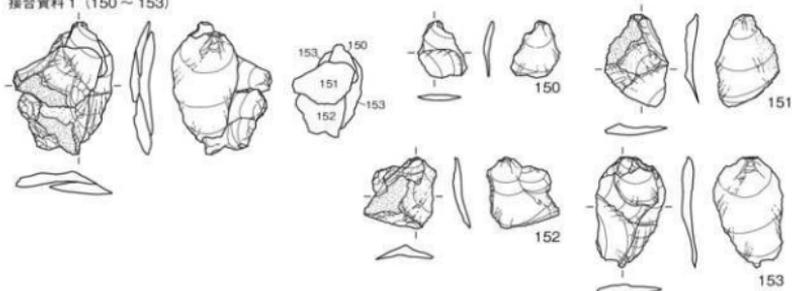
第50図 石器 (7)



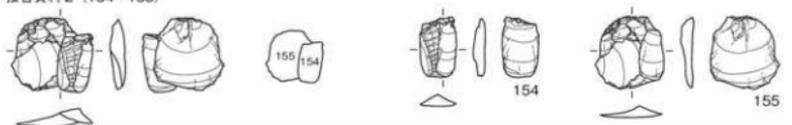
第51図 石器(8)

接合資料 1 ～ 5 (150 ～ 161)

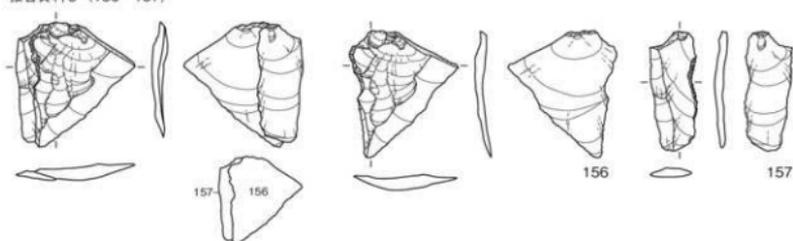
接合資料 1 (150 ～ 153)



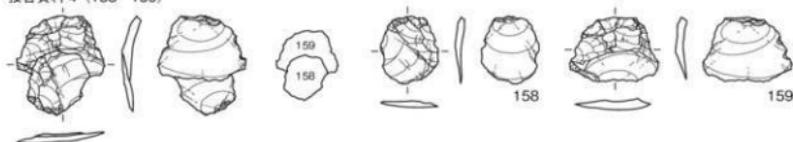
接合資料 2 (154 · 155)



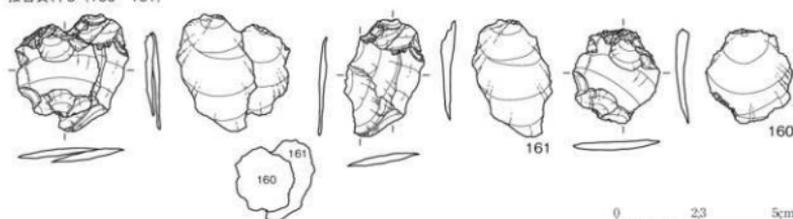
接合資料 3 (156 · 157)



接合資料 4 (158 · 159)

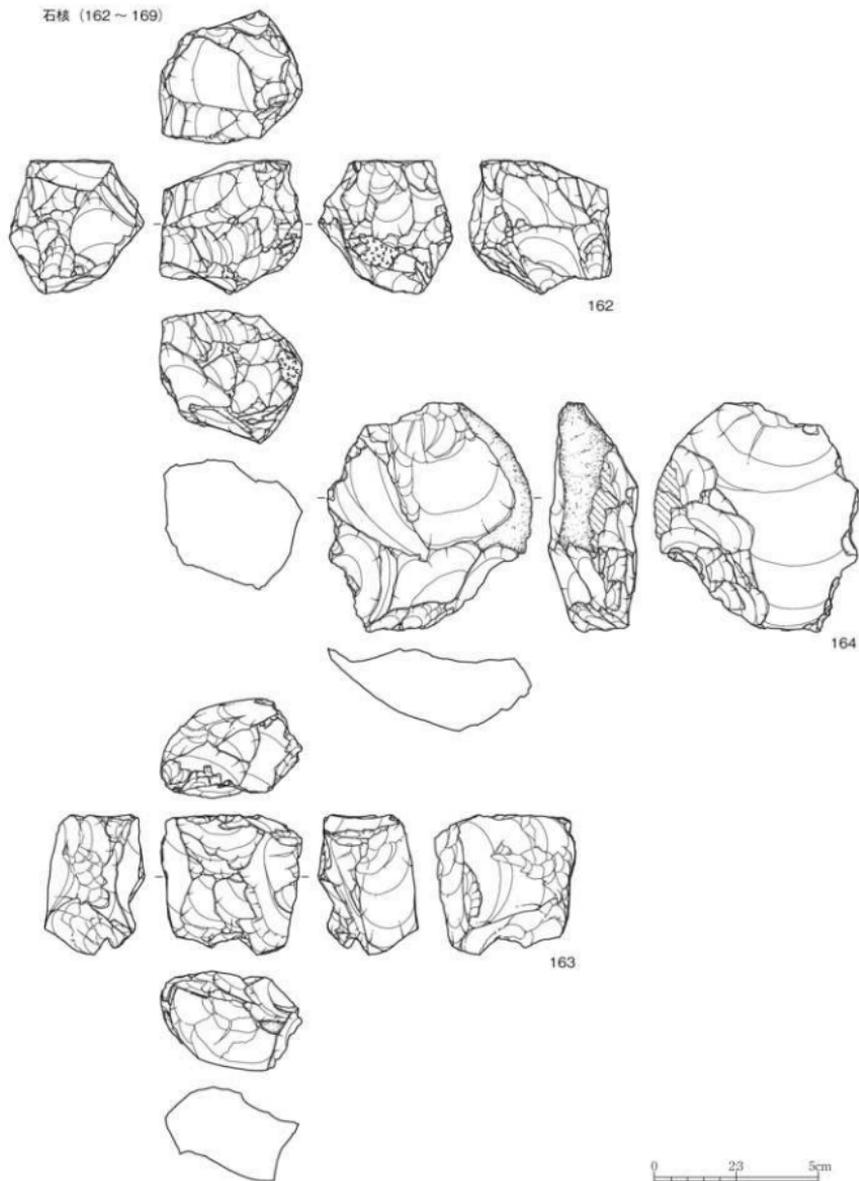


接合資料 5 (160 · 161)

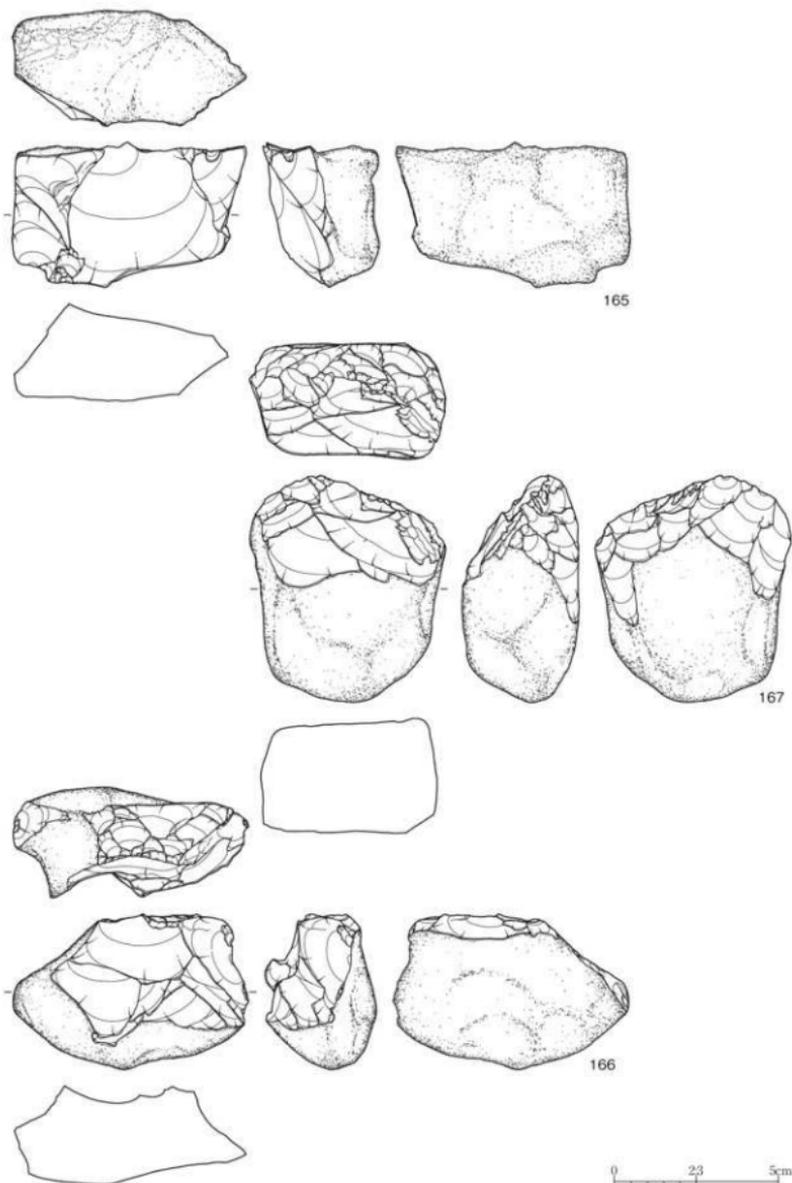


第 52 図 石器 (9)

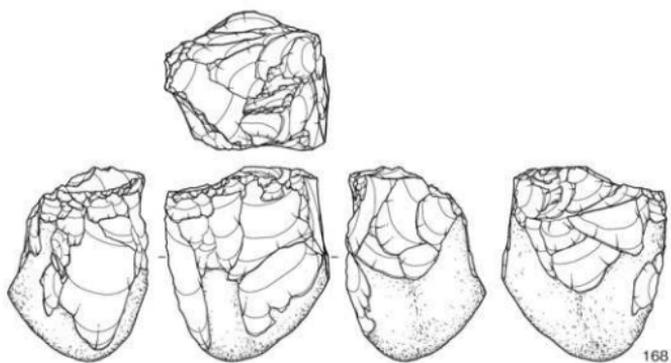
石核 (162~169)



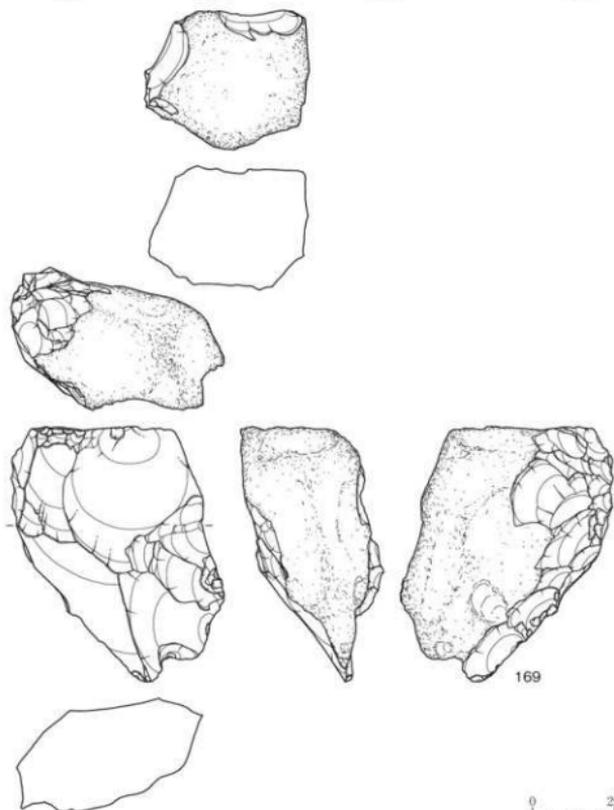
第53図 石器 (10)



第54図 石器(11)



168

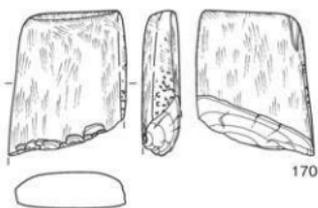


169

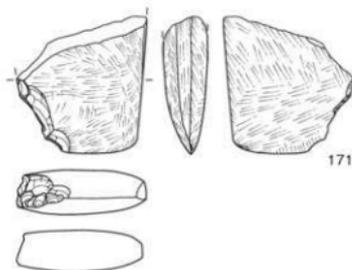


第55図 石器(12)

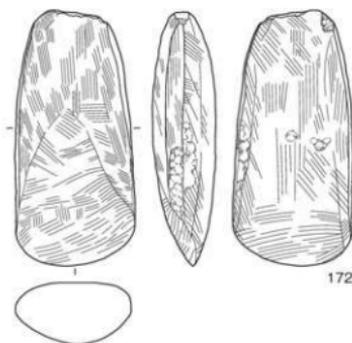
磨製石斧 (170~173)



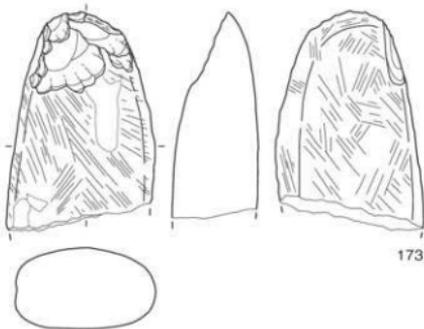
170



171

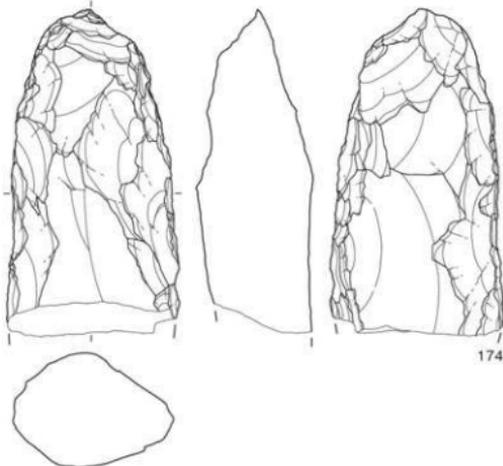


172

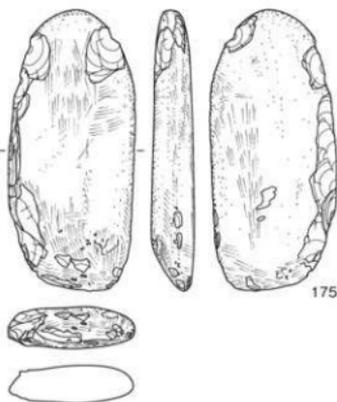


173

磨製石斧未成品 (174・175)



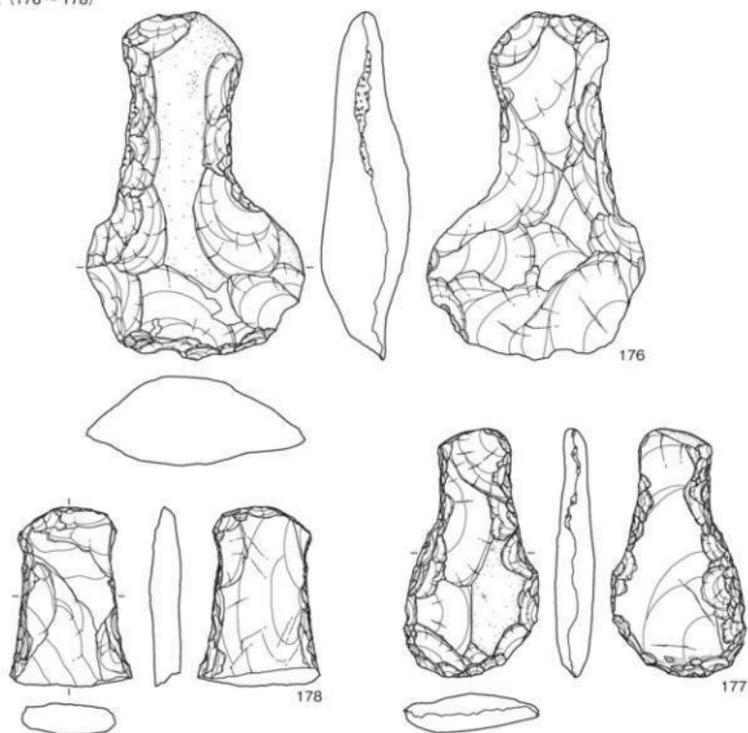
174



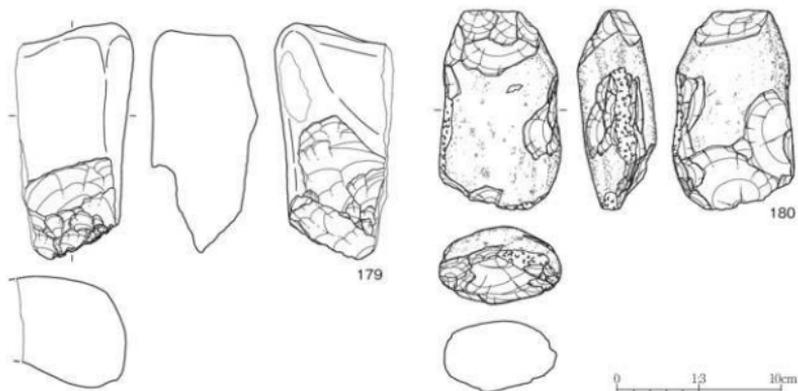
175



石鏃 (176~178)

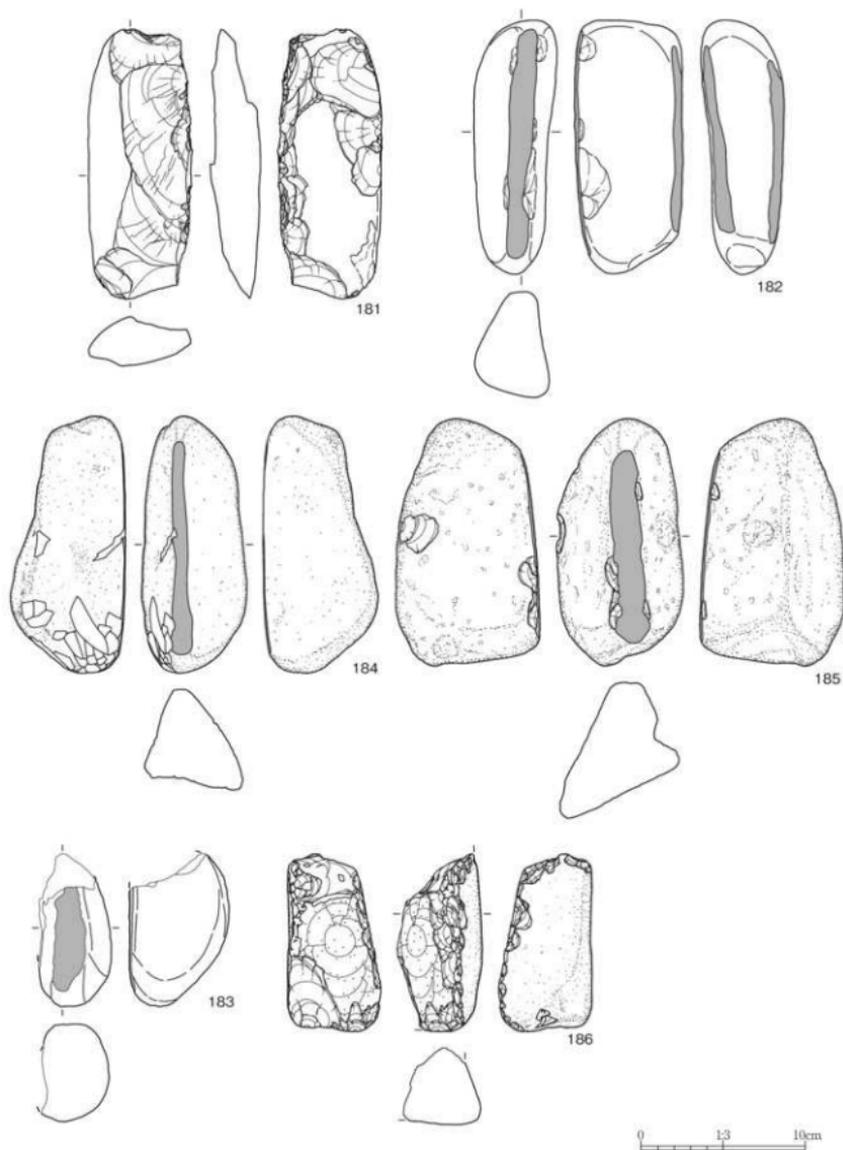


礮器 (179・180)

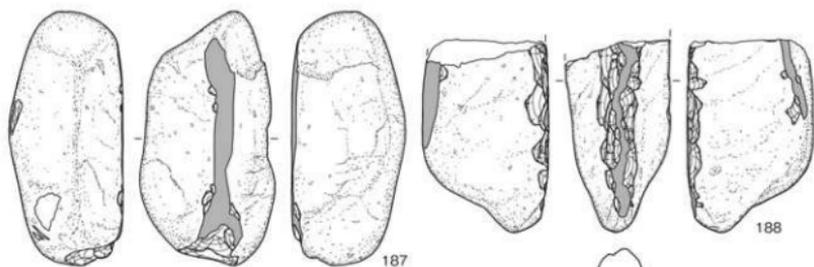


第57図 石器 (14)

特殊磨石 (181~189)

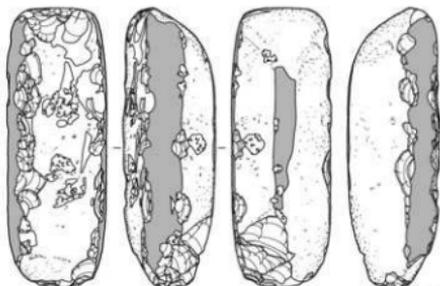


第58図 石器 (15)



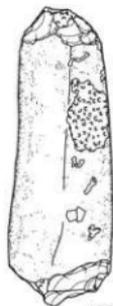
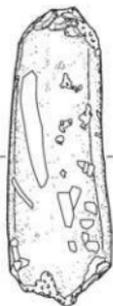
187

188

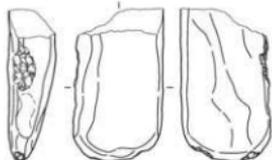


189

敲石 (190 ~ 193)

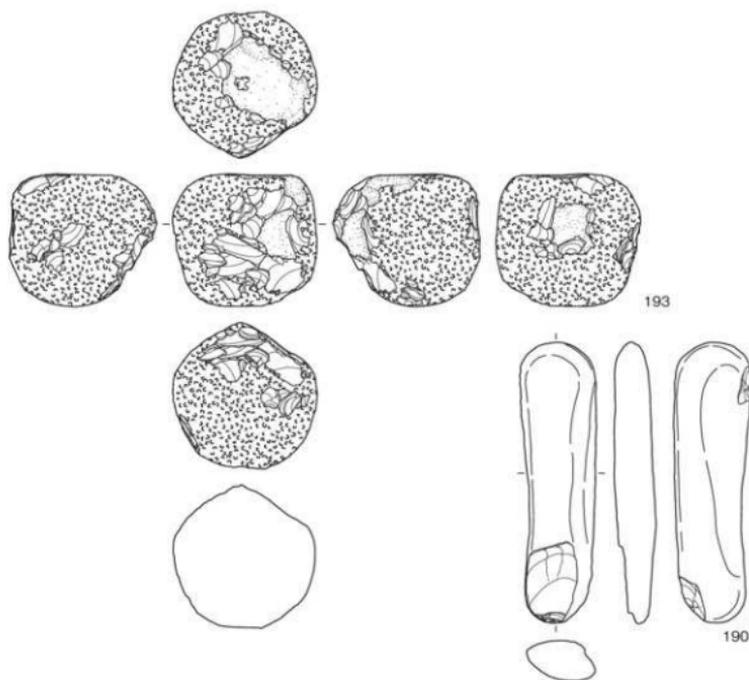


192

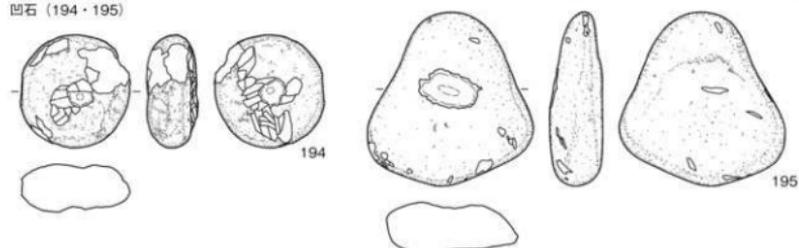


191

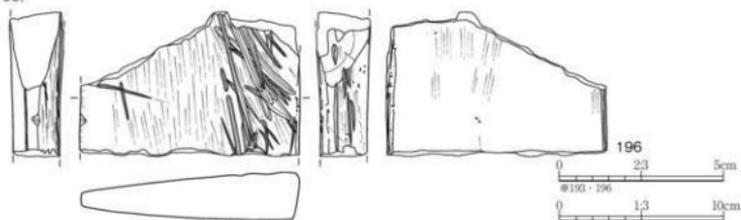
0 1.3 10cm



凹石 (194・195)

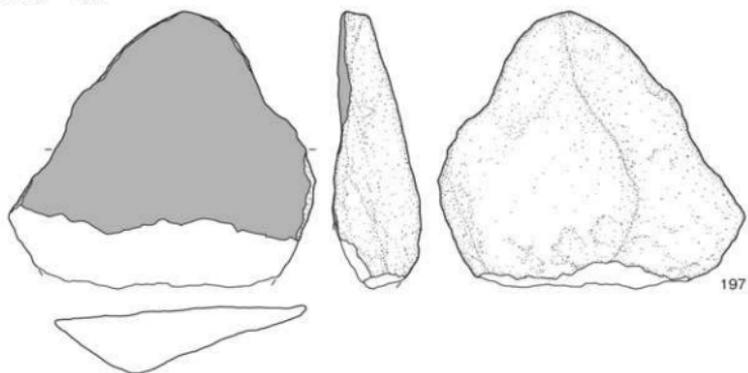


砥石 (196)

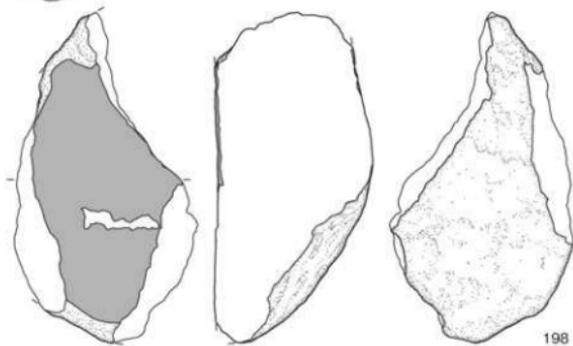


第60図 石器 (17)

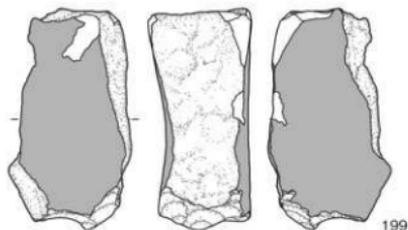
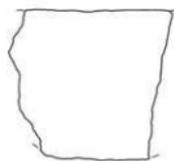
台石 (197~199)



197



198

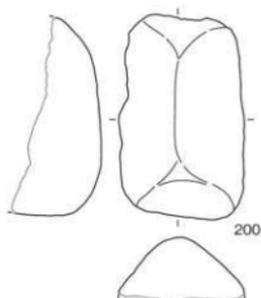


199

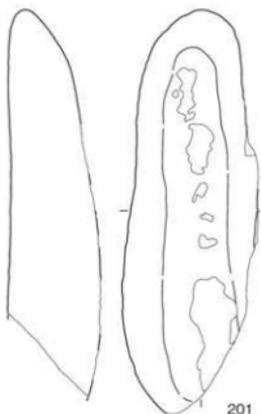
0 1.5 30cm

第61図 石器(18)

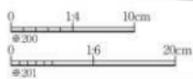
自然樫 (200・201)



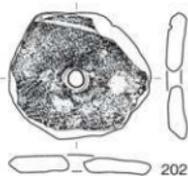
200



201

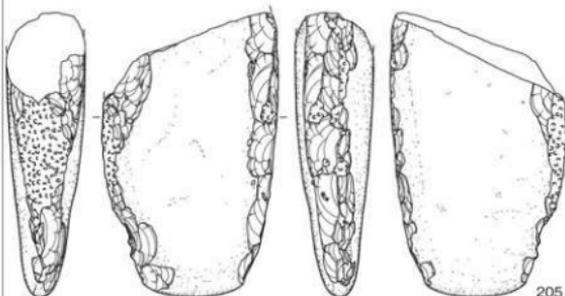


円盤状土製品 (202)

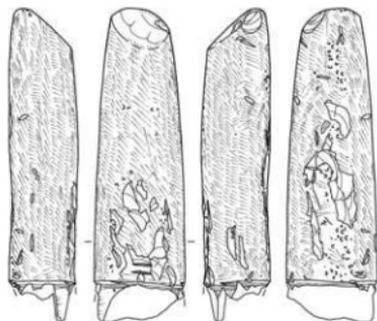


202

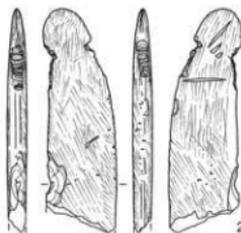
石棒類 (205~207)



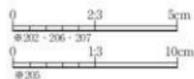
205



206

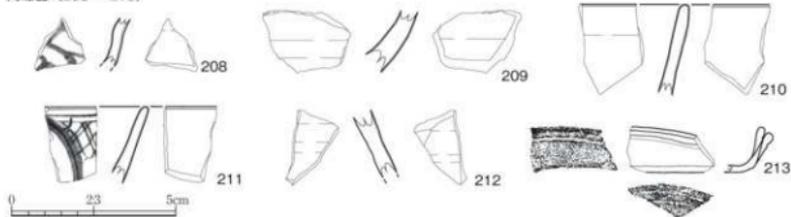


207



第62図 石器(19)、土製品、石製品

## 陶磁器 (208～213)



第63図 陶磁器

たと考えられる。自然礫は人為的に設置した可能性があることから、墓坑として利用されたと考えられる。石材は、流紋岩（奥羽山脈）・デイサイト（奥羽山脈）各1点が出土しており、遺跡近傍の河原で採取したと考えられる。（北田）

## その他（未掲載）

その他に、微細剥離痕ある剥片・磨石・異形か・石錘か・炉石各1点を出土している。（北田）

## 3 土製品

## 円盤状土製品 (202)・焼粘土塊 (203・204)

晩期前～中葉の浅鉢片の周囲を打ち欠き、中央に穿孔を行っている。焼粘土塊は、土坑33と土坑75から出土している。（北田）

## 4 石製品

## 石棒類 (205～207)

205は土坑59底面から出土した石棒類で、大形礫の側面に加工を施している。伴出土器から晩期前葉。206は土坑85埋土から出土した資料で、晩期か。207は遺構外出土で、晩期と考えられる。石材は、205がホルンフェルス（奥羽山脈基盤）、206・207が粘板岩（北上山地）を使用しており、加工がしやすい軟質の石材が選択されている。（北田）

## 5 陶磁器

208・211は磁器、209・210・212は陶器、213は素焼きである。208は中国産の染付碗で、16世紀に位置付けられる。市道西側の物見崎遺跡調査の際に類似する磁器が出土しており、同一セットの可能性ある（財）岩文埋1990。中世に比定されることから、二子城に関連する遺物と推測される。209・210は大堀相馬の陶器塚で18世紀後半か、211は肥前の磁器碗で18世紀後半～19世紀初頭、212は大堀相馬の徳利かと思られる陶器でいずれも18世紀後半かと思われる。213は在地産のほうろくで、19世紀代と考えられる。（北田）

第5表 土器観察表(1~87)

( ) : 残存数、( ) : 測定値

調査 No.	図 号	写影	出土地点	単位	層位 記載	分類	形跡	形状分類	土器 属性	形式	外周 形状・高さなど	内面 形状・高さなど	時期	備考
1	39	60	壱穴205W	壱土	5	ⅠA	丸底深鉢	別部	-	(71)	底位の直径長底文	肩位ナナ	早期中層	今の形式
2	39	60	壱穴2~4(ト)	壱土	2	ⅠA	丸底深鉢	壱土上平	-	(53)	肩位無縁文	肩位ナナ	早期中層	今の形式
3	39	60	壱穴3(中)	壱土上層	1	ⅠA	深鉢	壱土上平	-	(51)	肩位上段(横)多施設に、多施設による 入面位状文を帯位に帯出す	肩位ナナ	後期前層	十葉内1式(横) 新形
4	39	60	壱穴3(中)	壱土	1	ⅠA	深鉢	口縁部	-	(53)	平縁、帯位入面位が帯出しが横位上段面 による	肩位ナナ	後期前層	内外面保存者 十葉内1式(横)
5	39	60	壱穴3(中)	壱土	1	ⅠA	深鉢	壱土上平	-	(45)	肩位上段(横)多施設に、多施設による 帯位・肩位状文帯出す	肩位ヘナナ	後期前層	十葉内1式(横) 新形
6	39	60	壱穴3(中)	壱土	1	ⅠA	深鉢	口縁部	-	(70)	平縁、横文上段(横)多施設に、口縁部 に肩位上段(横)帯出す	肩位ナナ	後期前層	十葉内1式(横)
7	39	60	壱穴3(中)	壱土	3	ⅠA	深鉢	口縁部	-	(65)	平縁、口縁部無文部、北沢1段・北沢結 帯	肩位ナナ	後期前層小	
8	39	60	壱穴3(中)	壱土	5	ⅠA	深鉢	口縁部	-	(69)	平縁、帯位上段による方面区隔、帯位上 段文、方面内無文、横文上段(横)	肩位ナナ	後期前層	十葉内1式(横)
9	39	60	土器埋没遺構1	埋没土器	10	ⅠA	壱底深鉢	壱土上平 平・壱土上平 底部	-	(64) (52) (120)	肩位上段(横)、帯化消しい、底ナナ、上 段文	肩位ナナ	地層前層一帯	内面少量付着 55 56
10	39	60	土器埋没遺構2 土器埋没遺構2	埋没土器 外埋土器一括	19 36	ⅠA	深鉢	別部下平~ 底部	-	85 (147)	肩位上段(横)、帯化消しい、帯ナナ、上 段文	肩位ナナ	地層前層一帯	11と入ナナ、10 5外、11の4内
11	39	60	土器埋没遺構2	埋没土器	32	ⅠA	深鉢	別部下平~ 底部	-	77 (131)	肩位上段(横)、底ナナ、上段無 文	肩位ナナ	地層前層一帯	10と入ナナ、10 5外、11の4内
12	39	60	土器埋没遺構3	埋没土器一括	11	ⅠA	深鉢	別部下平~ 底部	-	90 (81)	肩位上段(横)帯化消しい、帯ナナ、上 段文	肩位ナナ	地層前層一帯	外周無少量 付着
13	39	60	土器埋没遺構4	埋没土器一括	18	ⅠA	深鉢	口縁部 壱土上平	26(0)	(129)	平縁、横文上段(横)	肩位ナナ	地層前層一帯	
14	40	60	土器埋没遺構5	埋没土器一括	19	ⅠA	深鉢	別部下平~ 底部	-	67 (57)	肩位上段(横)、内外面消消し、口縁部 無文	肩位ナナ	地層前層	大皿1段式小
15	40	60	土坑8	壱土	1	ⅠA	深鉢	口縁部	-	(41)	平縁、山形突起、口縁部無文部、ネタン 突起、底文七字一、横文上段(横)、 帯位帯出す	肩位ナナ	後期前層一帯	横紋1式
16	40	60	土坑15 土坑15	壱土 底面 土器1	15 20	ⅠA	深鉢	別部下平~ 底部	-	60 (61)	肩位上段(横)、帯付足一底ナナ(横) 帯出す	肩位ナナ	地層前層一帯	
17	40	60	土坑26 土坑26	壱土	13 21	ⅠA	深鉢	別部下平~ 底部	-	89 (47)	肩位上段(横)、帯付足一底ナナ(横) 帯出す	肩位ナナ	地層前層一帯	
18	40	60	土坑28	壱土	1	ⅠA	壱底深鉢	壱土上平	-	(47)	平縁、横文上 段	肩位ナナ	地層前層	
19	40	61	土坑31	壱土	6	ⅠA	深鉢	別部	-	(116)	肩位上段(横)	肩位ナナ	後期前層小	外周無少量 付着
20	40	61	土坑32	壱土	1	ⅠA	深鉢	口縁部	-	(47)	平縁、平口状、横文上段(横)	肩位ナナ	地層前層	

編號	出 土 地 点	層 位	種 類	分 類	形 狀	出 土 位 置	口 徑 / 直 徑 / 高	刻 面 圖 像 - 攝 影 文 字	內 面 圖 像 - 攝 影 文 字	時 期	備 考				
21	40 61 土坑37	III	1	陶文土器	IV B	沿口	口徑部	—	—	刻字	C字文	陶文印式小	19	地層遺物	陶文印式小
22	40 61 土坑43	III	1	陶文土器	IV A	口緣部	口緣部	—	—	(47)	平條, 花條, 陶文印(條)	陶文印式小	20	地層遺物	陶文印式小
23	40 61 土坑48	III	1	陶文土器	IV B	沿口	沿口	—	—	(23)	雲字文, 平角形印	陶文印式小	21	地層遺物	陶文印式小
24	40 61 土坑48	III	13	陶文土器	IV B	沿口	沿口	—	—	(42)	C字文, 平角形印, 花條, 花條	陶文印式小	22	地層遺物	陶文印式小
25	40 61 土坑49 204	III	67	陶文土器	IV A	沿口	沿口	—	—	(107)	陶文印式, 雲形陶文, 雲形陶文, 陶文印(條), 多方印字, 花條	陶文印式小	29	地層遺物	陶文印式小
26	40 61 土坑49	III	1	陶文土器	IV A	口緣部	口緣部	—	—	(29)	小段花條, 入組三文文	陶文印式小	25	地層遺物	陶文印式小
27	40 61 土坑49	III	1	陶文土器	IV A	口緣部	口緣部	—	—	(34)	平條, 非夾條, 平行十字形多葉花條, 陶文印(條)	陶文印式小	26	地層遺物	陶文印式小
28	40 61 土坑49 土坑49	III	2 23	陶文土器	IV A	口緣部	口緣部	160	—	(138)	小段花條, 平行花條, 入組三文文, 陶文印(條)	陶文印式	28	地層遺物	陶文印式
29	40 61 土坑49	III	1	陶文土器	IV A	沿口	沿口	—	—	(43)	平條, 花條一部分的部為多角形形印, 陶文印(條), 花條, 雲形	陶文印式	23	地層遺物	陶文印式
30	40 61 土坑49	III	1	陶文土器	IV A	沿口	沿口	—	—	(45)	平條, 口面形小印による小段花條, 平行花條, 陶文印(條)	陶文印式	24	地層遺物	陶文印式
31	40 61 土坑49	III	1	陶文土器	IV A	沿口	沿口	—	—	(50)	小段花條, 入組三文文, 平行花條, 陶文印(條)	陶文印式	27	地層遺物	陶文印式
32	40 61 土坑49 土坑49	III	8 9	陶文土器	IV A IV B	沿口	沿口	—	—	(57) (82)	陶文印(條), 雲字文	陶文印式	30 31	地層遺物	陶文印式
33	41 61 土坑60 土坑61	III	35 4	陶文土器	IV A	沿口	沿口	—	—	(65)	平條, 口面形無文形, 頂部花條, 陶文印(條)	陶文印式	33 34	地層遺物	陶文印式
34	41 61 土坑60	III	1	陶文土器	IV D	沿口	沿口	—	—	(24)	平行花條, 陶文印(條)	陶文印式小	32	地層遺物	陶文印式小
35	41 61 土坑61	III	1	陶文土器	IV A	沿口	沿口	—	—	(34)	入組三文文, 平行花條, 四字文, 陶文印(條)	陶文印式	35	地層遺物	陶文印式
36	41 61 土坑64	III	1	陶文土器	IV A	沿口	沿口	—	—	(34)	平條, 入組三文文	陶文印式	36	地層遺物	陶文印式
37	41 61 土坑66	III	1	陶文土器	IV A	沿口	沿口	—	—	(20)	斜紋, 斜紋十字	陶文印式	37	地層遺物	陶文印式
38	41 61 土坑73 土坑73	III	17 4	陶文土器	IV A	沿口	沿口	—	—	(17)	口面小段花條, 入組三文文, 陶文印(條), 平行花條	陶文印式, 內面 刻了全体に溝文 付着	28	地層遺物	陶文印式
39	41 61 土坑73	III	4	陶文土器	IV A	沿口	沿口	—	—	(63)	入組三文文, 陶文印(條), 花條, 雲形	陶文印式	39	地層遺物	陶文印式
40	41 61 土坑74	III	1	陶文土器	IV A	沿口	沿口	—	—	(41)	口面形小印による小段花條, 入組三文文, 陶文印(條), 花條	陶文印式	40	地層遺物	陶文印式
41	41 61 土坑75	III	2	陶文土器	IV A	沿口	沿口	—	—	(64)	平條, 陶文印(條)	陶文印式小	41	地層遺物	陶文印式小
42	41 61 土坑77	III	1	陶文土器	IV A	沿口	沿口	—	—	(47)	入組三文文, 花條	陶文印式	42	地層遺物	陶文印式
43	41 61 土坑78	III	1	陶文土器	IV A	沿口	沿口	—	—	(31)	平條, 非夾條, 入組三文文, 花條	陶文印式	43	地層遺物	陶文印式



展覧 品 番号	出土施設	層位	検出 位置	分類	形状	保存位置	口徑(直径)	高さ(寸法)	外面図解・断面図	内面図解・断面図	時期	備考
66	42	2202 御本坑	黒土	Ⅰ Ⅰ 陶文土器	Ⅱ B	口縁部	-	(115)	半筒形多量多量 (灰・黒)	楕円字ナ	後周前期	中瀬Ⅰ式(黒)
67	42	2203	黒山直上	Ⅰ Ⅰ 陶文土器	Ⅱ	口縁部	-	(42)	平縁、口縁部無文部、横文L形(黒)	楕円字ナ	中瀬中期	大瀬Ⅰ0式
68	42	2204	黒色土	Ⅰ Ⅰ 陶文土器	Ⅱ B	口縁部付皮	-	(38)	段縁上の横文L形縁部付、段縁、横文L形(黒) 毛文に、底面文を施す	楕円字ナ	後周前期	中瀬Ⅰ式(黒)
69	42	2205	黒色土	Ⅰ Ⅰ 陶文土器	Ⅳ A	底	-	(30)	底面、半色面影(全部付、消落して一 部残る)	楕円字ナ、半色面影	後周前期	大瀬Ⅱ2式小
70	42	2206	黒色土	Ⅰ Ⅰ 陶文土器	Ⅳ A	底面	-	(53)	底縁部に横文施装	ナ	後周前期	大瀬Ⅱ2式小
71	42	2207	楕円面	Ⅰ Ⅰ 陶文土器	Ⅳ D	口縁部	-	(41)	平縁、口縁部、口縁部に横文L形、西字文、横文L形(黒)	楕円字ナ	後周前期	大瀬Ⅰ式小
72	42	2208	黒色土	Ⅰ Ⅰ 陶文土器	Ⅳ C	口縁部	-	(42)	平縁、口縁部無文部、2線一列の突起、西字文、横文L形(黒)	楕円字ナ	後周前期	大瀬Ⅱ2式小
73	42	2209	黒色土	Ⅰ Ⅰ 陶文土器	Ⅳ C	口縁部	-	(59)	横文L形(黒)、口縁部付内面に横文、側 面は底面影	楕円字ナ	後周中期	大瀬Ⅱ2式小、外 面多量多量
74	42	2210	黒色土	Ⅰ Ⅰ 陶文土器	Ⅳ C	口縁部	-	(38)	底面、器淵、楕円字ナ、台部に横文L形 (黒)	楕円字ナ	後周中期	大瀬Ⅱ2式小
75	42	2211	黒色土	Ⅰ Ⅰ 陶文土器	Ⅳ C	口縁部	-	(53)	器淵の付いた縁部の有部、器淵に張り付い ていた上部が器淵に付いて傾いている。 台部に下部に横文施装、楕円字ナで仕 上げていく。	楕円字ナ	後周中期	大瀬Ⅱ2式小
76	42	2212	楕円面	Ⅰ Ⅰ 陶文土器	Ⅳ D	口縁部	-	(58)	平縁、口縁部、口縁部に横文L形、西字文、 器淵、器淵に張り付いた上部が器淵に付 いて傾いている。	楕円字ナ	後周中期	大瀬Ⅰ式小
77	42	2213	黒山直上	Ⅱ Ⅱ 陶文土器	Ⅱ B	口縁部	-	(37)	平縁、二列突起、平縁状文、底面、器 淵	楕円字ナ	後周前期	大瀬Ⅱ2式小
78	42	2214	黒土	Ⅰ Ⅰ 陶文土器	Ⅱ B	口縁部	-	(27)	平縁状文	楕円字ナ	後周前期	大瀬Ⅱ2式
79	42	2215	黒土	Ⅰ Ⅰ 陶文土器	Ⅳ A	底面	-	(62)	底面、横文L形(黒)	楕円字ナ	後周前期	大瀬Ⅱ2式
80	42	2216	楕円面	Ⅰ Ⅰ 陶文土器	Ⅳ C	口縁部	-	(44)	平縁、口縁部に横文L形、西字文、器淵、 器淵に張り付いた上部が器淵に付いて傾 いている。	楕円字ナ	後周中期	大瀬Ⅱ2式
81	42	2217	黒色土	Ⅰ Ⅰ 陶文土器	Ⅳ C	口縁部	-	(60)	口縁部小突起、横文L形、器淵に張り付 いた上部が器淵に付いて傾いている。	楕円字ナ	後周中期	大瀬Ⅱ2式
82	42	2218	黒土	Ⅱ Ⅱ 陶文土器	Ⅳ C	口縁部	-	(75)	平縁、口縁部無文部による小突起、横文L 形、器淵に張り付いた上部が器淵に付い て傾いている。	楕円字ナ	後周中期	大瀬Ⅱ2式
83	42	2219	黒山直上	Ⅱ Ⅱ 陶文土器	Ⅳ C	口縁部	-	(38)	平縁、口縁部無文部による小突起、横文L 形、器淵に張り付いた上部が器淵に付い て傾いている。	楕円字ナ	後周中期	大瀬Ⅱ2式
84	42	2220	黒土	Ⅱ Ⅱ 陶文土器	Ⅳ C	口縁部	-	(41)	平縁、口縁部無文部による小突起、横文L 形、器淵に張り付いた上部が器淵に付い て傾いている。	楕円字ナ	後周中期	大瀬Ⅱ2式
85	42	2221	黒土	Ⅰ Ⅰ 陶文土器	Ⅳ C	口縁部	-	(54)	平縁、口縁部無文部による小突起、横文L 形、器淵に張り付いた上部が器淵に付い て傾いている。	楕円字ナ	後周中期	大瀬Ⅱ2式
86	42	2222	黒山直上(黒色土)	Ⅰ Ⅰ 陶文土器	Ⅳ D	口縁部付皮	-	(28)	平縁、口縁部無文部による小突起、横文L 形、器淵に張り付いた上部が器淵に付い て傾いている。	楕円字ナ	後周中期	大瀬Ⅱ2式
87	42	2223	黒色土	Ⅰ Ⅰ 陶文土器	Ⅳ D	口縁部	-	(39)	横文L形(黒)、器淵、器淵に張り付いた 上部が器淵に付いて傾いている。	楕円字ナ	後周中期	大瀬Ⅱ2式

( ) : 現存品

第6表 石器観察表 (88~201)

編號	回	野区	出土地点	部位	種類	材質	産地	穴徑(長さ)	長さ(最大)	重量(克)	自然品	備考	図録
88	44	63	野穴4	埋部中央部	石鏃	頁岩	奥山山脈	先端部	18.1	9.9	3.0	2.8	S44
89	44	63	野穴3	埋部山頂上	石鏃	頁岩	奥山山脈	先端部	43.9	12.6	3.9	2.0	S45
90	44	63	野穴2	奥山山頂上	石鏃	頁岩	奥山山脈		49.5	12.9	4.5	3.2	S46
91	44	63	野穴1	埋部山頂上	石鏃	頁岩	奥山山脈		69.8	30.4	10.8	13.8	S47
92	44	63	野穴2	埋部山頂上	石鏃	頁岩	奥山山脈	基部	47.9	27.0	10.5		S48
93	44	63	上穴49	埋土(埋部色土)	石鏃	頁岩	奥山山脈	先端部	30.4	11.4	3.9	1.3	S51
94	44	63	埋穴穴子穴(2IN1)	埋部土	石鏃	頁岩	奥山山脈		20.5	14.0	4.5	1.0	有蓋 アスファルト付蓋
95	44	63	野穴1	埋部山頂上	石鏃	頁岩	奥山山脈	埋・基部	42.2	14.2	4.2	1.0	凹形無蓋
96	44	63	野穴2 QNE	埋土	石鏃	頁岩	奥山山脈		17.3	16.8	3.2	0.8	凹形無蓋
97	44	63	野穴3	埋部山頂上	石鏃	頁岩	奥山山脈	先端部	45.0	13.8	4.3	1.8	凹形無蓋
98	44	63	野穴4	埋部山頂上	石鏃	頁岩	奥山山脈		33.0	16.5	7.0	3.5	基部欠・平基
99	44	63	野穴1	埋部山頂上	石鏃	頁岩	奥山山脈		32.6	21.1	8.6	5.5	平基
100	44	63	野穴1	埋部山頂上	石鏃	頁岩	奥山山脈	埋・基部	43.0	13.5	7.4	4.9	横置
101	44	63	野穴3	埋部山頂上	石鏃	凝灰岩	奥山山脈	埋・基部	36.0	11.3	4.8	2.1	石筒を外側用
102	44	63	野穴1	埋部山頂上	石鏃	頁岩	奥山山脈		29.6	8.2	4.0	0.9	
103	44	63	野穴3	埋部山頂上	石鏃	頁岩	奥山山脈		35.6	16.9	9.8	5.2	
104	44	63	野穴3	埋部山頂上	石鏃	頁岩	奥山山脈		85.9	54.9	15.3	38.0	
105	45	63	埋穴穴子穴(2IN1)	埋部山頂上	奥穴石鏃(両面)	頁岩	奥山山脈		139.5	45.0	25.0	14.6	S53
106	45	63	野穴2 (埋部付付)	埋土	奥穴石鏃(両面)	頁岩	奥山山脈	刃部	129.0	39.9	19.8	10.4	S50
107	45	63	野穴3	埋部山頂上	奥穴石鏃(両面)	頁岩	奥山山脈		108.5	36.6	18.2	6.3	S16
108	45	64	奥穴探検穴2	埋土	奥穴石鏃(両面)	頁岩	奥山山脈	刃・基部	79.7	41.3	17.8	6.3	S59
109	46	64	野穴3	表土~埋部山頂上	奥穴石鏃(両面)	頁岩	奥山山脈	基部	43.7	42.9	19.2	71.3	S57
110	46	64	野穴2	表土~埋部山頂上	奥穴石鏃(両面)	頁岩	奥山山脈	刃部	88.0	41.1	18.9	71.3	S58
111	46	64	埋穴穴子穴(2IN1)	埋土	奥穴石鏃(両面)	頁岩	奥山山脈	刃部	41.3	36.2	21.4	51.2	S106
112	46	64	奥穴探検穴2	埋土	奥穴石鏃(両面)	頁岩	奥山山脈		79.8	45.3	22.0	75.1	S12
113	46	64	野穴2	埋部山頂上	奥穴石鏃(両面)	頁岩	奥山山脈		70.3	37.3	15.8	45.5	S97
114	46	64	野穴2	木野中	奥穴石鏃(両面)	頁岩	奥山山脈		82.8	45.1	17.6	61.1	S7
115	47	64	埋穴穴子穴	埋土	奥穴石鏃(両面)	頁岩	奥山山脈		79.8	40.0	17.9	61.5	S4
116	47	65	埋穴穴子穴(2IN1)	埋土	奥穴石鏃(両面)	頁岩	奥山山脈		75.2	34.8	16.4	40.9	S107
117	47	65	埋穴穴子穴(2IN1)	埋部山頂上(埋部色土)	奥穴石鏃(両面)	頁岩	奥山山脈		66.6	50.7	17.1	64.7	S130
118	47	65	野穴1	埋部山頂上	奥穴石鏃(両面)	頁岩	奥山山脈		54.8	27.2	10.8	14.5	S128
119	47	65	野穴2	埋部山頂上	奥穴石鏃(両面)	頁岩	奥山山脈		62.0	34.5	11.0	20.6	S126
120	47	65	野穴1	埋部山頂上	奥穴石鏃(両面)	頁岩	奥山山脈		66.3	37.2	13.3	33.9	S121
121	48	65	土穴78	埋土	奥穴石鏃(両面)	頁岩	奥山山脈		70.6	52.9	25.5	56.8	S214
122	48	65	埋穴穴子穴	埋土	奥穴石鏃(両面)	頁岩	奥山山脈		117.2	65.9	31.0	34.1	S256
123	48	65	埋穴穴子穴(2IN1)	埋土上部	奥穴石鏃(片側)	頁岩	奥山山脈		75.9	34.6	14.0	31.1	S82
124	48	65	土穴63	埋土	奥穴石鏃(片側)	頁岩	奥山山脈	基部	456.0	39.3	8.3	14.9	S83

発掘 年度	号別	出土地点	層位	種類	材質	形状	大形部分	重量(g)	長さ	直径(φ)	備考
125	8	65	756	黒灰石部(片断)	頁岩	黒山山脈	基部	76.0	43.0	21.2	S89
126	8	66	2111	黒灰石部(片断)	頁岩	黒山山脈	基部	49.0	46.4	14.4	S91
127	49	66	2011	黒灰石部(片断)	頁岩	黒山山脈		50.5	25.2	9.6	S92
128	49	66	2013	黒灰石部(片断)	頁岩	黒山山脈		50.6	28.6	12.6	S94
129	49	66	2051	黒灰石部(片断)	頁岩	黒山山脈		36.2	32.5	14.2	S95
130	49	66	2051	黒灰石部(片断)	頁岩	黒山山脈		57.3	25.6	13.9	S96
131	49	66	2052	黒灰石部(片断)	頁岩	黒山山脈		60.0	36.0	15.2	S100
132	49	66	2074	黒灰石部(片断)	ホルンフェルス	黒山山脈基部	基部	(133.4)	53.7	33.1	S282
133	49	66	2084	黒灰石部(片断)	頁岩	黒山山脈	基部	116.6	9.07	30.2	S283
134	49	66	2084	修好石部	頁岩	北上山地		42.9	33.8	16.1	S73
135	49	66	2084	修好石部	頁岩	北上山地		39.1	38.7	13.9	S75
136	50	66	2153	スタレイバー類	頁岩	北上山地		43.5	44.5	11.7	S11
137	50	66	2152	スタレイバー類	頁岩	黒山山脈		43.3	38.0	5.0	S12
138	50	66	2123	スタレイバー類	頁岩	黒山山脈		53.7	45.9	14.9	S10
139	50	66	2142	スタレイバー類	頁岩	黒山山脈		36.2	36.2	9.6	S12
140	50	66	2074	スタレイバー類	頁岩	黒山山脈	基部	46.0	51.2	16.6	S17
141	50	67	2163	スタレイバー類	頁岩	黒山山脈		65.8	30.9	13.3	S18
142	50	67	2083	スタレイバー類	頁岩	黒山山脈		36.3	35.6	10.2	S15
143	50	67	2074	スタレイバー類	頁岩	黒山山脈		81.5	47.0	14.8	S19
144	51	67	2074	スタレイバー類	頁岩	黒山山脈		66.5	31.6	8.2	S100
145	51	67	2223	スタレイバー類	頁岩	黒山山脈		53.7	52.0	21.6	S170
146	51	67	2222	スタレイバー類	頁岩	黒山山脈		44.2	69.6	13.8	S172
147	51	67	2074	二次加工ある製刀	頁岩	黒山山脈		37.3	35.9	12.8	S173
148	51	67	製土種別2	二次加工ある製刀	頁岩	黒山山脈		43.1	36.1	11.0	S180
149	51	67	2074	二次加工ある製刀	頁岩	黒山山脈		39.6	68.0	18.2	S206
150	52	67	製穴4中穴	銅片	頁岩	黒山山脈		17.0	15.0	2.0	S347
151	52	67	製穴4中穴	銅片	頁岩	黒山山脈		29.0	19.5	2.0	S348
152	52	67	製穴4中穴	銅片	頁岩	黒山山脈		22.0	22.0	3.0	S349
153	52	67	製穴4中穴	銅片	頁岩	黒山山脈		34.0	21.5	3.5	S350
154	52	67	製穴4北平	銅片	頁岩	黒山山脈		18.0	11.0	3.5	S351
155	52	67	製穴4中穴	銅片	頁岩	黒山山脈		20.0	21.0	4.5	S352
156	52	67	製穴4中穴	銅片	頁岩	黒山山脈		26.0	33.0	5.0	S353
157	52	67	製穴4中穴	銅片	頁岩	黒山山脈		36.5	14.0	3.0	S354
158	52	68	製穴4中穴	銅片	頁岩	黒山山脈		21.0	17.0	3.0	S355
159	52	68	製穴4中穴	銅片	頁岩	黒山山脈		20.0	27.0	3.0	S356
160	52	68	製穴4北平	銅片	頁岩	黒山山脈		26.0	26.5	4.0	S357
161	52	68	製穴4中穴	銅片	頁岩	黒山山脈		36.0	34.5	5.0	S358
162	53	68	土塊27	石塊	頁岩	黒山山脈		46.2	42.3	39.9	S211

機種 品目	型別	出土地点	層位	種類	材質	大形部分	埋没状態		重量(kg)	自由面	備考	
							長さ	幅				
163	53	66	27A3	地山成土	頁岩	東山原		42.8	28.8	57.9	S226	
164	53	66	地山成土	石核	頁岩	北上山地		66.5	63.0	26.5	104.1	S228
166	54	66	埋土位 (埋埋位上)	石核	頁岩	東山原		42.8	69.5	34.2	107.1	S230
166	54	66	埋土位 (埋埋位上)	石核	頁岩	東山原		46.3	71.5	33.2	106.2	S231
167	54	66	埋土位 (埋埋位上)	石核	頁岩	東山原		66.0	39.0	35.5	178.8	S232
168	54	66	埋土位 (埋埋位上)	石核	頁岩	東山原		56.8	46.7	41.8	139.2	S237
169	55	69	25B1	地山成土	頁岩	東山原		77.3	56.0	37.5	168.3	S242
170	56	69	22D1	地山成土	磨製石片	早稲田原遺跡	刃部	41.9	134.1	11.2	31.1	S249
171	56	69	28C3	地山成土	磨製石片	東山原	基部	65.6	68.2	13.3	28.4	S250
172	56	69	28C4	地山成土	磨製石片	東山原	基部	78.5	36.0	39.0	83.3	S31
173	56	69	28C7 (埋土・4付皮)	埋埋位上	はら丸石	北上山地	刃部	67.7	45.0	20.0	114.0	S32
174	56	69	40C2	埋埋位上	磨製石片	北上山地	刃部	69.5	52.8	35.5	230.6	S34
175	56	69	28E1	地山成土	頁岩	北上山地		85.3	37.9	13.6	62.7	S31
176	57	70	埋 14	石核	ホルンフェルス	東山原基盤		23.0	131.8	52.6	1164.3	S272
177	57	69	21J3	地山成土	ホルンフェルス	東山原基盤		149.9	84.4	23.3	292.1	S273
178	57	69	20J4 無爪痕	石核	赤岩	一四石原山町	刃部	109.0	174.5	19.5	218.0	S27
179	57	70	20J4	埋埋位上	ホルンフェルス	東山原基盤	基部	144.0	474.0	64.0	944.8	S28
180	57	70	埋土位 (埋埋位上)	磨製石	ホルンフェルス	東山原基盤		121.5	73.5	44.0	385.5	S275
181	58	70	土坑 8 S2	埋土	頁岩	北上山地		95.0	63.5	30.3	383.6	S26
182	58	70	29H2	埋埋位上	安山岩	東山原		135.0	50.5	66.0	726.0	S41
183	58	70	23M4	埋埋位上	ホルンフェルス	東山原基盤	基部	60.3	144.0	66.5	326.6	S42
184	58	70	28C2 磨製アラン状燧石	埋埋位上	燧石	東山原		157.0	63.8	69.1	731.4	S296
185	58	70	埋 2 P12	埋土	炭灰岩	東山原		148.3	75.9	87.3	1088.9	S297
186	58	70	埋 5	埋土	ホルンフェルス	東山原基盤		103.5	51.4	56.7	381.1	S298
187	59	70	土坑 22	埋土	炭灰岩	東山原		135.5	82.1	69.0	1019.4	S299
188	59	70	24J2	地山成土	炭灰岩	東山原	基部	415.6	63.0	76.8	68.2	S311
189	59	70	28C2	地山成土	燧石	東山原		169.2	56.0	60.4	802.7	S319
190	60	71	中央区基盤トロンチ中穴部	埋埋位上	ホルンフェルス	東山原基盤		171.5	47.0	25.0	202.7	S30
191	59	71	埋 4	埋土	炭灰岩	東山原	基部	60.5	55.0	28.5	167.1	S40
192	59	71	埋 5	埋土	ホルンフェルス	東山原基盤		141.7	63.4	48.6	838.9	S276
193	60	71	埋 14	埋土	頁岩	東山原		49.4	43.2	43.8	99.9	S279
194	60	71	埋 5	埋土	燧石	東山原		69.1	66.0	30.8	133.3	S289
195	60	71	埋 14	埋土	炭灰岩	東山原		106.2	100.8	32.0	429.5	S282
196	60	71	埋 25 (2211)	埋土	炭灰岩	東山原	基部	43.7	66.5	16.2	61.7	S29
197	61	71	埋 43	埋土	燧石	東山原	基部	426.6	404.6	86.8	600.0	S301
198	61	71	土坑 41	埋土	安山岩	東山原	基部	431.2	1163.0	157.8	1010.0	S332
199	61	71	土坑 20J2	埋土	安山岩	東山原		223.6	118.2	194.8	400.0	S335
200	62	72	土坑 8 S3	埋土上面	炭灰岩	東山原	基部	1057.9	102.0	67.20	1007.6	S43
201	62	72	土坑 8 S1	埋土上面	燧石	東山原	基部	494.0	116.0	1120.0		S346

第7表 土製品観察表 (202～204)

調査 No.	国	写真	出土地点	部位	形状・寸法	重量 (g)	長さ (cm)	口径 (cm)	口径比	種類	土質	断面 (mm)	長さ (cm)	重量 (g)	内面調査・断面など		時期	備考		
															外周調査・断面など	内面調査・断面など				
202	62	72	土坑49	埋土上位 (黄褐色土)	1	1	土製品	円筒状土製品	3.9	4.3	0.6	90			底面から約10cm、中央に凸孔有り (内径約4cm)。底面、滑面、筒文上段 (側)、全周を打ち欠いている。単色黒漆か。		縄文前～中葉	93		
203	-	72	土坑33	埋土	1	1	土製品	焼成磁土塊	2.0	1.6	1.3	25							95	
204	-	72	土坑75	埋土	2	2	土製品	焼成磁土塊	4.2	2.8	2.5	18.5								96

第8表 石製品観察表 (205～207)

調査 No.	国	写真	出土地点	部位	種類	石質	重量 (g)	長さ (cm)	口径 (cm)	口径比	断面 (mm)	長さ (cm)	重量 (g)	内面調査・断面など		時期	備考	
														外周調査・断面など	内面調査・断面など			
205	62	72	土坑59	埋土 S1	石製品	赤ムツェルム	106.9	10.9	47.6	129.1	有	129.1	有	断面小				S30
206	62	72	土坑85	埋土	石製品	板状岩	64.9	27.5	26.6	84.7		84.7		G様				S31
207	62	72	3914	埋土位上	石製品	板状岩	462.9	21.2	5.8	12.8		12.8		石刀				S32

第9表 陶磁器観察表 (208～213)

調査 No.	国	写真	出土地点	部位	形状・寸法	重量 (g)	口径 (cm)	口径比	長さ (cm)	断面 (mm)	長さ (cm)	重量 (g)	内面調査・断面など		時期	備考				
													外周調査・断面など	内面調査・断面など						
208	63	72	2113	埋土直上	1	1	磁器	碗	中厚	16番記	口縁部付袋～ 体部上下	-	-	61番	透明釉、軟付	透明釉	白色	白色	現代	98
209	63	72	北区東郷以南トレス ナ中穴付袋	表土下褐色土	1	1	陶器	碗	大形粗高	15番記浅平小	体部下平	-	-	62番	下部の高気焼を兼ねる	灰釉	淡黄色	灰色		100
210	63	72	2212	埋土直上	1	1	陶器	碗	大形粗高	15番記浅平小	口縁部～ 体部上下	-	-	62番	灰釉	灰釉	灰色	黄褐色		99
211	63	72	2213	埋土直上	1	1	磁器	碗	肥前小	15番記浅平～ 19番記付袋	口縁部～ 体部上下	-	-	63番	透明釉、面焼、二重顔付 文	透明釉	淡黄色	白色		101
212	63	72	2210	埋土	1	1	陶器	肥前小	大形粗高	15番記浅平小	体部上下	-	-	63番	灰釉	黒釉	灰色	黄褐色		97
213	63	72	2214	埋土	1	1	素焼	口筒小	口筒小	19番記小	片口部分～ 底面	-	-	63番	ロータ風筒、口縁部に比 例1.5倍、底部は少凹形、 筒状ナブ内面調査	黄褐色	黄褐色	黄褐色		65

## VI 自然科学的分析

### 1 放射性炭素年代測定 (AMS 測定)

(株) 加速器分析研究所

#### (1) 測定対象試料

二子城跡 (県企業局) は、岩手県北上市二子町坊館地内 (北緯 39° 20' 08"、東経 141° 08' 08") に所在し、北上川右岸の河岸段丘上 (標高 78~80m) に立地する。測定対象試料は、堅穴や土坑から出土した炭化物 7 点である (表 1)。

推定年代は、FJ-2 が縄文時代後期前葉、FJ-3~7 が縄文時代晩期前葉と考えられ、FJ-1 については縄文時代早期中葉の可能性が指摘されている。

#### (2) 測定の意義

遺構の廃絶時期を明らかにする。

#### (3) 化学処理工程

(1) メス・ピンセットを使い、土等の付着物を取り除く。

(2) 酸-アルカリ-酸 (AAA: Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1 mol/l (1 M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001 M から 1 M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1 M に達した時には「AAA」、1 M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。

(3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を発生させる。

(4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。

(5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。

(6) グラファイトを内径 1 mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

#### (4) 測定方法

加速器をベースとした <sup>14</sup>C-AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、<sup>14</sup>C の計数、<sup>13</sup>C 濃度 (<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C 濃度 (<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C) の測定を行う。測定では、米国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

#### (5) 算出方法

(1) δ<sup>13</sup>C は、試料炭素の <sup>13</sup>C 濃度 (<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (表 1)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

(2) <sup>14</sup>C 年代 (Libby Age: yrBP) は、過去の大気中 <sup>14</sup>C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0 yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。<sup>14</sup>C 年代は δ<sup>13</sup>C によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、

補正していない値を参考値として表2に示した。 $^{14}\text{C}$ 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 $^{14}\text{C}$ 年代の誤差( $\pm 1\sigma$ )は、試料の $^{14}\text{C}$ 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

(3) pMC (percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の $^{14}\text{C}$ 濃度の割合である。pMCが小さい( $^{14}\text{C}$ が少ない)ほど古い年代を示し、pMCが100以上( $^{14}\text{C}$ の量が標準現代炭素と同等以上)の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。

(4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の $^{14}\text{C}$ 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の $^{14}\text{C}$ 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$ 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差( $1\sigma = 68.2\%$ )あるいは2標準偏差( $2\sigma = 95.4\%$ )で表示される。グラフの縦軸が $^{14}\text{C}$ 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない $^{14}\text{C}$ 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース(Reimer et al. 2013)を用い、OxCalv4.3較正プログラム(Bronk Ramsey 2009)を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$ 年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

## (6) 測定結果

測定結果を表1、2に示す。

試料7点の測定結果は大きく2群に分かれる。

FJ-1、2、7の3点の $^{14}\text{C}$ 年代は、FJ-1、2が $3700 \pm 30\text{yrBP}$ 、FJ-7が $3730 \pm 30\text{yrBP}$ である。暦年較正年代( $1\sigma$ )は、最も古いFJ-7が $2196 \sim 2045\text{cal BC}$ の間に3つの範囲、最も新しいFJ-2が $2135 \sim 2036\text{cal BC}$ の間に2つの範囲で示され、縄文時代後期前葉頃に相当する(小林編2008、小林2017)。推定年代に対して、FJ-2は一致するが、FJ-1は新しく、FJ-7は古い値となった。

FJ-3～6の4点の $^{14}\text{C}$ 年代は、 $3060 \pm 30\text{yrBP}$ (FJ-5)から $2930 \pm 20\text{yrBP}$ (FJ-3)の間にまとまる。暦年較正年代( $1\sigma$ )は、最も古いFJ-5が $1387 \sim 1281\text{cal BC}$ の間に2つの範囲、最も新しいFJ-3が $1208 \sim 1110\text{cal BC}$ の範囲で示され、FJ-5が縄文時代後期後葉から晩期初頭頃、他の3点が縄文時代晩期初頭頃に相当する(小林編2008、小林2017)。推定年代に対して、おおむね一致するか、若干古い値となった。

試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

## 文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360  
 小林謙一 2017 縄文時代の実年代 一土器型式編年と炭素14年代一, 同成社  
 小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション  
 Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887  
 Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

表 1. 放射性炭素年代測定結果( $\delta^{13}\text{C}$  補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAA-190830	FJ-1	壘穴2 埋土	炭化材	AAA	-27.83 ± 0.47	3,700 ± 30	63.06 ± 0.22
IAA-190831	FJ-2	壘穴3 埋土	炭化材	AAA	-25.06 ± 0.46	3,700 ± 30	63.10 ± 0.21
IAA-190832	FJ-3	土坑31 埋土下位	炭化材	AAA	-25.72 ± 0.44	2,900 ± 20	85.38 ± 0.21
IAA-190833	FJ-4	土坑50 埋土	炭化材	AAA	-27.54 ± 0.42	2,970 ± 20	84.91 ± 0.21
IAA-190834	FJ-5	土坑60 底面	炭化材	AAA	-22.97 ± 0.33	3,060 ± 30	85.98 ± 0.22
IAA-190835	FJ-6	土坑78 埋土	炭化材	AAA	-27.61 ± 0.49	2,960 ± 20	83.85 ± 0.21
IAA-190836	FJ-7	土坑84 埋土	炭化材	AAA	-26.96 ± 0.49	3,730 ± 30	85.61 ± 0.20

[IAA登録番号: #9796]

表 2. 放射性炭素年代測定結果( $\delta^{13}\text{C}$  未補正值、暦年較正用  $^{14}\text{C}$  年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAA-190830	3,750 ± 30	62.70 ± 0.21	3,700 ± 27	2138±1BC - 2114±1BC (18.1%) 2100±1BC - 2038±1BC (50.1%)	2150±1BC - 2023±1BC (86.4%) 1983±1BC - 1985±1BC ( 0.4%)
IAA-190831	3,700 ± 30	63.09 ± 0.21	3,698 ± 27	2135±1BC - 2113±1BC (17.6%) 2101±1BC - 2036±1BC (50.6%)	2196±1BC - 2170±1BC ( 6.0%) 2146±1BC - 2020±1BC (87.8%) 1993±1BC - 1983±1BC ( 1.6%)
IAA-190832	2,950 ± 30	69.29 ± 0.20	2,934 ± 24	1208±1BC - 1110±1BC (68.2%)	1216±1BC - 1050±1BC (95.4%)
IAA-190833	3,010 ± 20	68.72 ± 0.20	2,970 ± 24	1236±1BC - 1196±1BC (52.4%) 1147±1BC - 1128±1BC (15.8%)	1266±1BC - 1114±1BC (95.4%)
IAA-190834	3,030 ± 20	68.59 ± 0.21	3,061 ± 25	1387±1BC - 1339±1BC (38.6%) 1319±1BC - 1281±1BC (29.6%)	1408±1BC - 1260±1BC (95.4%)
IAA-190835	3,000 ± 20	68.84 ± 0.20	2,955 ± 24	1211±1BC - 1127±1BC (68.2%)	1259±1BC - 1245±1BC ( 2.3%) 1234±1BC - 1074±1BC (92.0%) 1065±1BC - 1057±1BC ( 1.1%)
IAA-190836	3,760 ± 20	62.63 ± 0.19	3,726 ± 25	2196±1BC - 2171±1BC (18.4%) 2146±1BC - 2127±1BC (14.8%)	2201±1BC - 2110±1BC (51.1%) 2105±1BC - 2036±1BC (44.3%)

[ 参考文献 ]

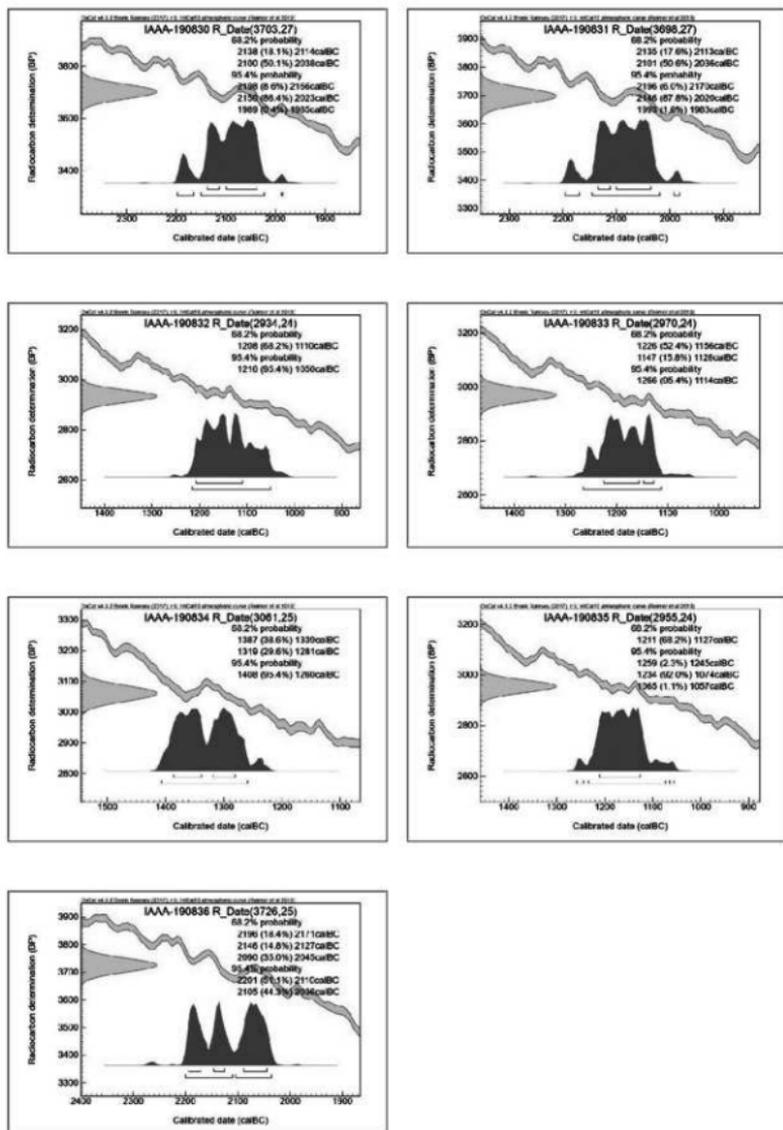


図 1. 暦年較正年代グラフ(参考)

## Ⅶ 調査のまとめ

### 1 縄文時代

今回の調査から、後期前葉の竪穴住居跡2棟と晩期前葉、晩期後葉の竪穴住居跡各1棟の計4棟が確認された。第9図に示した通り、隣接する過去の調査範囲でも竪穴住居跡が見つかっており、昭和63年の坊館跡調査から後期後葉1棟と後期末葉～晩期初頭1棟の計2棟、平成元年の物見崎遺跡調査から前期前葉14棟と後期2棟、弥生時代初頭2棟の計18棟が確認されている。今回の調査で確認した西側の深い谷は、物見崎遺跡の東から南側にも回り込むように入っていることから、谷を挟んで北西側には前期前葉を中心とする物見崎遺跡の集落、南東側には後～晩期を中心とする昭和63年の坊館跡と今回の調査区が広がると考えられる。ただ、昭和63年検出の竪穴住居跡を含めた南東側の遺構密度は低く、東側に偏る。また、土器埋設遺構や土坑についても、北東から南西にかけて標高が高い79.0～80.0mの尾根から川側にかけて多く分布している。陥し穴状遺構は、平面形状から方形基調が早期、円形基調が前期初頭～前葉、溝状基調が中～後期に分けられる。方形基調は南区中央の標高79.0～80.0m付近、円形基調は中央区から南区にかけての標高の高い79.0～80.0mの尾根部分、溝状基調は北区、中央区から南区の尾根部分から東側に集中して認められる。

出土遺物は多くないが、土器の量に比べて石器が多く見つかっており、特に晩期後葉の竪穴4のように、石器製作に関わると見られる遺構も確認されている。また、石器の中では縄石器の占める割合が高く、石器製作とともに革鞣し作業が集中して行われたと推測され、川辺の集落の営みを垣間見ることができる。

### 2 古代～中世

古代の竪穴の一部と考えられる竪穴5は南区南端から確認されたが、過去の隣接する遺跡調査でも見つかっておらず集落の様相は明らかでない。竪穴5の南側も中世の普請か切り土となっており、集落の広がりが遺跡南側から認められるかは、中世の普請の影響も関係すると考えられる。今回の調査区と、昭和52、63年の調査区は坊館跡の中心域を調査したことになるが、大規模な堀など普請の痕跡や竪穴建物や掘立柱建物など作事遺構は確認されなかった。伝承によれば、和賀氏の祖先が居城を更木から飛勢ヶ森に移した時、坊館の場所に「正法寺」を建立したとされるが、調査からは寺院跡を思わせる痕跡は認められていない。ただ、中世二子城本体の八幡山と秋葉山の北側に立地する環境から見れば、搦手口を守る防衛上の要地であったことは確かであろう。二子城を構成する家臣屋敷と伝えられる加賀館や監物館、筒井内膳屋敷に囲まれ、西から北側、また南側を深い谷で区切られる立地と調査区南側の現況から認められる曲輪、土塁、堀から、城館を想定しても差し支えないだろう。今後、南側の様相が明らかになれば、今回の調査範囲の防衛上の意味も明らかになると考えられる。(北田)

#### 参考文献

- 北上市教育委員会 1977『二子城跡坊館遺跡調査報告書』文化財調査報告第21集  
(財)岩文庫 1989『坊館跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第145集  
(財)岩文庫 1990『物見崎遺跡・監物館跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第157集